令和元年度

男女共同参画に関する
市　民　意　識　調　査
報　告　書

令和元年 10 月

燕　市
企画財政部地域振興課

目　次

Ⅰ　調査の概要 1

Ⅱ　調査結果の概要 4

１．男女の地位の平等について 4
(1)男女の地位の平等感について 4
２．家庭生活等に関する考え方について 25
(1)男性は仕事、女性は家庭という考え方 25
３．仕事と生活の調和（ワーク･ライフ･バランス）について 35
(1)生活時間について 35
(2)男性の育児休業・介護休業の取得について 48
(3)育児休業・介護休業が取りづらい理由 52
４．女性の社会参画について 54
(1)女性の職業と生活設計についての考え方 54
(2)女性が働き続けるために必要なこと 56
５．男女の人権について 58
(1)ドメスティック・バイオレンスの経験 58
(2)ドメスティック・バイオレンスに関する相談状況 60
(3)ドメスティック・バイオレンスに関する相談先 61
(4)ドメスティック・バイオレンスに関する相談をしなかった理由 62
６．男女共同参画社会に向けた法制度等について 64
(1)男女共同参画社会に関する言葉の認知度 64
(2)男女共同参画社会推進のために市が力を入れるべきことについて 68

（付）調　査　票

Ⅰ　調査の概要

１ 調査の目的

燕市男女共同参画推進条例に基づく「第３次男女共同参画推進プラン（平成 29 年度～令和 4 年度)」の中間年にあたり、男女共同参画に関する市民の意識と実態を把握するとともに、同プランの推進状況を確認することを目的に実施しました。

２ 調査項目

(1) 男女の地位の平等について
(2) 家庭生活等に関する考え方について
(3) 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）について
(4) 女性の社会参画について
(5) 男女の人権について
(6) 男女共同参画社会に向けた法制度等について
(7) ご意見・ご要望等
(8) 回答者の属性

３ 調査の設計

(1) 調査地域：燕市全域
(2) 調査対象：満 18 歳以上の男女
(3) 標 本 数：2,000 人（住民基本台帳から無作為抽出）
(4) 調査方法：郵送法（配布・回収とも）
(5) 調査期間：令和元年 6 月 5 日～6 月 19 日

４ 回収結果

有効回収数（率）＝　833（41.65%）

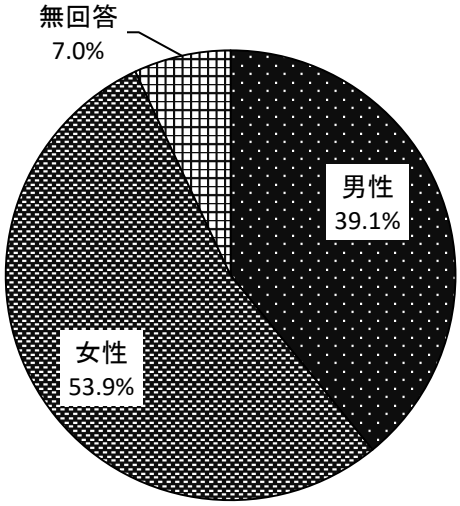
５ 報告書の見方

(1) 結果は百分率（%）で表示し、小数点以下第２位を四捨五入して算出しました。四捨五入の結果、個々の比率の合計が100%にならないことがあります。
また、複数回答の質問(２つ以上の回答を認めた質問)では、合計が100%を超えることがあります。
(2) 図表中の「n」とは回答者総数(または該当者質問での該当者数)のことで、100%が何人の回答に相当するかを示す比率算出の基数です。
(3) 性別および年齢について無回答の回答者も含まれていますので、全体数と性別、年齢階層別の合計が一致しないことがあります。

6 回答者の構成

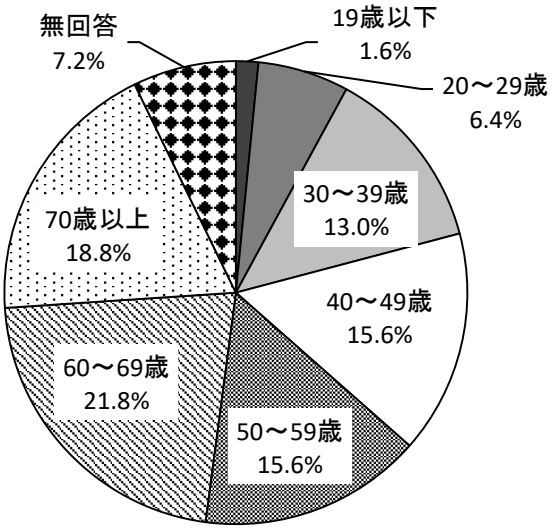
性別

(n=833)



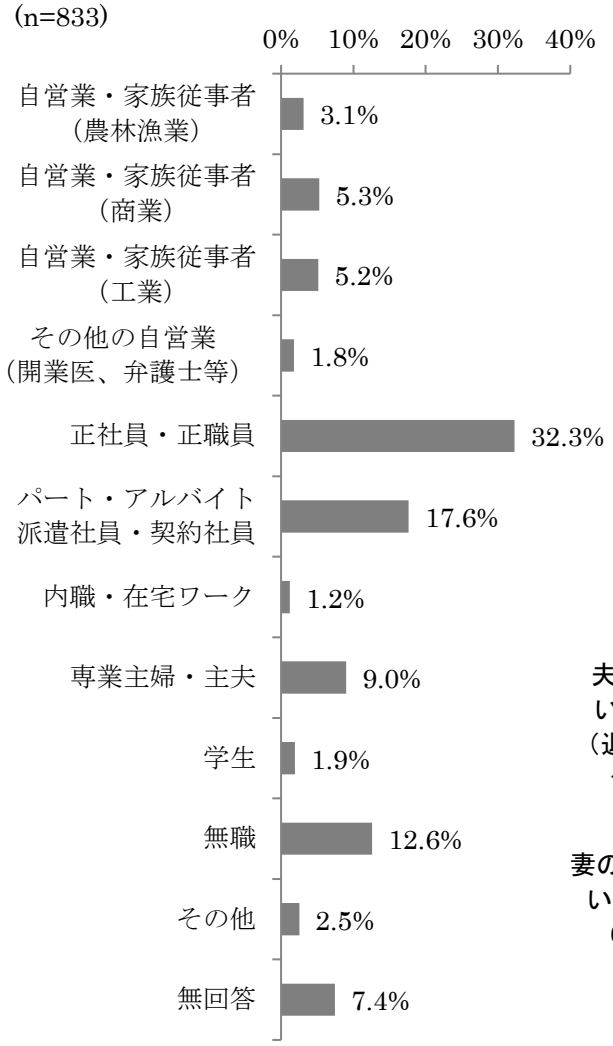
年齢

(n=833)



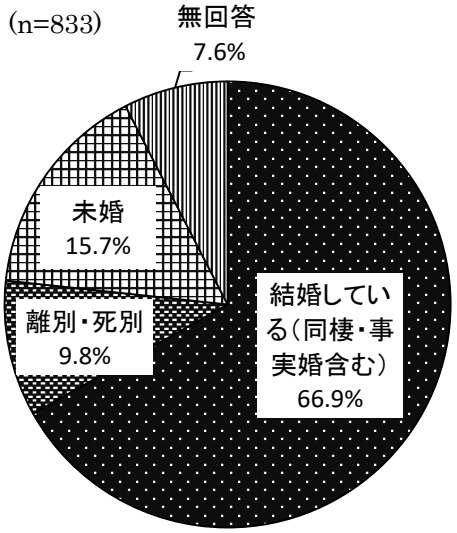
職業

(n=833)



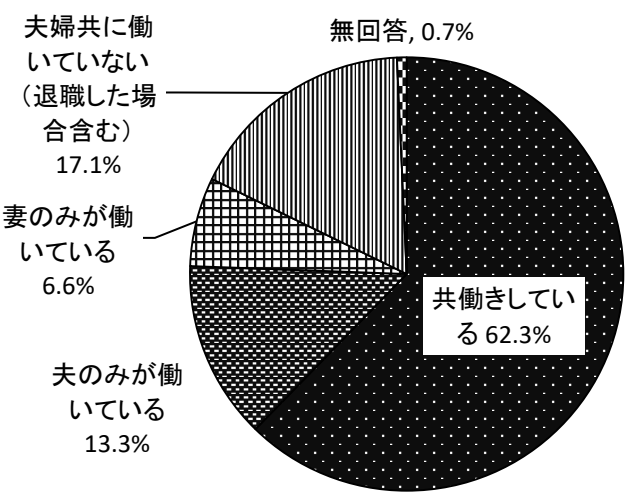
婚姻の状況

(n=833)



共働きの状況

(n=557)



回答者の構成		合計（人）	性別（%）			年齢別（%）							
			男性	女性	無回答	18～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	無回答
全体結果		833	39.1	53.9	7.0	1.6	6.4	13.0	15.6	15.6	21.8	18.8	7.2
性別	男性	326	100.0	0.0	0.0	2.5	6.4	12.6	15.6	18.4	22.1	22.1	0.3
	女性	449	0.0	100.0	0.0	1.1	7.1	14.9	17.6	15.6	24.5	18.9	0.2
	無回答	58	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
年齢別	18～19歳 計	13	61.5	38.5	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	18～19歳 男性	8	100.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	18～19歳 女性	5	0.0	100.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	20～29歳 計	53	39.6	60.4	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	20～29歳 男性	21	100.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	20～29歳 女性	32	0.0	100.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	30～39歳 計	108	38.0	62.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	30～39歳 男性	41	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	30～39歳 女性	67	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	40～49歳 計	130	39.2	60.8	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	40～49歳 男性	51	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	40～49歳 女性	79	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	50～59歳 計	130	46.2	53.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	50～59歳 男性	60	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	50～59歳 女性	70	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	60～69歳 計	182	39.6	60.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
	60～69歳 男性	72	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
	60～69歳 女性	110	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
	70～79歳 計	157	45.9	54.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
	70歳以上 男性	72	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
	70歳以上 女性	85	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
	無回答 計	60	1.7	1.7	96.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	無回答 男性	1	100.0	0.0	0.0	－	－	－	－	－	－	－	－
	無回答 女性	1	0.0	100.0	0.0	－	－	－	－	－	－	－	－
職業別	自営業・家事従事者（農林漁業）	26	57.7	42.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	15.4	38.5	46.2	0.0
	自営業・家事従事者（商業）	44	34.1	65.9	0.0	0.0	0.0	13.6	4.5	13.6	50.0	18.2	0.0
	自営業・家事従事者（工業）	43	67.4	32.6	0.0	0.0	0.0	4.7	7.0	16.3	32.6	39.5	0.0
	その他の自営業（開業医、弁護士等）	15	26.7	73.3	0.0	0.0	13.3	20.0	13.3	26.7	20.0	6.7	0.0
	正社員・正職員	269	56.9	43.1	0.0	0.7	13.0	23.0	26.4	24.2	10.4	2.2	0.0
	パート・アルバイト・派遣社員・契約社員	147	23.1	76.9	0.0	0.0	6.8	17.0	23.8	16.3	26.5	9.5	0.0
	内職・在宅ワーク	10	0.0	100.0	0.0	0.0	10.0	10.0	30.0	20.0	30.0	0.0	0.0
	専業主婦・主夫	75	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	5.3	9.3	13.3	40.0	32.0	0.0
	学生	16	43.8	56.3	0.0	68.8	31.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	無職	105	54.3	45.7	0.0	0.0	0.0	2.9	0.0	3.8	28.6	64.8	0.0
	その他	21	52.4	47.6	0.0	0.0	0.0	9.5	28.6	19.0	14.3	28.6	0.0
	無回答	62	1.6	4.8	93.5	0.0	0.0	0.0	1.6	0.0	0.0	1.6	96.8
婚姻状況別	結婚している（同棲・事実婚含む）	557	42.5	57.5	0.0	0.0	2.3	12.7	18.0	18.3	27.6	20.8	0.2
	離別・死別	82	28.0	72.0	0.0	0.0	1.2	4.9	11.0	15.9	24.4	42.7	0.0
	未婚	131	48.1	51.9	0.0	9.9	29.8	25.2	14.5	10.7	5.3	4.6	0.0
	無回答	63	4.8	3.2	92.1	0.0	0.0	0.0	3.2	1.6	1.6	0.0	93.7
共働きの状況別	共働きしている	347	44.1	55.9	0.0	0.0	3.5	17.3	25.9	24.5	20.7	8.1	0.0
	夫のみが働いている	74	47.3	52.7	0.0	0.0	1.4	14.9	13.5	18.9	31.1	20.3	0.0
	妻のみが働いている	37	32.4	67.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	8.1	62.2	29.7	0.0
	夫婦共に働いていない（退職した場合含む）	95	36.8	63.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	37.9	62.1	0.0
	無回答	4	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	75.0	25.0

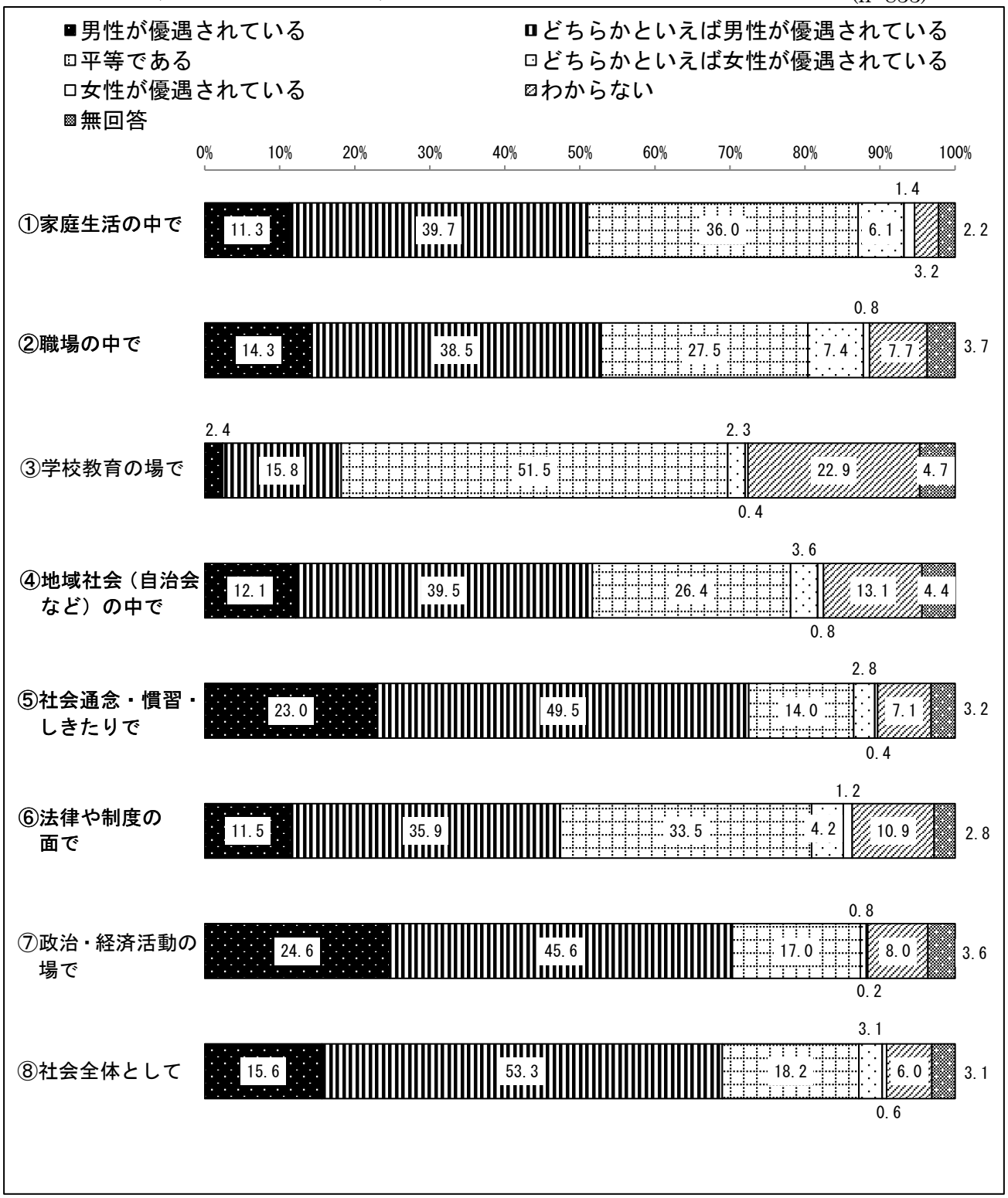
Ⅱ　調査結果の概要

１．男女の地位の平等について

(1) 男女の地位の平等感について

問１　次のような場面・分野において男女の地位の平等について、あなたのお考えに最も近いものはどれですか。①~⑧それぞれの項目ごとに○をつけてください。

（○はそれぞれ１つだけ）　(n=833)



【全体結果】

「平等である」の割合が最も高い項目は、③「学校教育の場で」（51.5%）であり、過半数を占めている。次いで、①「家庭生活の中で」（36.0%）、⑥「法律や制度の面で」（33.5%）、②「職場の中で」（27.5%）となっている。

『男性が優遇されている（「男性が優遇されている」と「どちらかといえば男性が優遇されている」の合計比率、以下同)』では、⑤「社会通念・慣習・しきたりで」(72.5%)、⑦「政治・経済活動の場で」(70.2%)、⑧「社会全体として」(68.9%)、②「職場の中で」(52.8%)、④「地域社会（自治会など）の中で」(51.6%)、①「家庭生活の中で」(51.0%）がいずれも過半数を占めている。

『女性が優遇されている（「女性が優遇されている」と「どちらかといえば女性が優遇されている」の合計比率、以下同)』では、②「職場の中で」(8.2%)、①「家庭生活の中で」(7.5%)、⑥「法律や制度の面で」(5.4%）の順となっている。

【前回調査（平成 27 年度）との比較】

「平等である」の割合が高い項目では、③「学校教育の場で」(51.5%）が4.3ポイント減少したものの１番割合が高く、②「職場の中で」（27.5%）が3.3ポイント増加し、４番目に高い結果となった。

『男性が優遇されている』の割合が高い項目では、全体的には大きく変わらないものの、②「職場の中で」（52.8%）が2.1ポイント減少し、④「地域社会（自治会など）の中で」（51.6%）が2.0ポイント減少した。

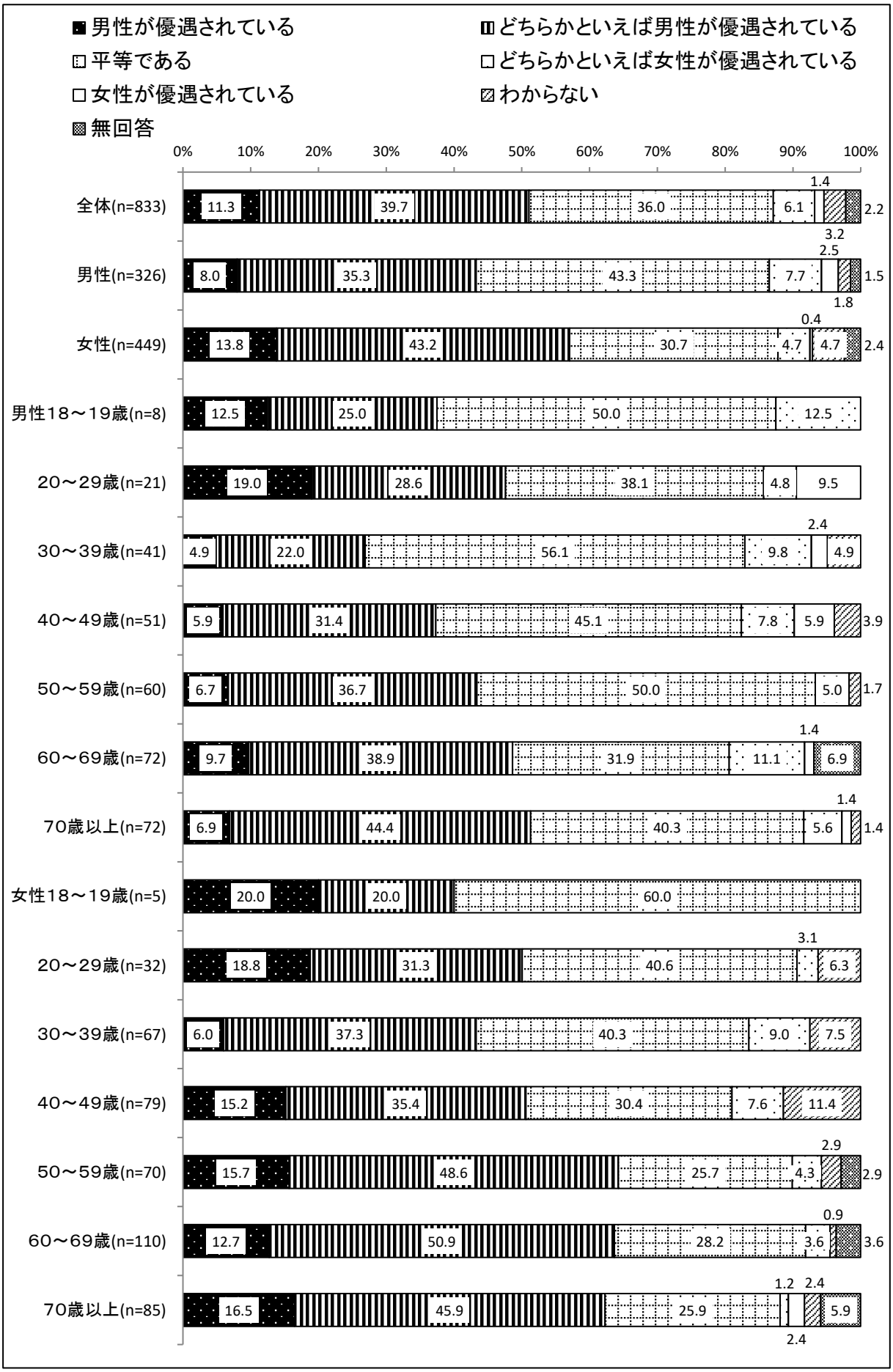
「平等である」の割合が高い項目

H27 年調査（n=860）		今回調査（n=833）	
・学校教育の場で	55.8%	・学校教育の場で	51.5%
・法律や制度の面で	35.6%	・家庭生活の中で	36.0%
・家庭生活の中で	35.6%	・法律や制度の面で	33.5%
・地域社会の中で	25.2%	・職場の中で	27.5%
・職場の中で	24.2%	・地域社会の中で	26.4%

『男性が優遇されている』の割合が高い項目

H27 年調査（n=860）		今回調査（n=833）	
・社会通念・慣習・しきたりで	73.1%	・社会通念・慣習・しきたりで	72.5%
・社会全体として	69.1%	・政治・経済活動の場で	70.2%
・政治・経済活動の場で	68.6%	・社会全体として	68.9%
・職場の中で	54.9%	・職場の中で	52.8%
・地域社会の中で	53.6%	・地域社会の中で	51.6%
・家庭生活の中で	51.4%	・家庭生活の中で	51.0%

① 家庭生活の中で


■男性が優遇されている
▥どちらかといえば男性が優遇されている
▯平等である
□どちらかといえば女性が優遇されている
□女性が優遇されている
▨わからない
▩無回答
0%
10%
20%
30%
40%
50%
60%
70%
80%
90%
100%
全体(n=833) 11.3 39.7 36.0 6.1 1.4 3.2 2.2
男性(n=326) 8.0 35.3 43.3 7.7 2.5 1.8 1.5
女性(n=449) 13.8 43.2 30.7 4.7 0.4 4.7 2.4
男性18～19歳(n=8) 12.5 25.0 50.0 12.5
20～29歳(n=21) 19.0 28.6 38.1 4.8 9.5
30～39歳(n=41) 4.9 22.0 56.1 9.8 2.4 4.9
40～49歳(n=51) 5.9 31.4 45.1 7.8 5.9 3.9
50～59歳(n=60) 6.7 36.7 50.0 5.0 1.7
60～69歳(n=72) 9.7 38.9 31.9 11.1 1.4 6.9
70歳以上(n=72) 6.9 44.4 40.3 5.6 1.4 1.4
女性18～19歳(n=5) 20.0 20.0 60.0
20～29歳(n=32) 18.8 31.3 40.6 3.1 6.3
30～39歳(n=67) 6.0 37.3 40.3 9.0 7.5
40～49歳(n=79) 15.2 35.4 30.4 7.6 11.4
50～59歳(n=70) 15.7 48.6 25.7 4.3 2.9 2.9
60～69歳(n=110) 12.7 50.9 28.2 3.6 0.9 3.6
70歳以上(n=85) 16.5 45.9 25.9 1.2 2.4 5.9 2.4

【全体結果】

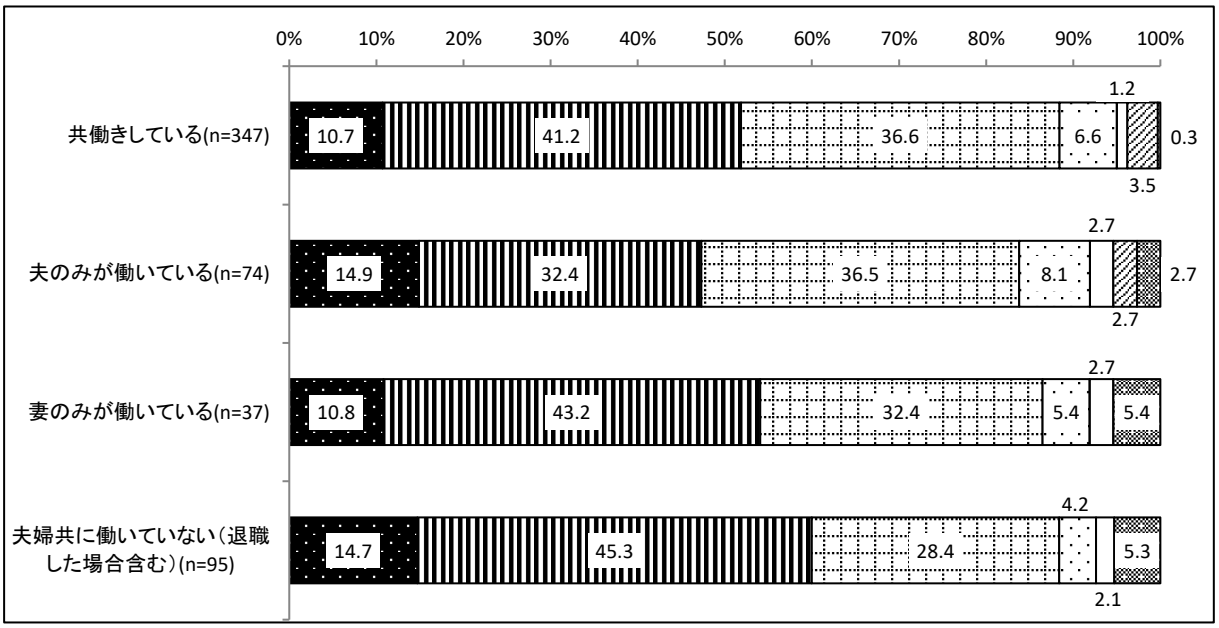
家庭生活における男女の地位の平等感については、「平等である」は 36.0%、『男性が優遇されている』は 51.0%となっている。

【性別・年齢階層別】

「平等である」（男性 43.3%、女性 30.7%）は男性の方が 12.6 ポイント高い。『男性が優遇されている』（男性 43.3%、女性 57.0%）は、女性の方が 13.7 ポイント高い。

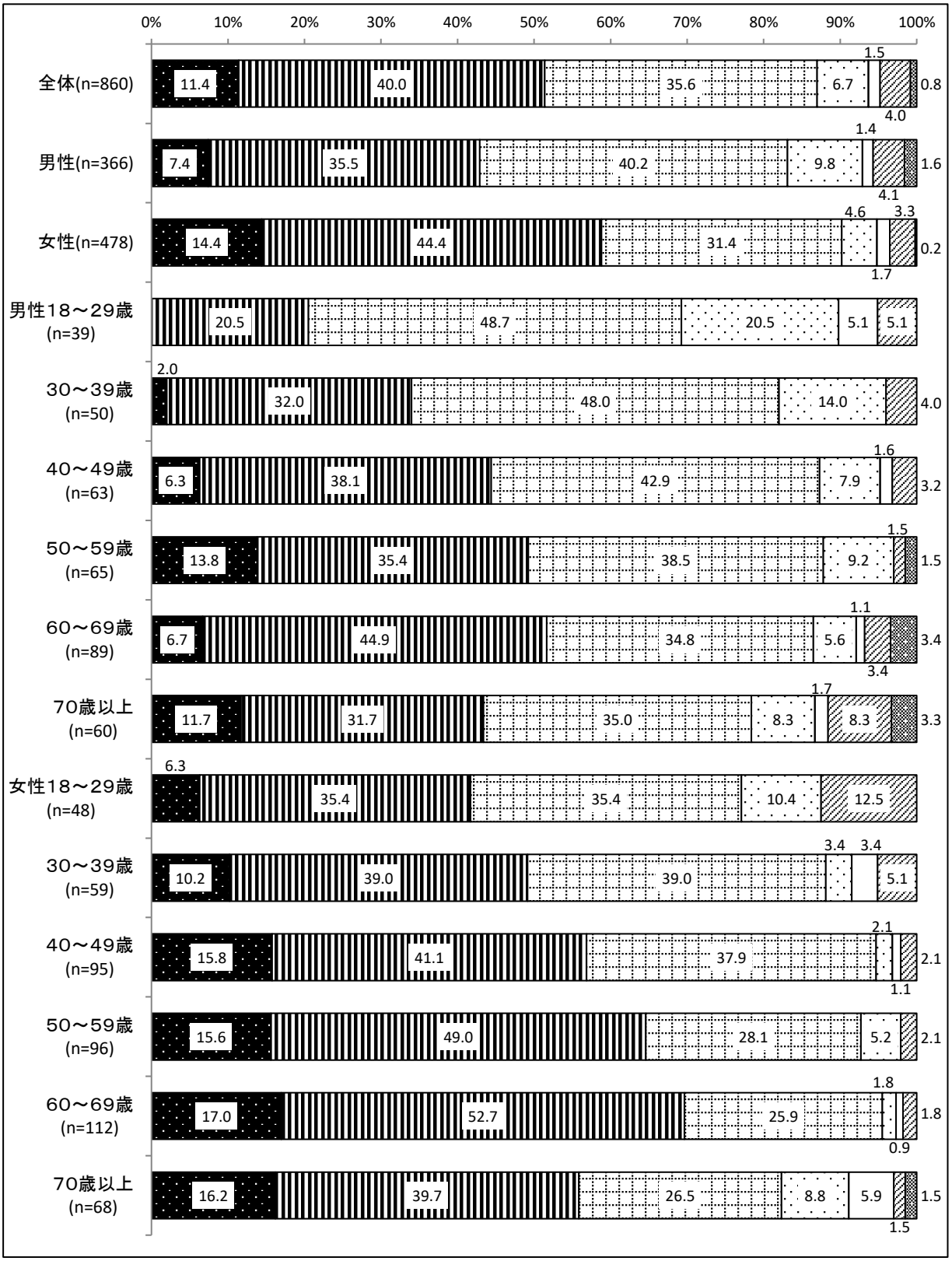
年齢別にみると、10～20 歳代は「平等である」の割合が男性よりも女性の方が高くなっており、その他の年代では女性よりも男性の方が高い傾向が見られた。また、男女ともに中～高齢層で『男性が優遇されている』の割合が高くなっている。

【就労状況別】



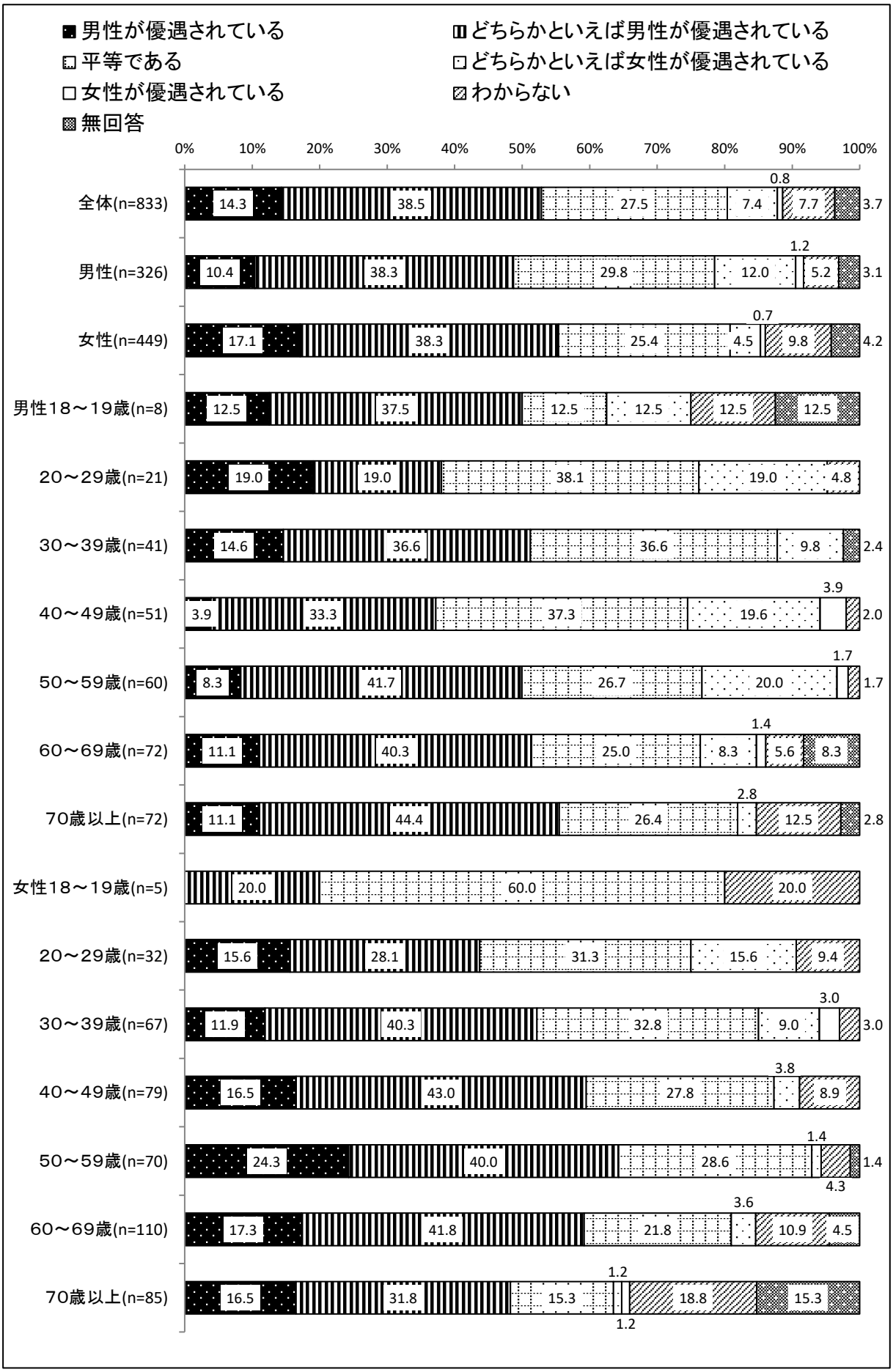
就労状況別にみると、「夫のみが働いている」が『男性が優遇されている（「男性が優遇されている」と「どちらかといえば男性が優遇されている」の合計）』の割合が一番低く（47.3%）、「夫婦共に働いていない」が『男性が優遇されている』の割合が一番高い（60.0%）。

【前回調査（平成 27 年度）との比較】



「平等である」（今回 36.0%、前回 35.6%）は、0.4 ポイント増加、前回との差はほとんど見られない。『男性が優遇されている』（今回 51.0%、前回 51.4%）も前回との差はほとんど見られない。

② 職場の中で


■男性が優遇されている
▥どちらかといえば男性が優遇されている
□平等である
▫どちらかといえば女性が優遇されている
□女性が優遇されている
▨わからない
▩無回答
0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%
全体(n=833) 14.3 38.5 27.5 7.4 0.8 7.7 3.7
男性(n=326) 10.4 38.3 29.8 12.0 1.2 5.2 3.1
女性(n=449) 17.1 38.3 25.4 4.5 0.7 9.8 4.2
男性18～19歳(n=8) 12.5 37.5 12.5 12.5 12.5 12.5
20～29歳(n=21) 19.0 19.0 38.1 19.0 4.8
30～39歳(n=41) 14.6 36.6 36.6 9.8 2.4
40～49歳(n=51) 3.9 33.3 37.3 19.6 3.9 2.0
50～59歳(n=60) 8.3 41.7 26.7 20.0 1.7 1.7
60～69歳(n=72) 11.1 40.3 25.0 8.3 1.4 5.6 8.3
70歳以上(n=72) 11.1 44.4 26.4 2.8 12.5 2.8
女性18～19歳(n=5) 20.0 60.0 20.0
20～29歳(n=32) 15.6 28.1 31.3 15.6 9.4
30～39歳(n=67) 11.9 40.3 32.8 9.0 3.0 3.0
40～49歳(n=79) 16.5 43.0 27.8 3.8 8.9
50～59歳(n=70) 24.3 40.0 28.6 1.4 4.3 1.4
60～69歳(n=110) 17.3 41.8 21.8 3.6 10.9 4.5
70歳以上(n=85) 16.5 31.8 15.3 1.2 18.8 1.2 15.3

【全体結果】

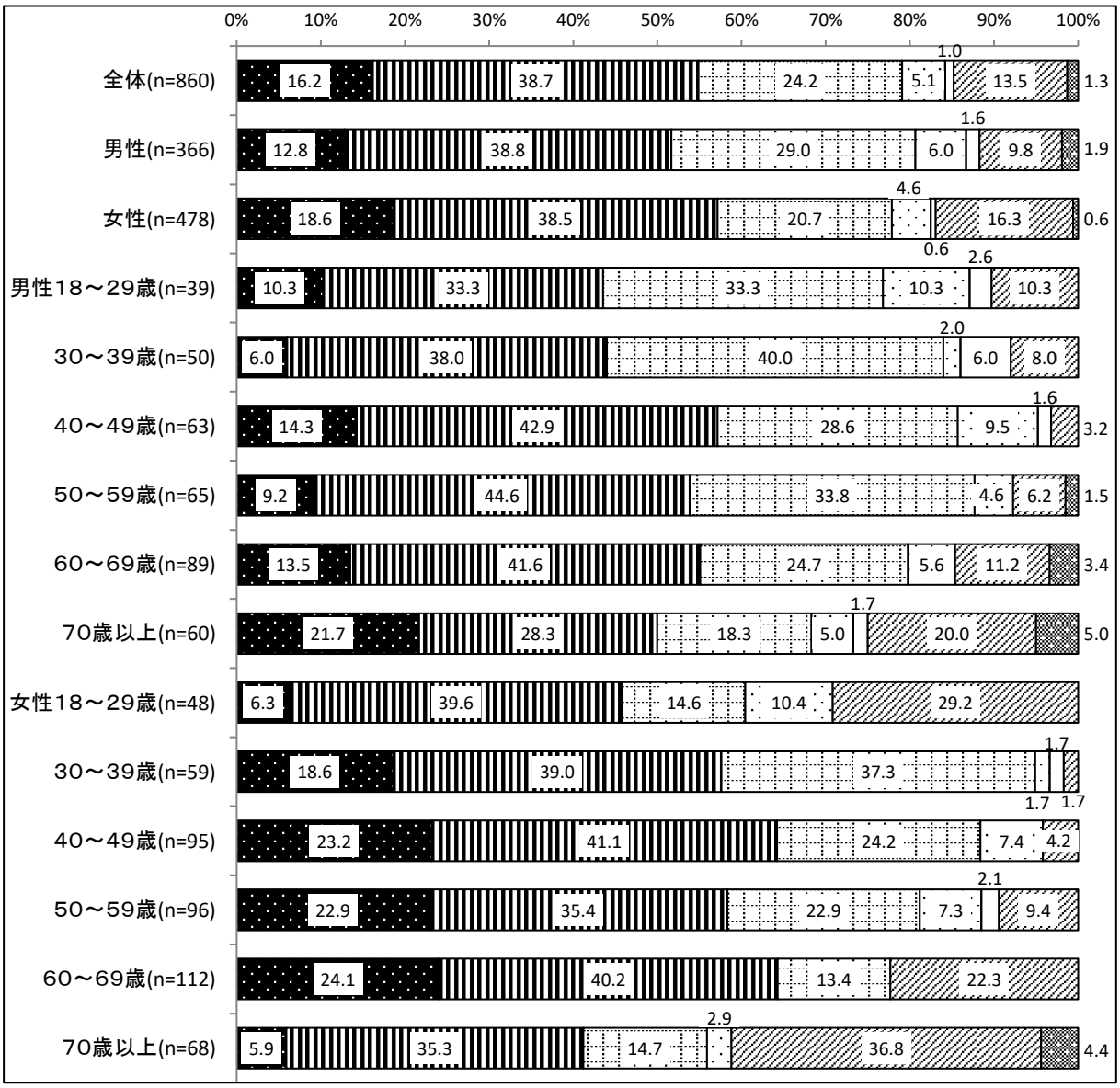
職場における男女の地位の平等感については、「平等である」は 27.5%、『男性が優遇されている』が 52.8%で過半数を占めている。

【性別・年齢階層別】

「平等である」（男性 29.8%、女性 25.4%）は、男性の方が 4.4 ポイント高い。『男性が優遇されている』（男性 48.7%、女性 55.4%）は、女性の方が 6.7 ポイント高い。

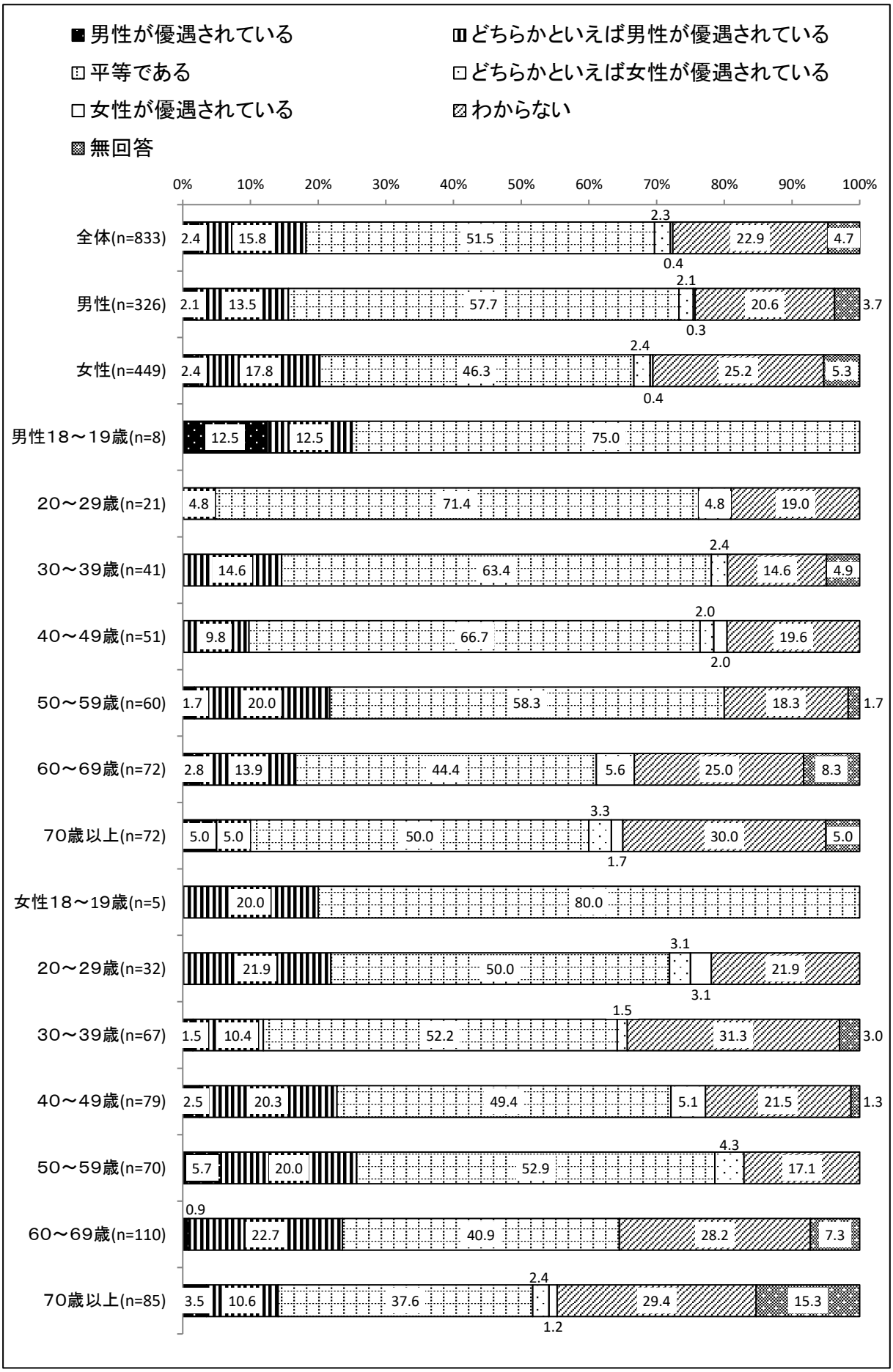
年齢別にみると、「平等である」は、男女ともに若年層において割合が高い傾向にある。『男性が優遇されている』は、30 歳代（男性 51.2%、女性 52.2%）、女性の 40 歳代（59.5%）、女性の 50 歳代（64.3%）、60 歳代（男性 51.4%、女性 59.1%）、男性の 70 歳代（55.5%）で過半数を超えている。

【前回調査（平成 27 年度）との比較】



「平等である」（今回 27.5%、前回 24.2%）は前回よりも 3.3 ポイント増加した。『男性が優遇されている』（今回 52.8%、前回 54.9%）は、前回よりも 2.1 ポイント減少した。

③ 学校教育の場で


■男性が優遇されている
▥どちらかといえば男性が優遇されている
□平等である
▫どちらかといえば女性が優遇されている
□女性が優遇されている
▨わからない
▩無回答
0%
10%
20%
30%
40%
50%
60%
70%
80%
90%
100%
全体(n=833) 2.4 15.8 51.5 2.3 0.4 22.9 4.7
男性(n=326) 2.1 13.5 57.7 2.1 0.3 20.6 3.7
女性(n=449) 2.4 17.8 46.3 2.4 0.4 25.2 5.3
男性18～19歳(n=8) 12.5 12.5 75.0
20～29歳(n=21) 4.8 71.4 4.8 19.0
30～39歳(n=41) 14.6 63.4 2.4 14.6 4.9
40～49歳(n=51) 9.8 66.7 2.0 2.0 19.6
50～59歳(n=60) 1.7 20.0 58.3 18.3 1.7
60～69歳(n=72) 2.8 13.9 44.4 5.6 25.0 8.3
70歳以上(n=72) 5.0 5.0 50.0 3.3 1.7 30.0 5.0
女性18～19歳(n=5) 20.0 80.0
20～29歳(n=32) 21.9 50.0 3.1 3.1 21.9
30～39歳(n=67) 1.5 10.4 52.2 1.5 31.3 3.0
40～49歳(n=79) 2.5 20.3 49.4 5.1 21.5 1.3
50～59歳(n=70) 5.7 20.0 52.9 4.3 17.1
60～69歳(n=110) 0.9 22.7 40.9 28.2 7.3
70歳以上(n=85) 3.5 10.6 37.6 2.4 1.2 29.4 15.3

【全体結果】

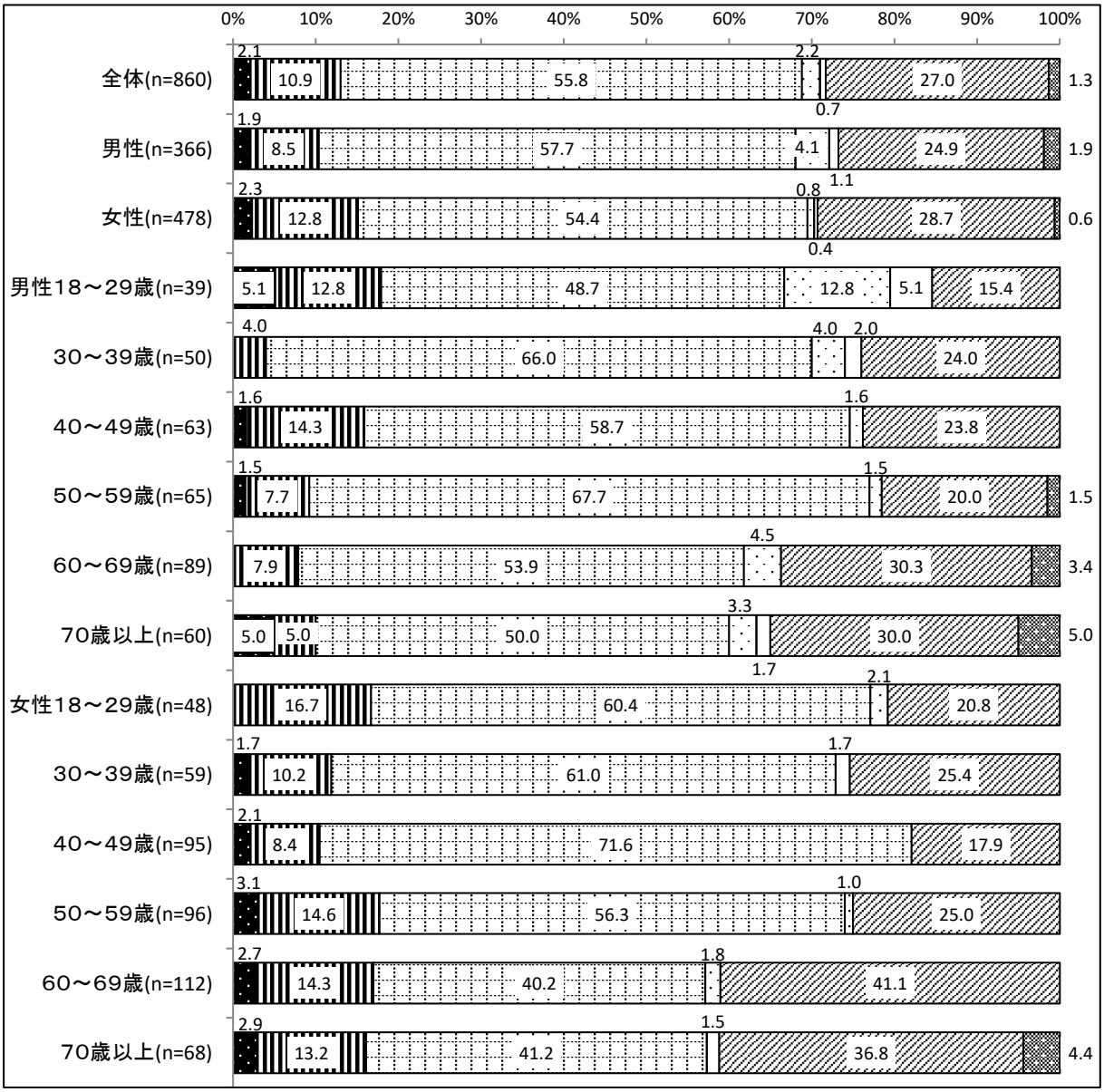
学校教育における男女の地位の平等感については、「平等である」が 51.5%で全８項目の中で最も割合が高い。『男性が優遇されている』は 18.2%、『女性が優遇されている』は 2.7%、「わからない」が 22.9%であった。

【性別・年齢階層別】

「平等である」（男性 57.7%、女性 46.3%）は、男性の方が 11.4 ポイント高い。『男性が優遇されている』（男性 15.6%、女性 20.2%）は、女性の方が 4.6 ポイント高い。

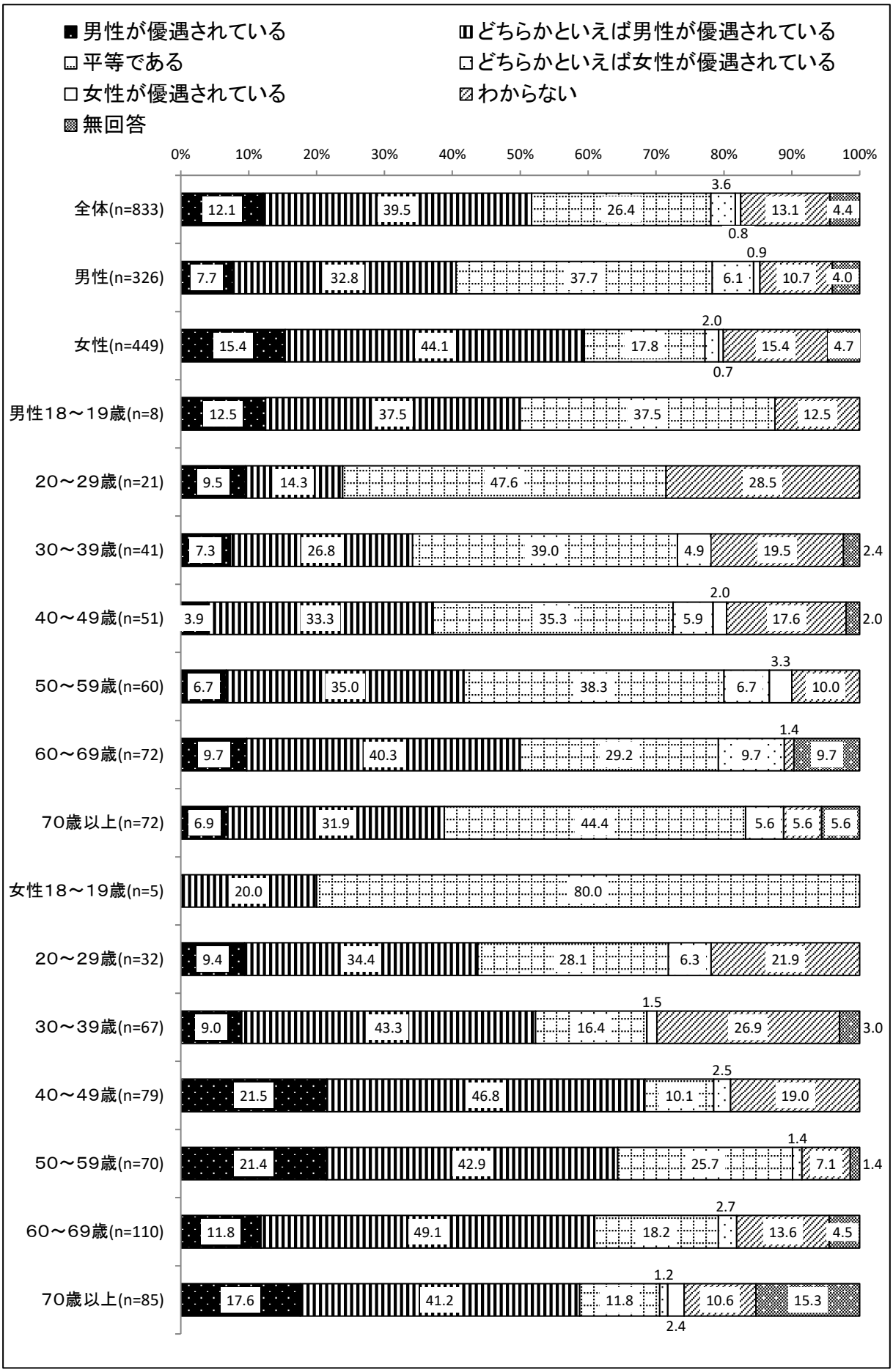
年齢別にみると、「平等である」は、男女ともに 50 歳代以下において高い割合となっており、特に男性の 40 歳代以下においては、「平等である」が 6 割以上を占めている。

【前回調査（平成 27 年度）との比較】



「平等である」（今回 51.5%、前回 55.8%）は 4.3 ポイント減少したが、男性においては 57.7%と前回と変わらず、女性において前回より 8.1 ポイント減少している（今回 46.3%、前回 54.4%）。

④ 地域社会（自治会など）の中で



【全体結果】

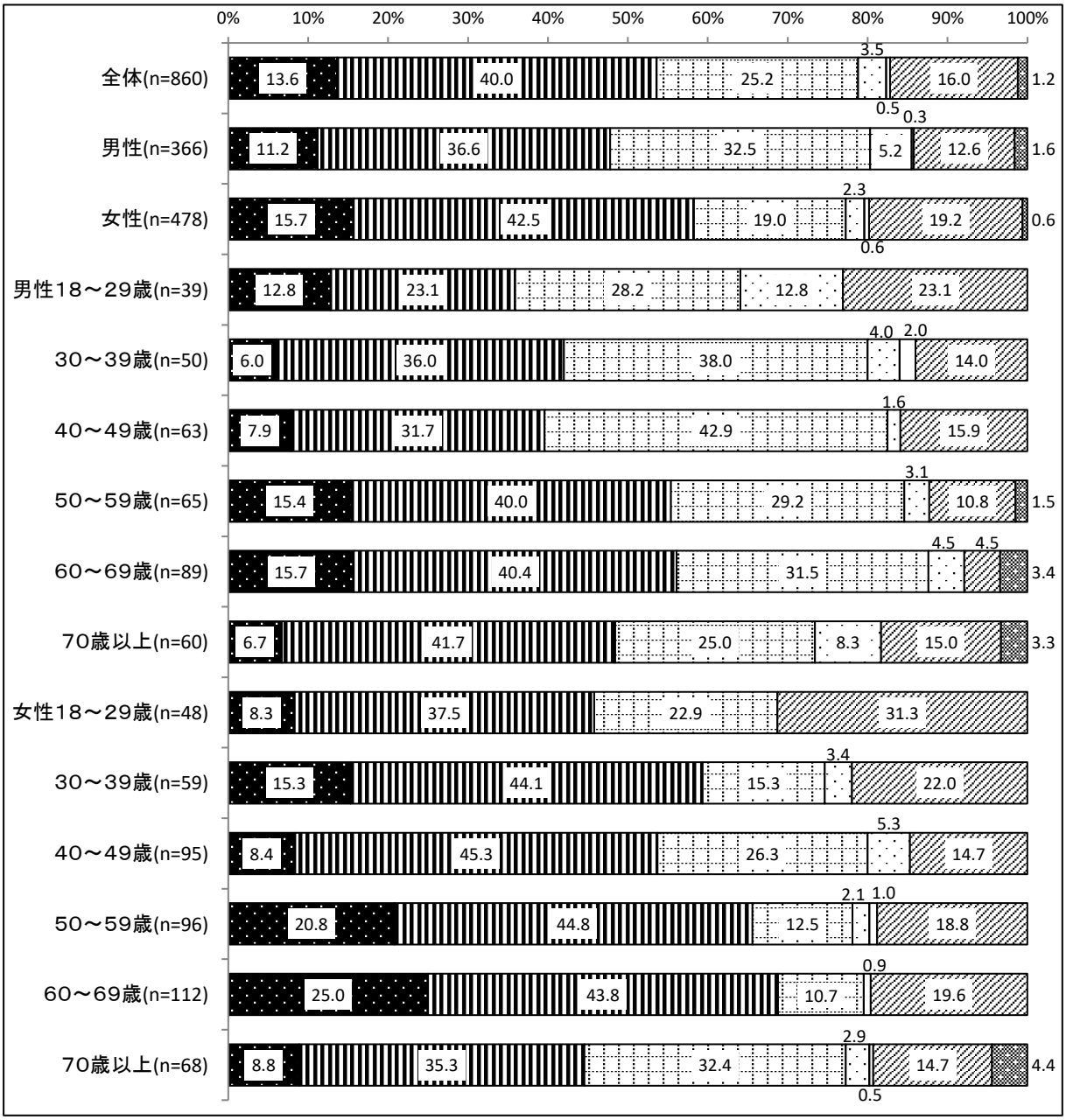
地域社会における男女の地位の平等感については、「平等である」は 26.4%、『男性が優遇されている』が 51.6%と過半数を占めている。

【性別・年齢階層別】

「平等である」（男性 37.7%、女性 17.8%）は、男性の方が 19.9 ポイント高い。『男性が優遇されている』（男性 40.5%、女性 59.5%）は、女性の方が 19.0 ポイント高い。

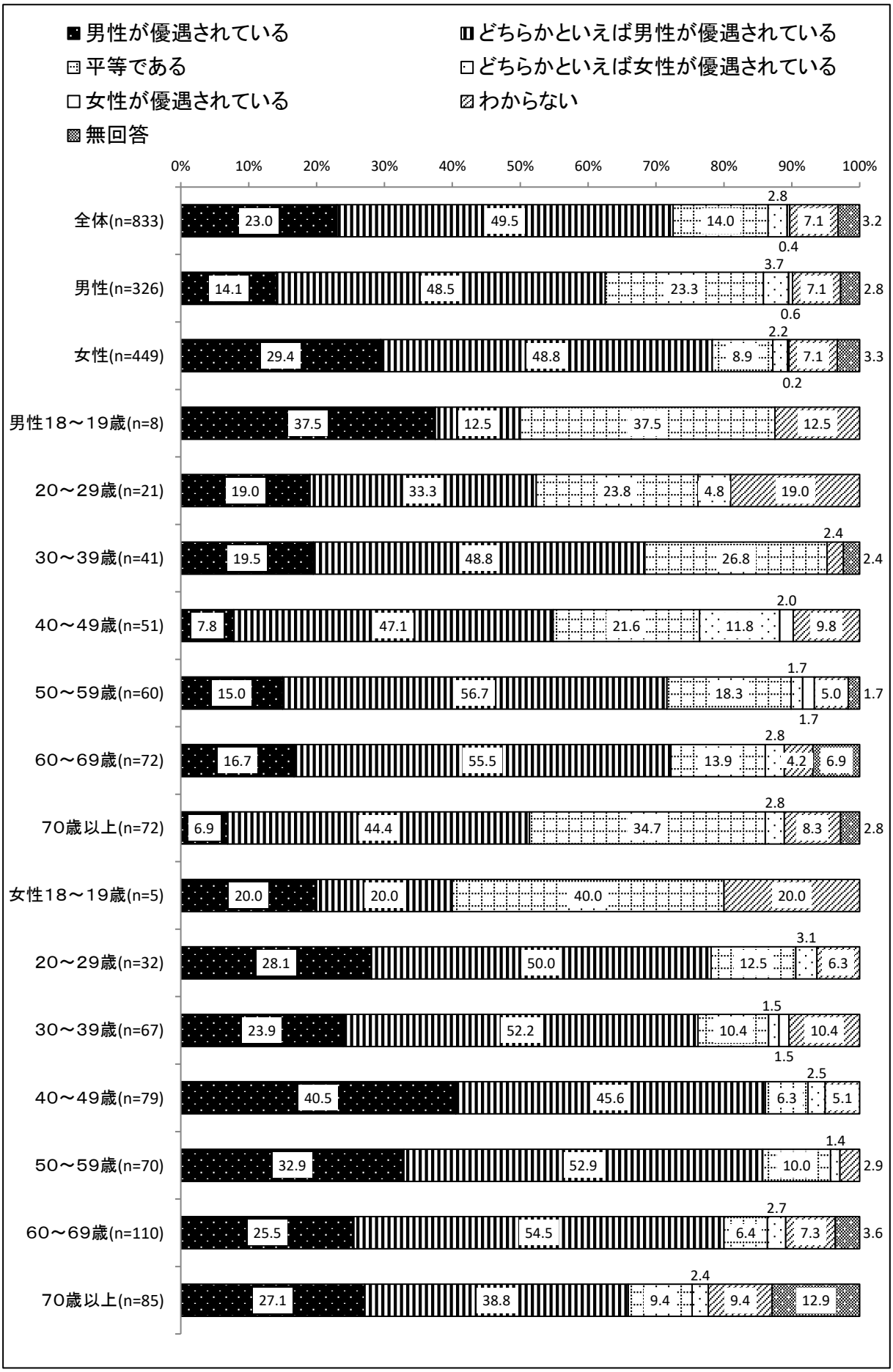
年齢別にみると、『男性が優遇されている』の割合が、男女ともに 40 歳代以上において特に高くなっている。

【前回調査（平成 27 年度）との比較】



「平等である」（今回 26.4%、前回 25.2%）は前回より 1.2 ポイント増加し、『男性が優遇されている』（今回 51.6%、前回 53.6%）が 2.0 ポイント減少した。

⑤ 社会通念・慣習・しきたりの中で



【全体結果】

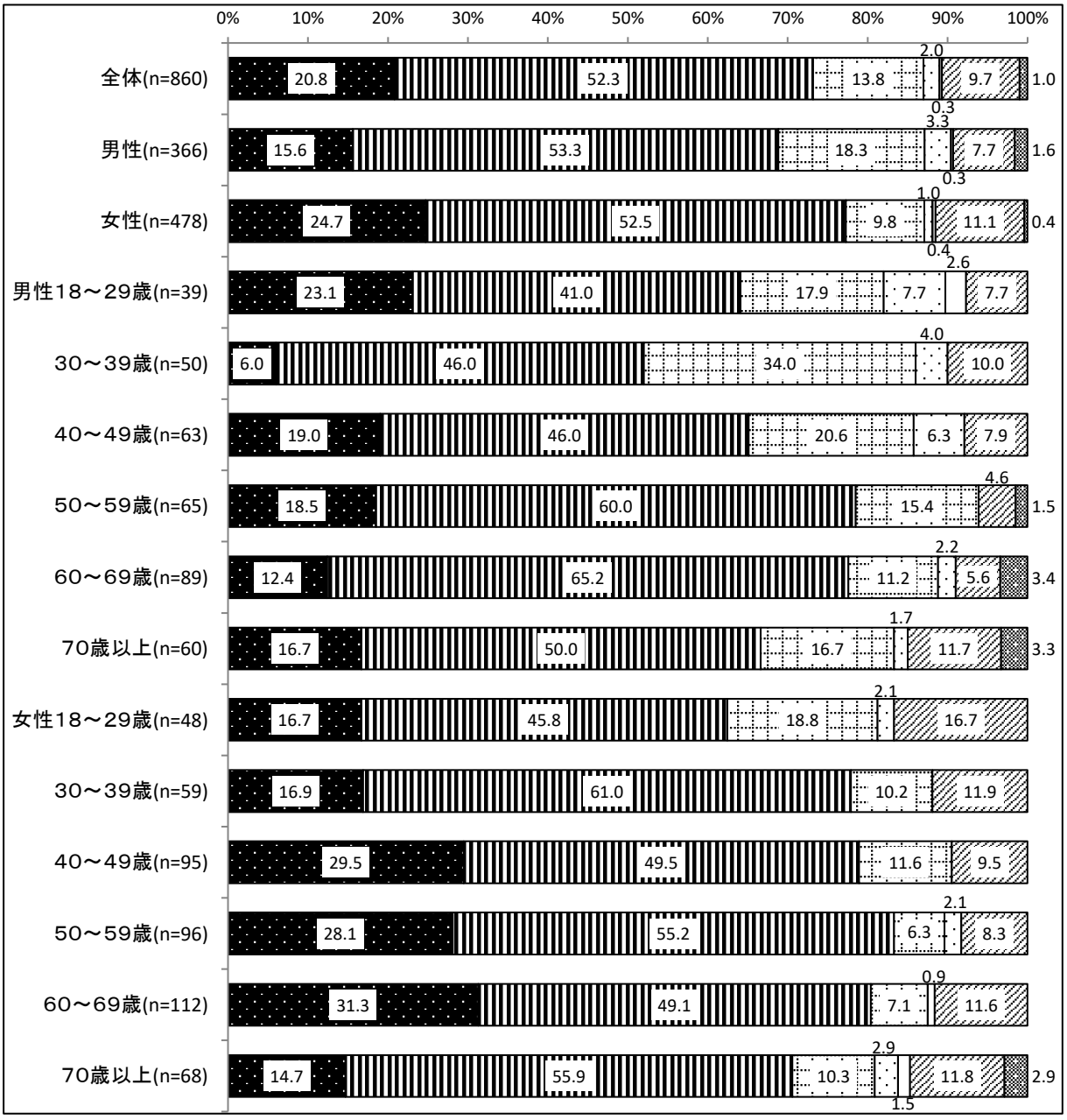
社会通念・慣習・しきたりにおける男女の地位の平等感については、「平等である」が 14.0%で全 8 項目の中で最も低い割合となった。対して、『男性が優遇されている』は 72.5%で、全 8 項目の中で最も高い割合となった。

【性別・年齢階層別】

「平等である」（男性 23.3%、女性 8.9%）は、男性の方が 14.4 ポイント高い。『男性が優遇されている』（男性 62.6%、女性 78.2%）は、女性の方が 15.6 ポイント高い。

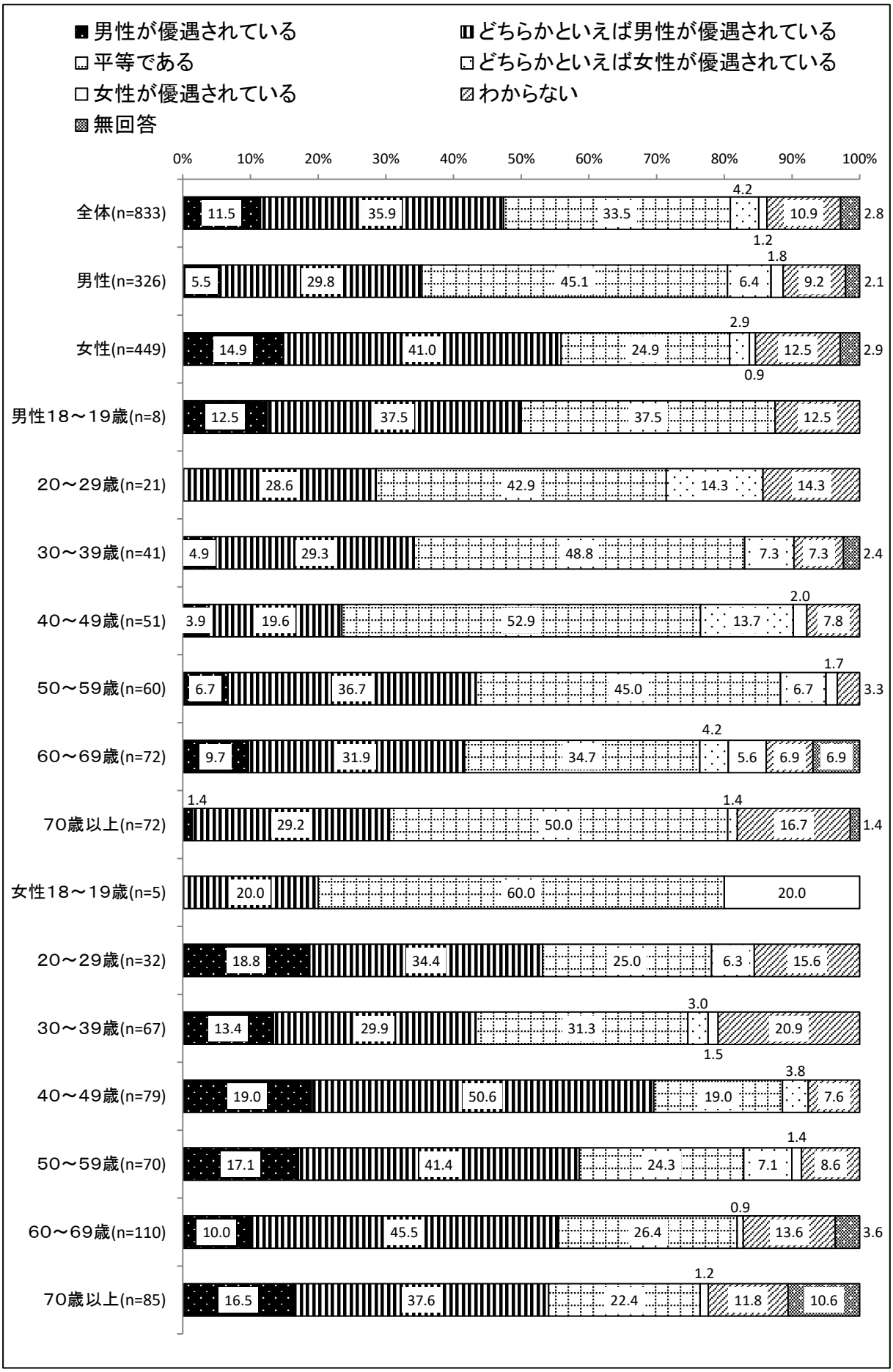
年齢別にみると、男性の 50 歳代（71.7%）と 60 歳代（72.2%）、女性の 40 歳代（86.1%）と 50 歳代（85.8%）で『男性が優遇されている』の割合が特に高くなっている。

【前回調査（平成 27 年度）との比較】



前回と大きな差はみられなかった。

⑥ 法律や制度の面で


■男性が優遇されている
▥どちらかといえば男性が優遇されている
□平等である
▫どちらかといえば女性が優遇されている
□女性が優遇されている
▨わからない
▩無回答
0%
10%
20%
30%
40%
50%
60%
70%
80%
90%
100%
全体(n=833) 11.5 35.9 33.5 4.2 10.9 2.8
男性(n=326) 5.5 29.8 45.1 1.2 6.4 1.8 9.2 2.1
女性(n=449) 14.9 41.0 24.9 2.9 12.5 0.9 2.9
男性18～19歳(n=8) 12.5 37.5 37.5 12.5
20～29歳(n=21) 28.6 42.9 14.3 14.3
30～39歳(n=41) 4.9 29.3 48.8 7.3 7.3 2.4
40～49歳(n=51) 3.9 19.6 52.9 2.0 13.7 7.8
50～59歳(n=60) 6.7 36.7 45.0 1.7 6.7 3.3
60～69歳(n=72) 9.7 31.9 34.7 4.2 5.6 6.9 6.9
70歳以上(n=72) 1.4 29.2 50.0 1.4 16.7 1.4
女性18～19歳(n=5) 20.0 60.0 20.0
20～29歳(n=32) 18.8 34.4 25.0 6.3 15.6
30～39歳(n=67) 13.4 29.9 31.3 3.0 1.5 20.9
40～49歳(n=79) 19.0 50.6 19.0 3.8 7.6
50～59歳(n=70) 17.1 41.4 24.3 7.1 1.4 8.6
60～69歳(n=110) 10.0 45.5 26.4 0.9 13.6 3.6
70歳以上(n=85) 16.5 37.6 22.4 1.2 11.8 10.6

【全体結果】

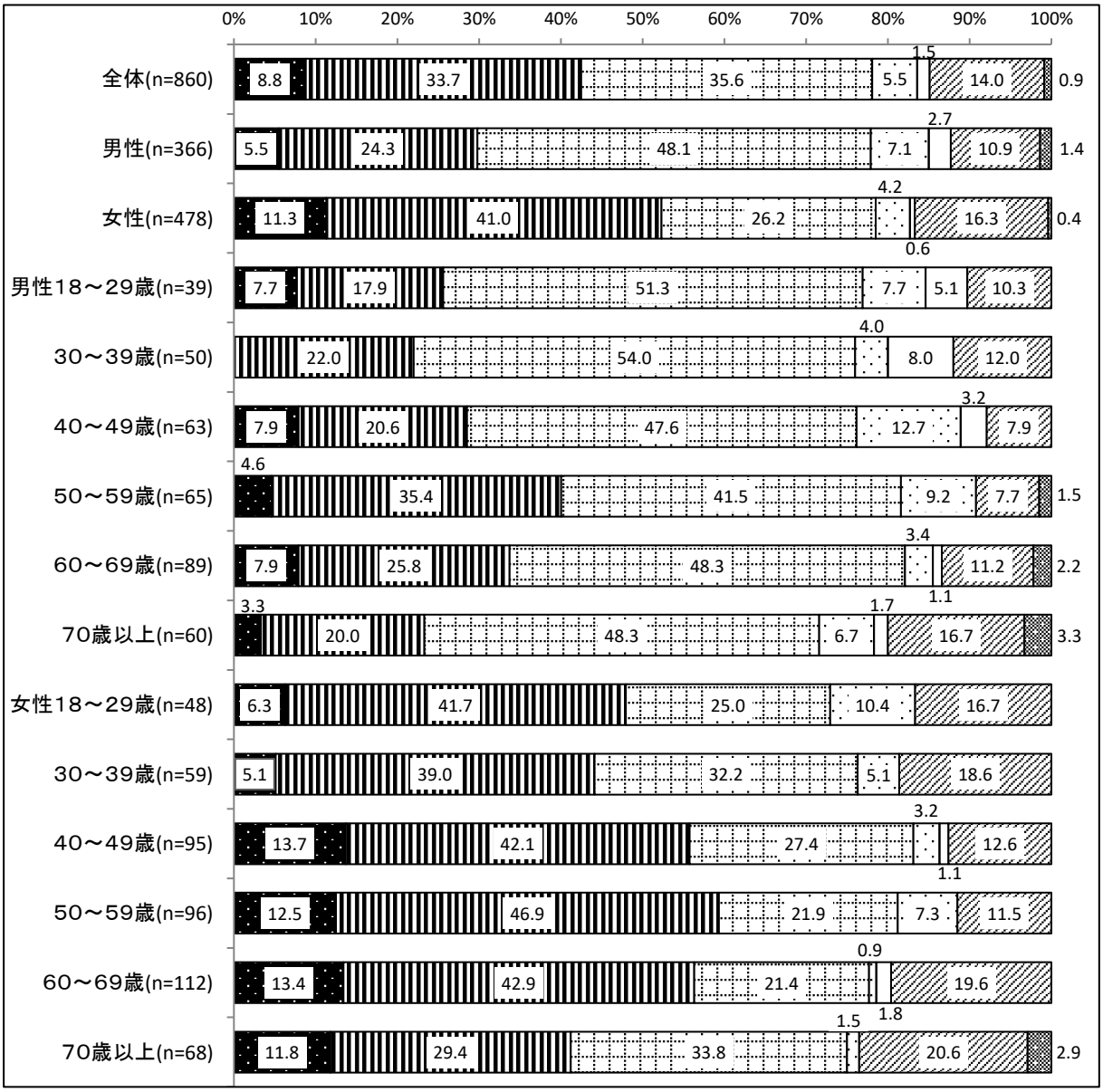
法律や制度における男女の地位の平等感については、「平等である」は 33.5%、『男性が優遇されている』が 47.4%である。

【性別・年齢階層別】

「平等である」（男性 45.1%、女性 24.9%）は、男性の方が 20.2 ポイント高く、『男性が優遇されている』（男性 35.3%、女性 55.9%）は、女性の方が 20.6 ポイント高くなっており、男女の意識の差が大きい。

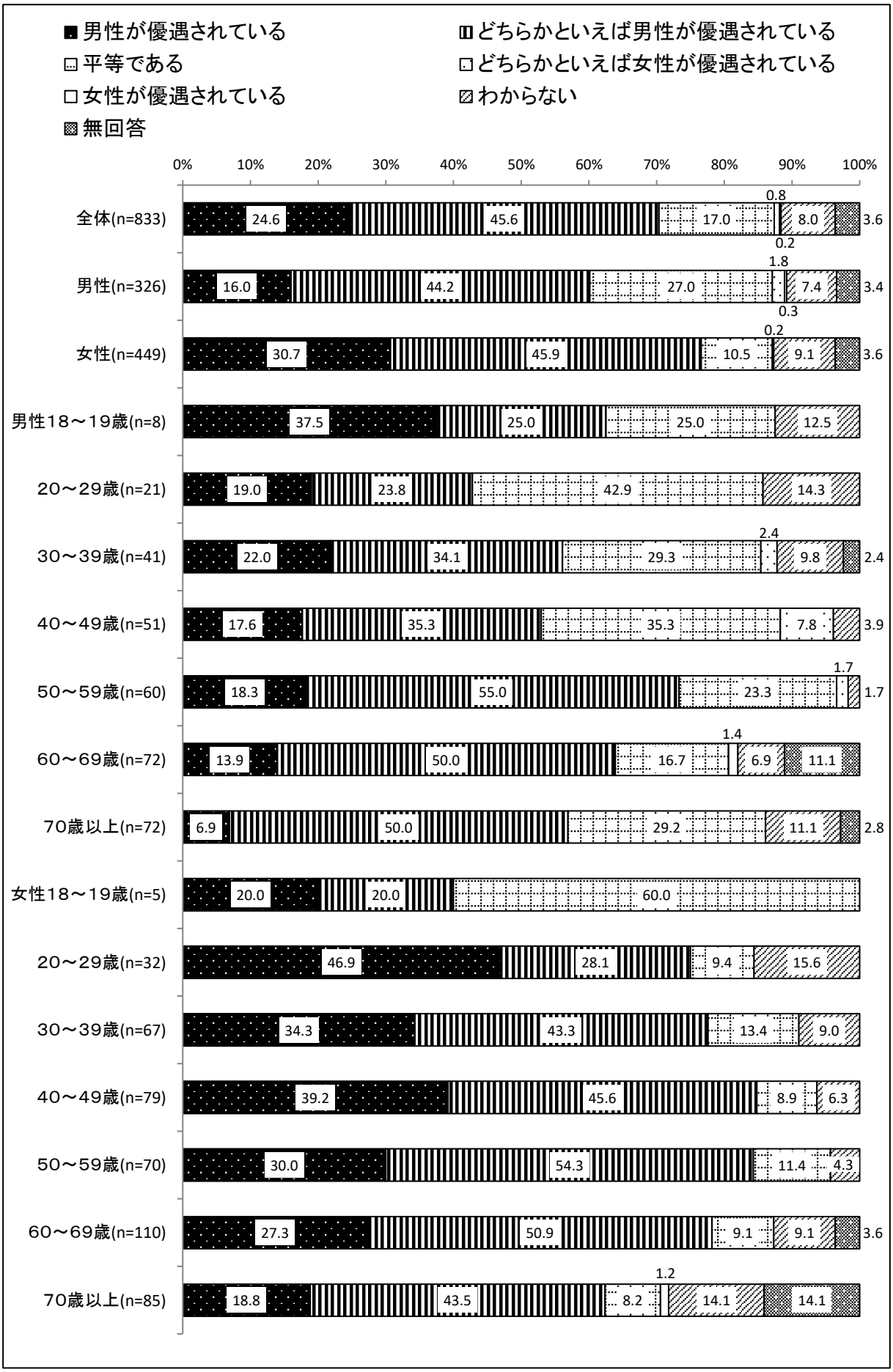
年齢別にみると、「平等である」は、母数の少ない女性 18～19 歳（n=5、60.0%）を除くと 40 歳代の男性（52.9%）の割合が最も高く、『男性が優遇されている』は、40 歳代の女性（69.6%）が最も高い。

【前回調査（平成 27 年度）との比較】



「平等である」（今回 33.5%、前回 35.6%）は前回より 2.1 ポイント減少し、『男性が優遇されている』（今回 47.4%、前回 42.5%）が 4.9 ポイント増加した。

⑦ 政治・経済活動の場で


■男性が優遇されている
▥どちらかといえば男性が優遇されている
□平等である
▫どちらかといえば女性が優遇されている
□女性が優遇されている
▨わからない
▩無回答
0%
10%
20%
30%
40%
50%
60%
70%
80%
90%
100%
全体(n=833) 24.6 45.6 17.0 0.8 8.0 0.2 3.6
男性(n=326) 16.0 44.2 27.0 1.8 7.4 0.3 3.4
女性(n=449) 30.7 45.9 10.5 0.2 9.1 3.6
男性18～19歳(n=8) 37.5 25.0 25.0 12.5
20～29歳(n=21) 19.0 23.8 42.9 14.3
30～39歳(n=41) 22.0 34.1 29.3 2.4 9.8 2.4
40～49歳(n=51) 17.6 35.3 35.3 7.8 3.9
50～59歳(n=60) 18.3 55.0 23.3 1.7 1.7
60～69歳(n=72) 13.9 50.0 16.7 1.4 6.9 11.1
70歳以上(n=72) 6.9 50.0 29.2 11.1 2.8
女性18～19歳(n=5) 20.0 20.0 60.0
20～29歳(n=32) 46.9 28.1 9.4 15.6
30～39歳(n=67) 34.3 43.3 13.4 9.0
40～49歳(n=79) 39.2 45.6 8.9 6.3
50～59歳(n=70) 30.0 54.3 11.4 4.3
60～69歳(n=110) 27.3 50.9 9.1 9.1 3.6
70歳以上(n=85) 18.8 43.5 8.2 1.2 14.1 14.1

【全体結果】

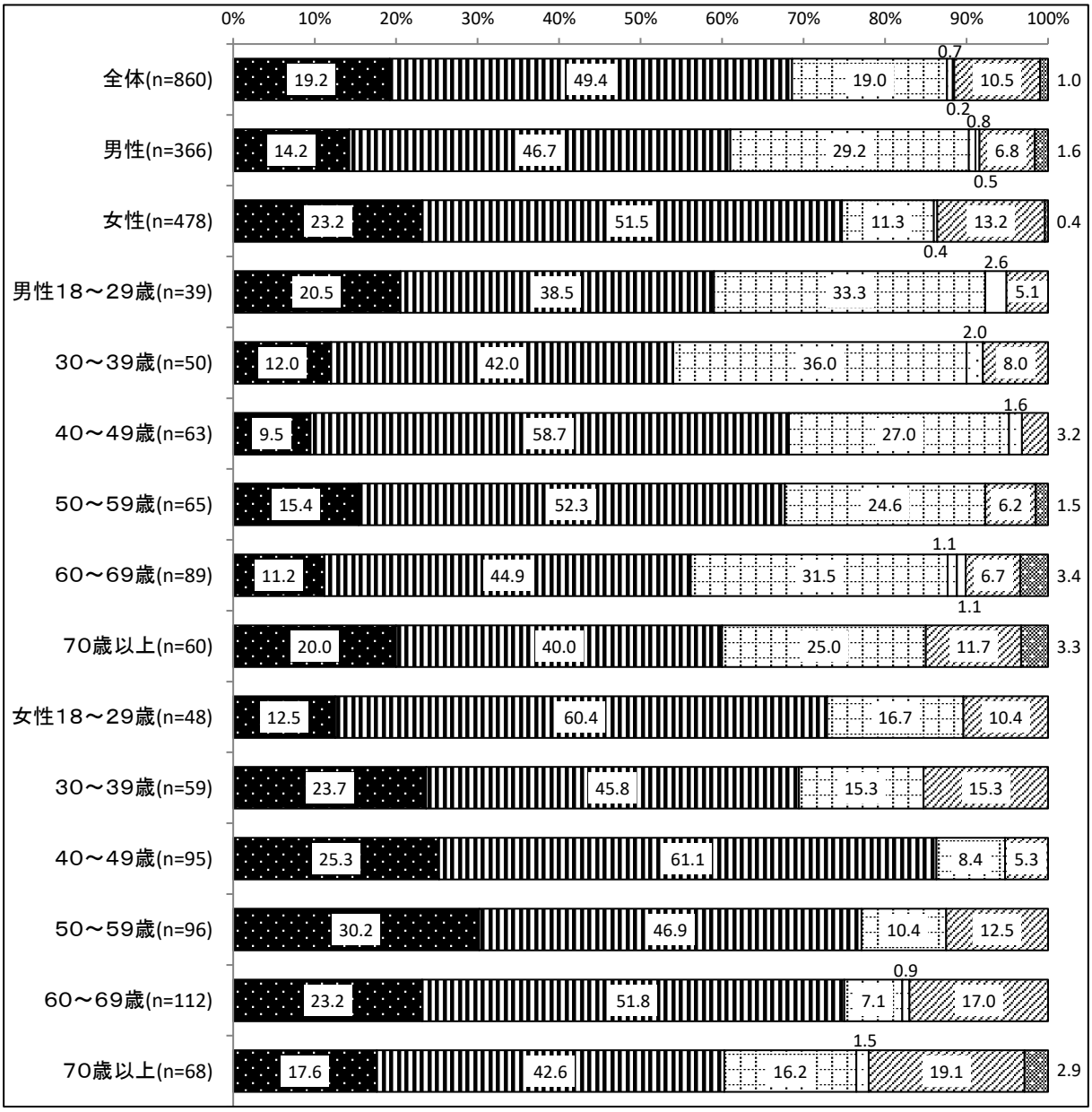
政治・経済活動の場における男女の地位の平等感について、「平等である」は 17.0%で、『男性が優遇されている』が 70.2%となっており、不平等感が強い傾向にある。

【性別・年齢階層別】

「平等である」（男性 27.0%、女性 10.5%）は、男性の方が 16.5 ポイント高い。『男性が優遇されている』（男性 60.2%、女性が 76.6%）は、女性の方が 16.4 ポイント高くなっている。

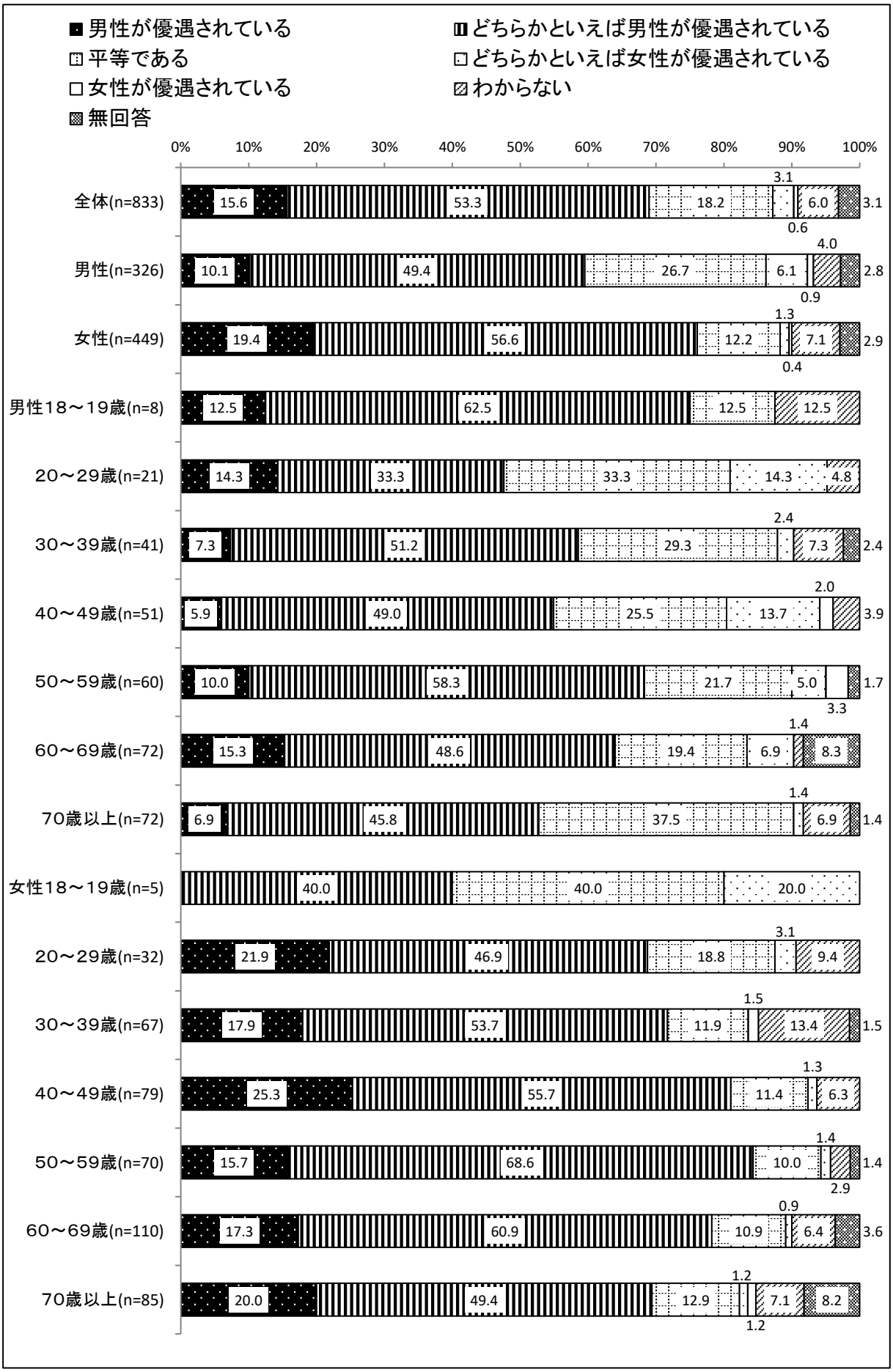
年齢別にみると、男性 20 歳代および女性 10 歳代を除くすべての年齢層で『男性が優遇されている』の割合が過半数を占めている。特に女性の 40 歳代（84.8%）が最も高い割合となっている。

【前回調査（平成 27 年度）との比較】



「平等である」（今回 17.0%、前回 19.0%）は、前回より 2.0 ポイント減少し、『男性が優遇されている』（今回 70.2%、前回 68.6%）が 1.6 ポイント増加した。

⑧ 社会全体として


■男性が優遇されている
▥どちらかといえば男性が優遇されている
▯平等である
□どちらかといえば女性が優遇されている
□女性が優遇されている
▨わからない
▩無回答
0%
10%
20%
30%
40%
50%
60%
70%
80%
90%
100%
全体(n=833) 15.6 53.3 18.2 0.6 6.0 3.1 3.1
男性(n=326) 10.1 49.4 26.7 6.1 0.9 4.0 2.8
女性(n=449) 19.4 56.6 12.2 0.4 1.3 7.1 2.9
男性18～19歳(n=8) 12.5 62.5 12.5 12.5
20～29歳(n=21) 14.3 33.3 33.3 14.3 4.8
30～39歳(n=41) 7.3 51.2 29.3 2.4 7.3 2.4
40～49歳(n=51) 5.9 49.0 25.5 13.7 2.0 3.9
50～59歳(n=60) 10.0 58.3 21.7 5.0 3.3 1.7
60～69歳(n=72) 15.3 48.6 19.4 6.9 1.4 8.3
70歳以上(n=72) 6.9 45.8 37.5 1.4 6.9 1.4
女性18～19歳(n=5) 40.0 40.0 20.0
20～29歳(n=32) 21.9 46.9 18.8 3.1 9.4
30～39歳(n=67) 17.9 53.7 11.9 1.5 13.4 1.5
40～49歳(n=79) 25.3 55.7 11.4 1.3 6.3
50～59歳(n=70) 15.7 68.6 10.0 2.9 1.4 1.4
60～69歳(n=110) 17.3 60.9 10.9 0.9 6.4 3.6
70歳以上(n=85) 20.0 49.4 12.9 1.2 7.1 1.2 8.2

【全体結果】

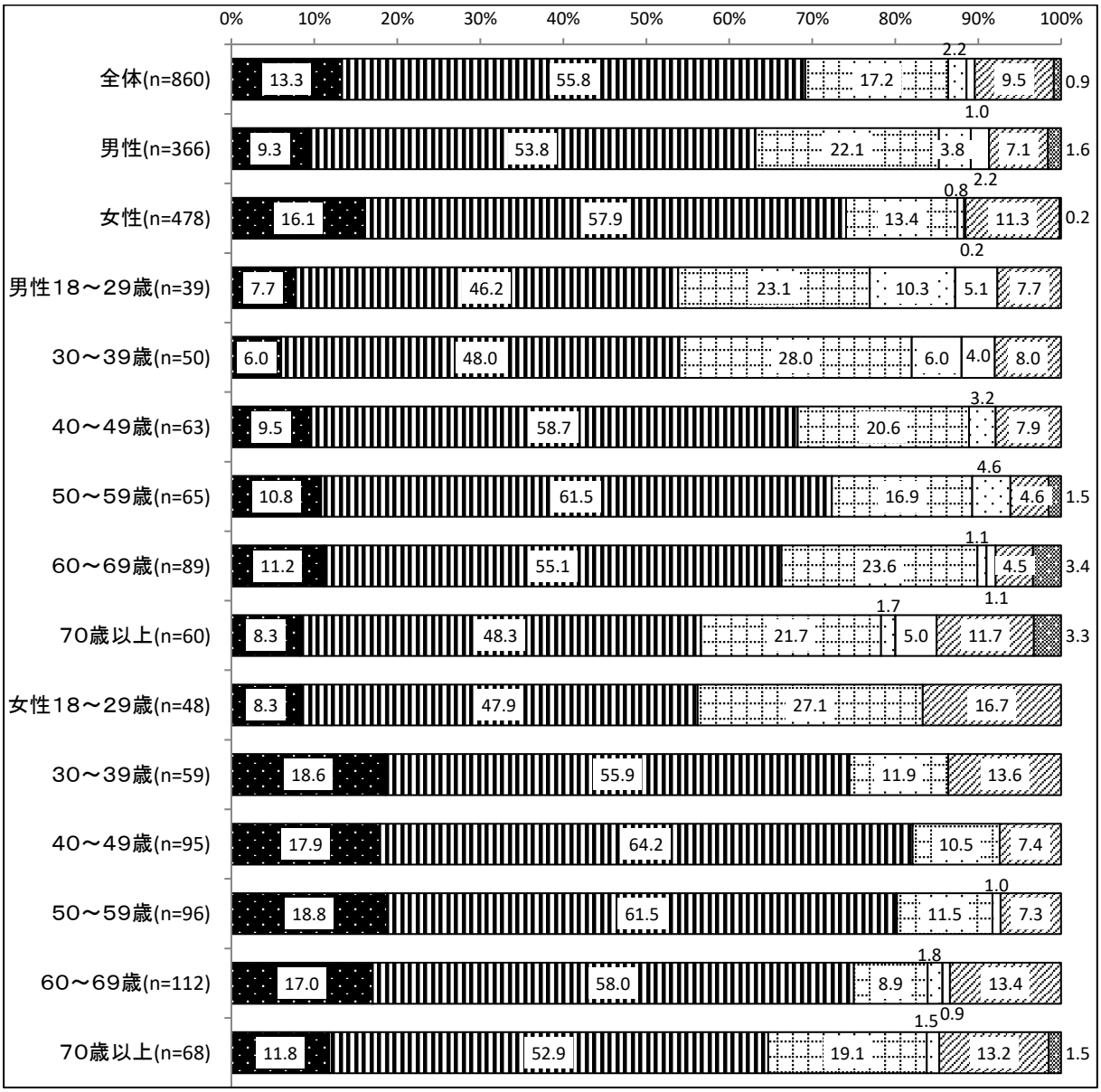
社会全体としての男女の地位の平等感について、『男性が優遇されている』は 68.9%で、全 8 項目の中で 2 番目に高い割合となった。「平等である」は 18.2%であり、不平等感が強い傾向にある。

【性別・年齢階層別】

「平等である」（男性 26.7%、女性 12.2%）は、男性の方が 14.5 ポイント高い。『男性が優遇されている』（男性 59.5%、女性 76.0%）は、女性の方が 16.5 ポイント高くなっている。女性の方が不平等感を強く感じている。

年齢別にみると、「平等である」は、男女ともに 20 歳代（男性 33.3%、女性 18.8%）、70 歳以上（男性 37.5%、女性 12.9%）が高い割合を示す結果となった。

【前回調査（平成 27 年度）との比較】

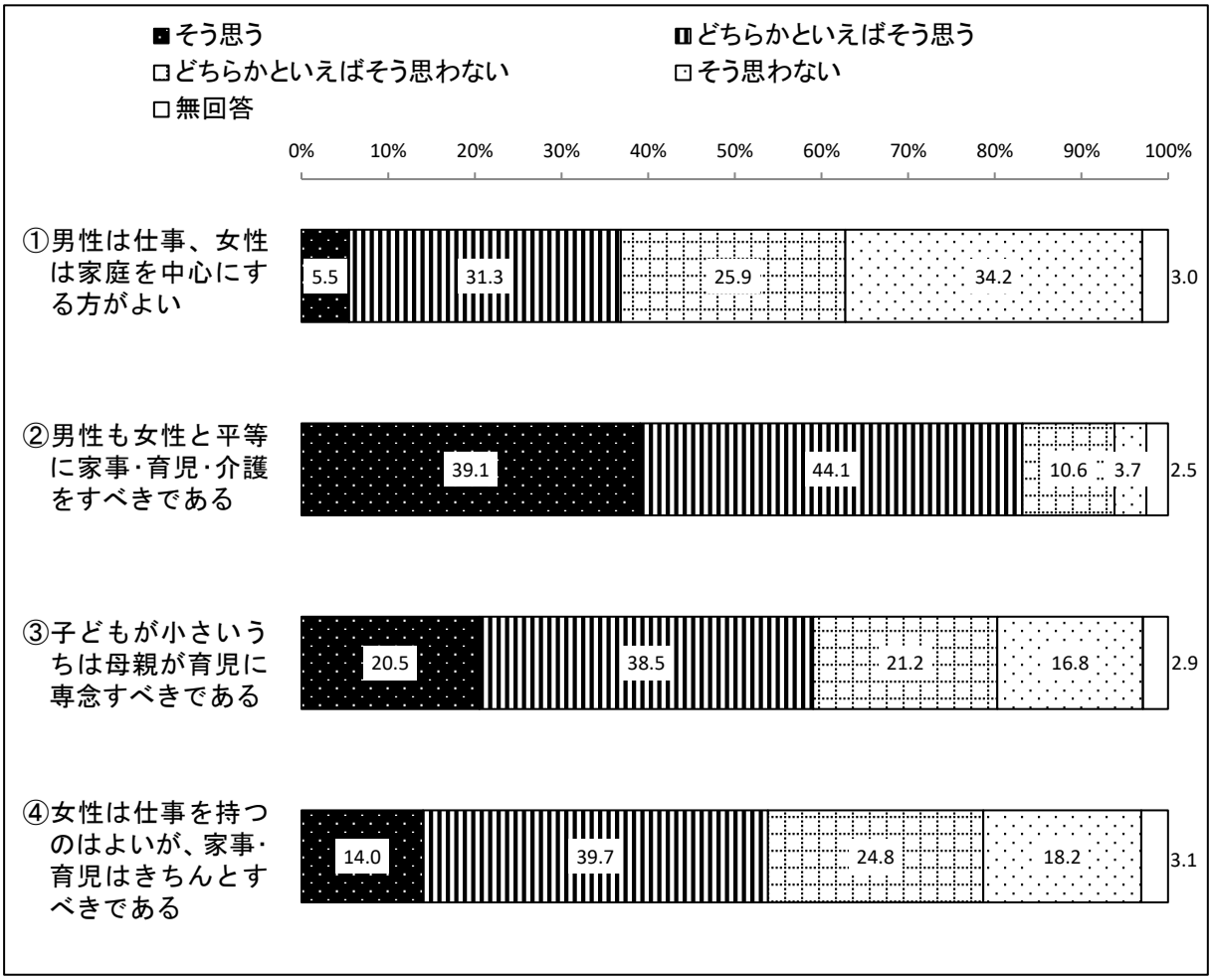


「平等である」（今回 18.2%、前回 17.2%）は、前回より 1.0 ポイント増加している。『男性が優遇されている』（今回 68.9%、前回 69.1%）は前回との差はほとんどみられない。

２．家庭生活等に関する考え方について

(1) 男性は仕事、女性は家庭という考え方

問２　あなたは次の①～④の考え方について、どのように思いますか。あなたの考え方に最も近いものを項目ごとに○をつけてください。　（n=833）

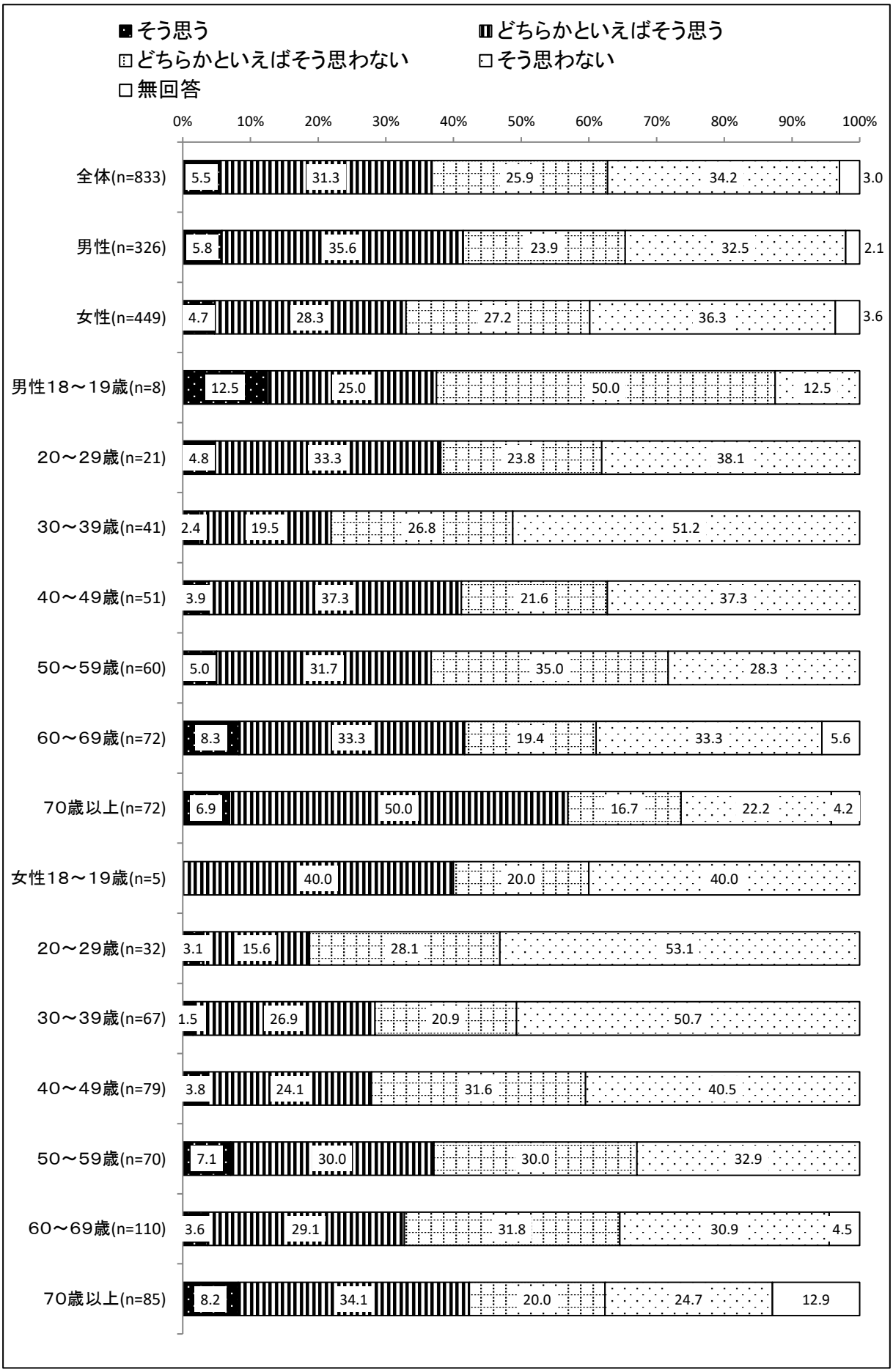


【全体結果】

『そう思う（「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計比率、以下同)』の割合が最も高いのは、②「男性も女性と平等に家事・育児・介護をすべきである」（83.2%）となっている。

一方、『そう思わない（「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」の合計比率、以下同)』の割合が最も高いのは、①「男性は仕事、女性は家庭を中心にする方がよい」（60.1%）であった。

① 男性は仕事、女性は家庭を中心にする方がよい



【全体結果】

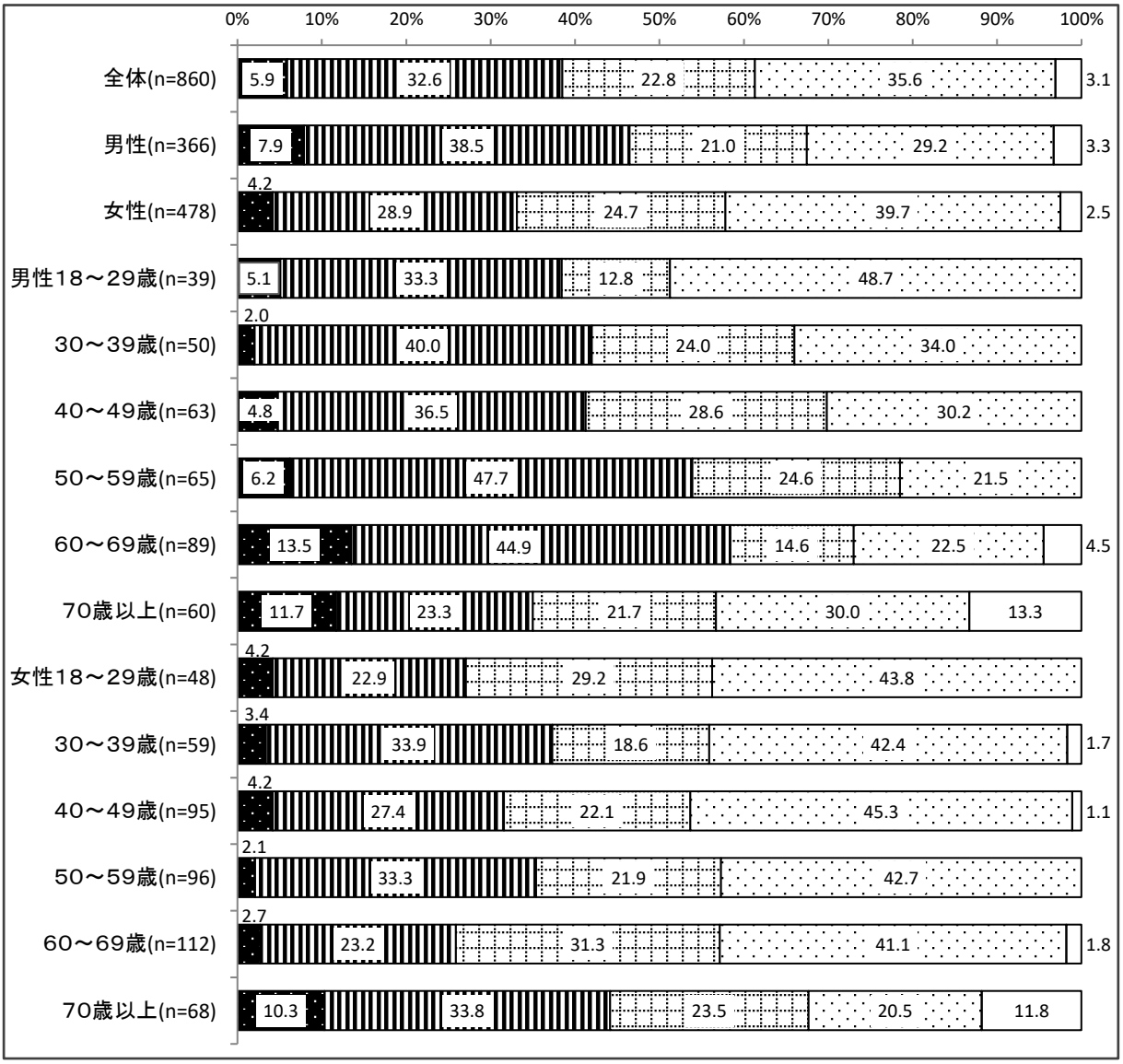
① 「男性は仕事、女性は家庭を中心にする方がよい」という考え方に対して、『そう思う』の割合は 36.8%、『そう思わない』は 60.1%となり、『そう思わない』の方が 23.3 ポイント高い結果となった。

【性別・年齢階層別】

『そう思う』（男性 41.4%、女性 33.0%）の割合は、男性の方が 8.4 ポイント高い。『そう思わない』（男性 56.4%、女性 63.5%）は、女性の方が 7.1 ポイント高くなっている。

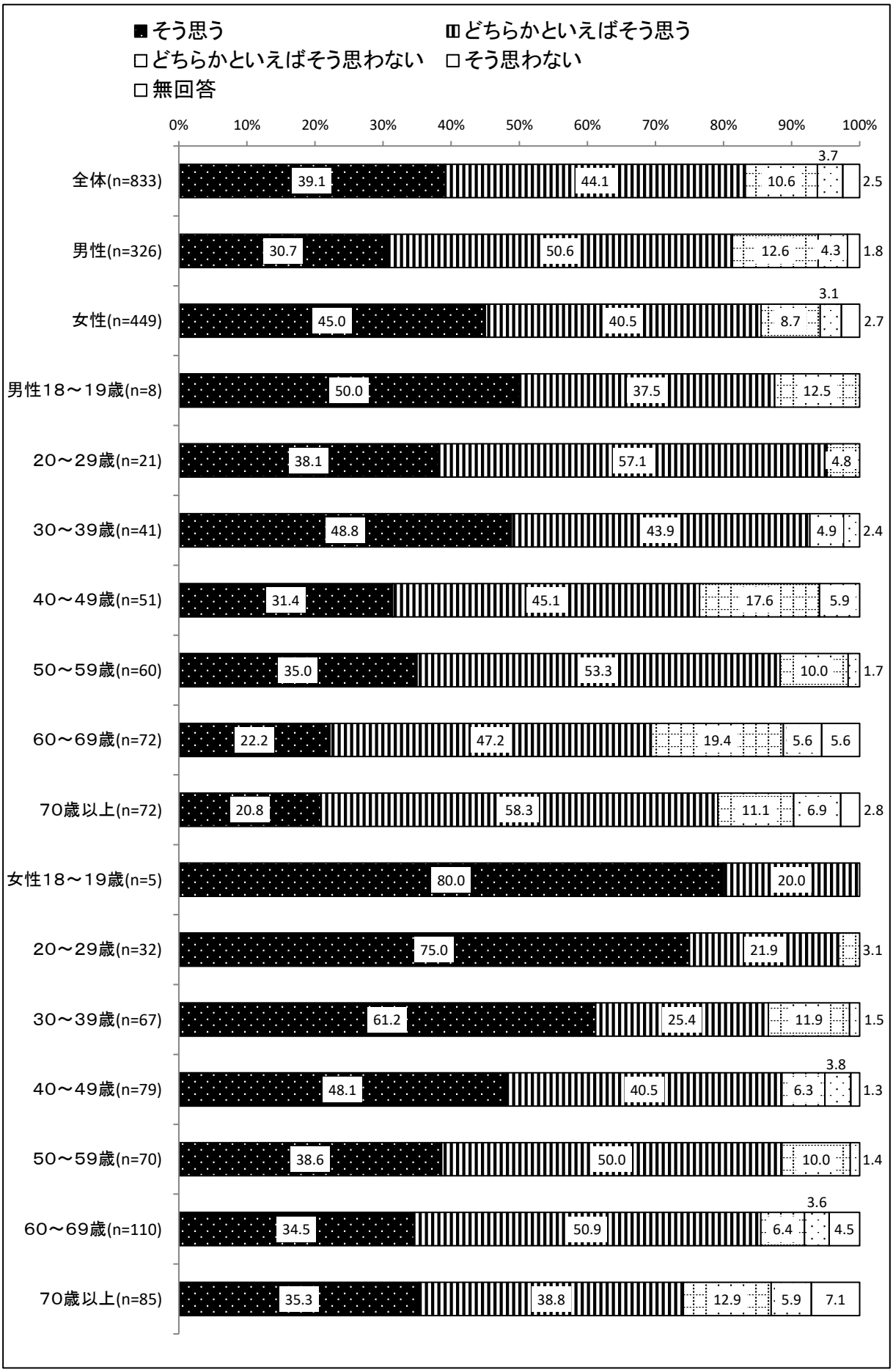
年齢別にみると、男性は『そう思う』の割合が 30 歳代において最も低くなっている（21.9%）一方、70 歳以上においては『そう思う』が過半数を占めていた。女性では 10 歳代を除き年齢が上がるにつれて『そう思う』の割合が高くなる傾向がみられた。『そう思わない』は、女性の 20 歳代（81.2%）が最も高い。

【前回調査（平成 27 年度）との比較】



『そう思う』（今回 36.8%、前回 38.5%）の割合は全体で 1.7 ポイント減少したが、特に男性において『そう思う』の割合が 5.0 ポイントと大きく減少した（今回 41.4%、前回 46.4%）。

② 男性も女性と平等に家事・育児・介護をすべき



【全体結果】

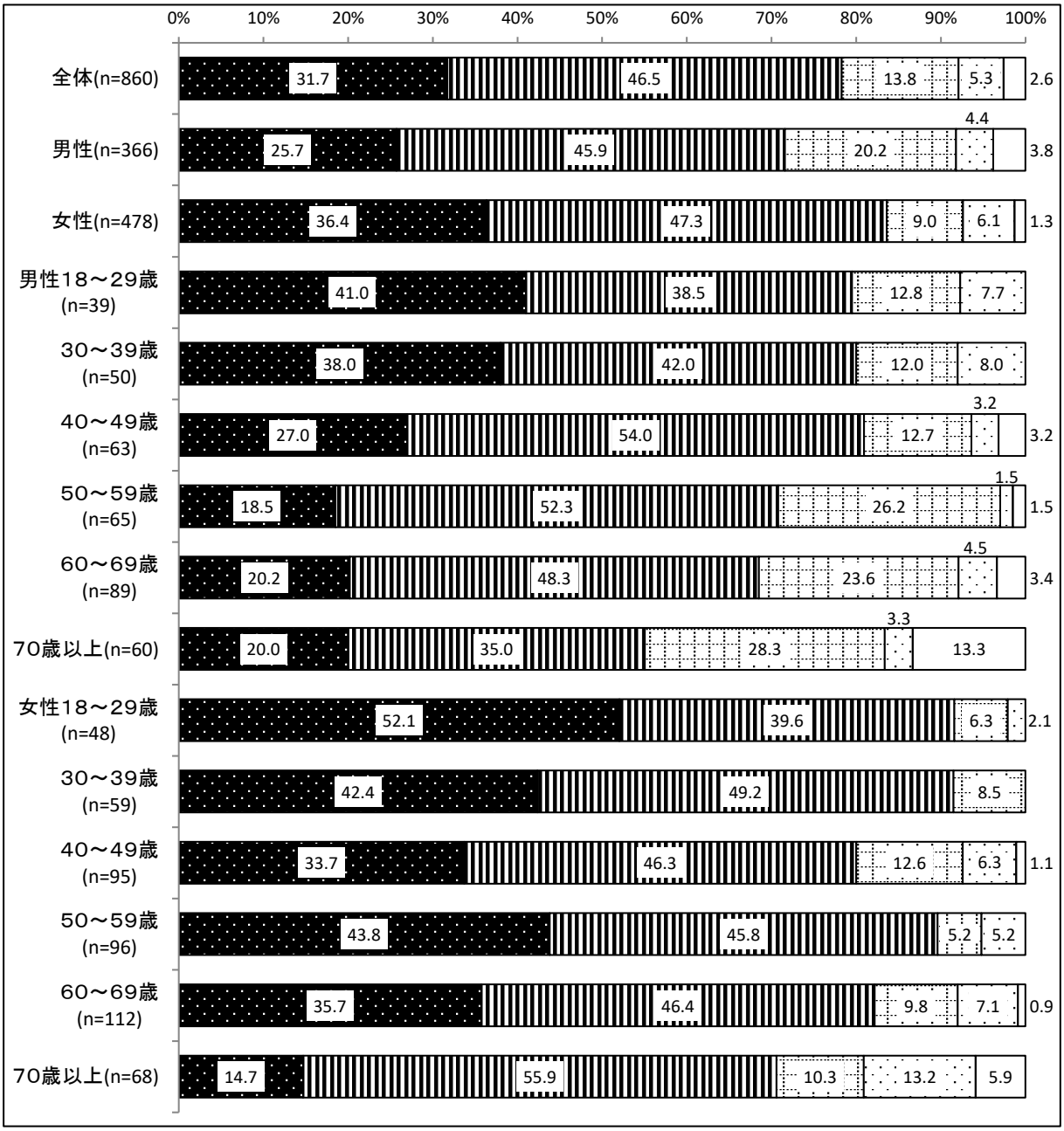
②「男性も女性と平等に家事・育児・介護をすべき」という考え方に、『そう思う』の割合は 83.2%で、全 4 項目中で最も高い割合となった。『そう思わない』は、14.3%となっている。

【性別・年齢階層別】

『そう思う』（男性 81.3%、女性 85.5%）の割合は女性の方が 4.2 ポイント高い。『そう思わない』（男性 16.9%、女性 11.8%）は男性の方が 5.1 ポイント高くなっている

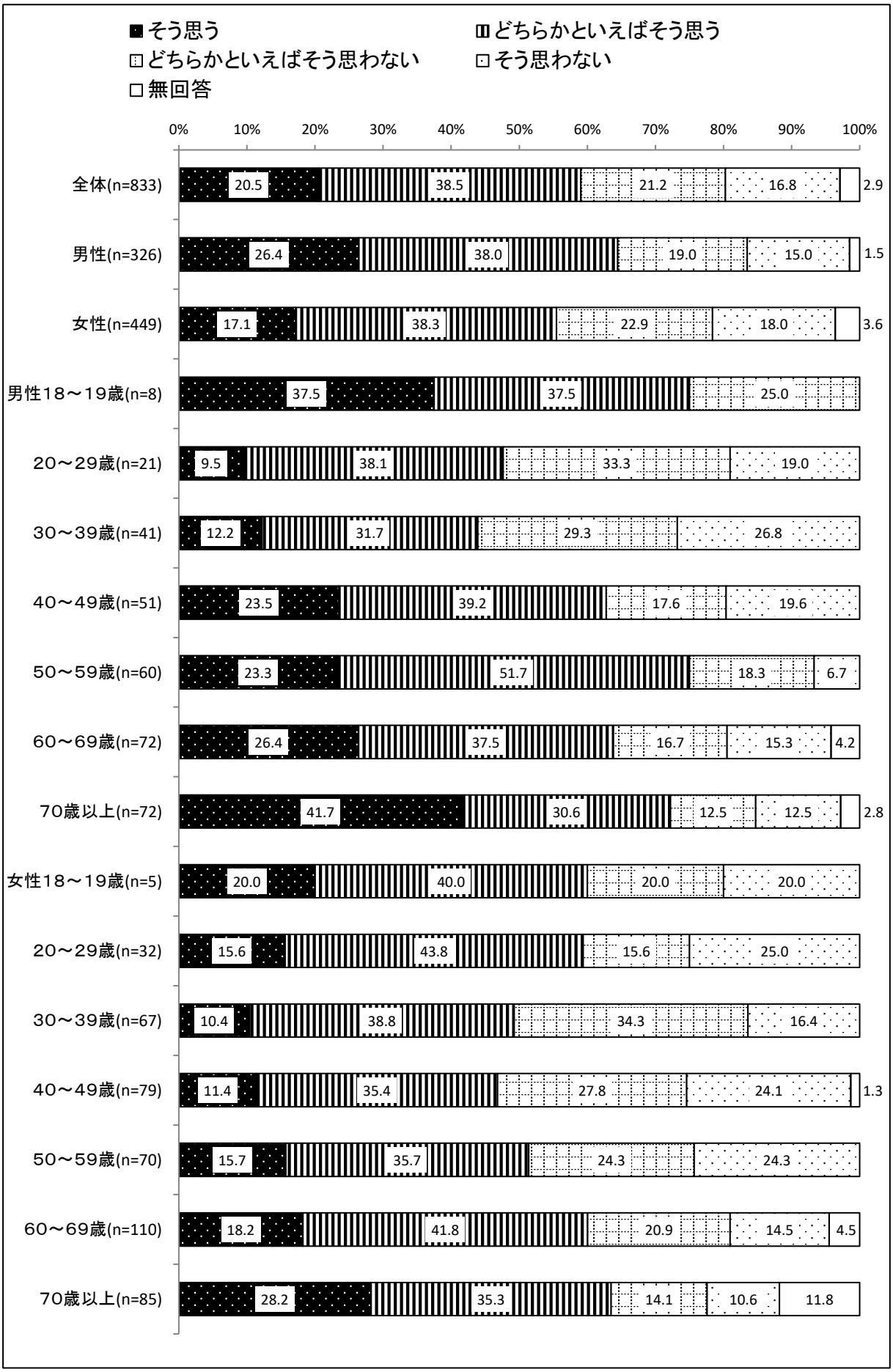
年齢別でみると、男女ともに若い年代で『そう思う』の割合が高い傾向が見られる。

【前回調査（平成 27 年度）との比較】



『そう思う』（今回 83.2%、前回 78.2%）の割合が、前回から 5.0 ポイント増加している。

③ 子どもが小さいうちは母親が育児に専念すべきである



【全体結果】

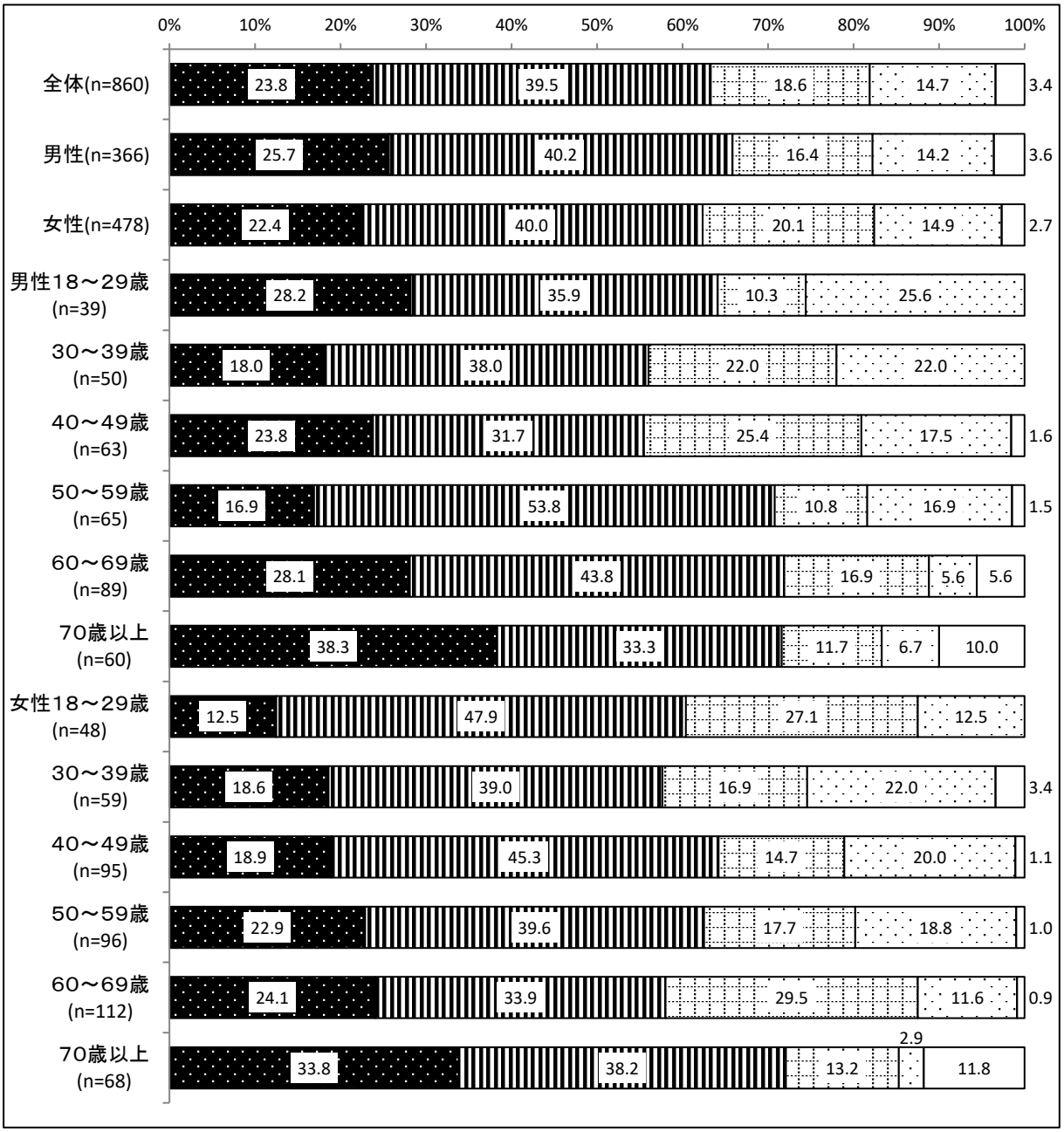
③「子どもが小さいうちは母親が育児に専念すべきである」という考え方に、『そう思う』の割合は 59.0%で、『そう思わない』は、38.0%となっている。

【性別・年齢階層別】

『そう思う』（男性 64.4%、女性 55.4%）の割合は男性の方が 9.0 ポイント高く、『そう思わない』（男性 34.0%、女性 40.9%）の割合は女性の方が 6.9 ポイント高い結果となった。

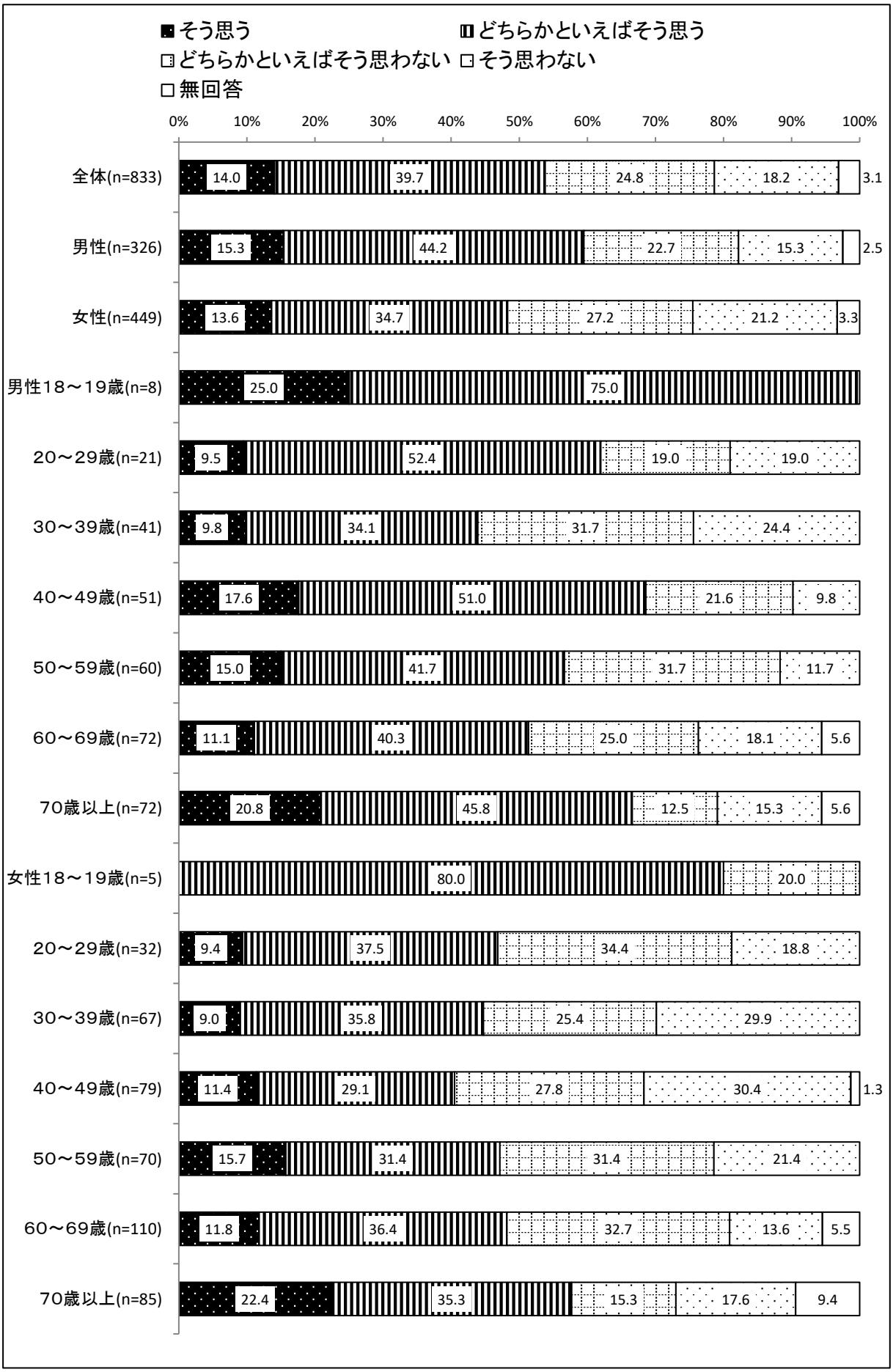
年齢別にみると、『そう思う』の割合が男性 20～30 歳代、女性 30～40 歳代を除く年代で過半数を占めている。

【前回調査（平成 27 年度）との比較】



『そう思う』（今回 59.0%、前回 63.3%）の割合は、前回より 4.3 ポイント減少している。『そう思わない』（今回 38.0%、前回 33.3%）が 4.7 ポイント増加している。

④ 女性は仕事を持つのはよいが、家事・育児はきちんとすべきである



【全体結果】

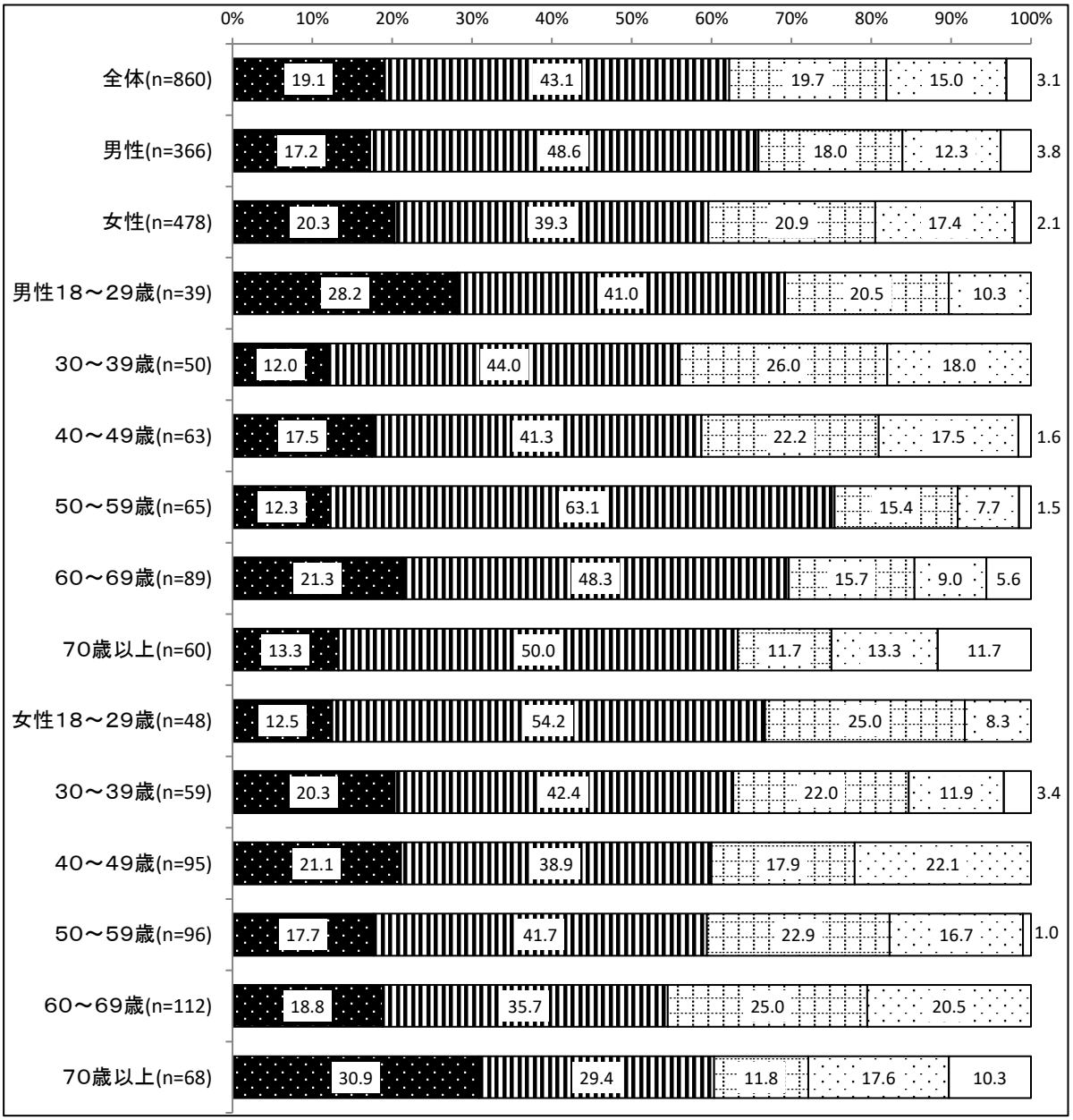
④「女性は仕事を持つのはよいが、家事・育児はきちんとすべきである」という考え方に、『そう思う』の割合は 53.7%、『そう思わない』は 43.0%となっている。

【性別・年齢階層別】

『そう思う』（男性 59.5%、女性 48.3%）は、男性の方が 11.2 ポイント高く、『そう思わない』（男性 38.0%、女性 48.4%）は、女性の方が 10.4 ポイント高い結果となった。女性は『そう思う』と『そう思わない』の割合がほぼ同じだった。

年齢別にみると、『そう思う』の割合が、30 歳代（男性 43.9%、女性 44.8%）は女性より男性の方が低くなっている。

【前回調査（平成 27 年度）との比較】

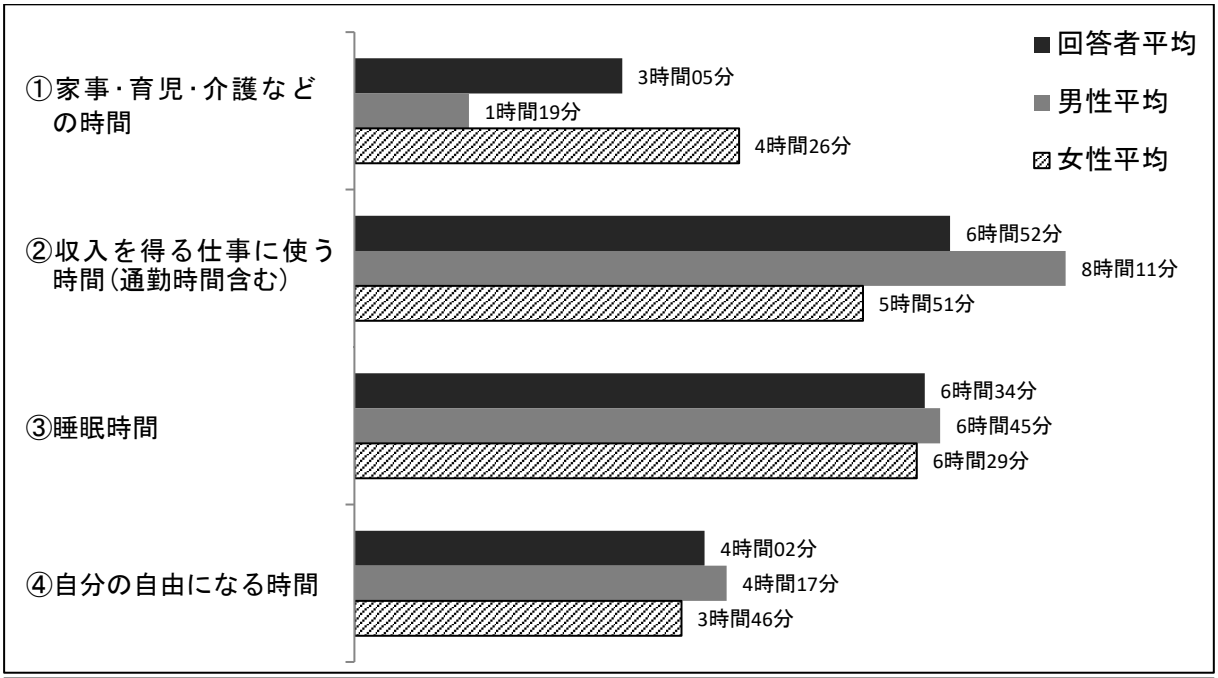


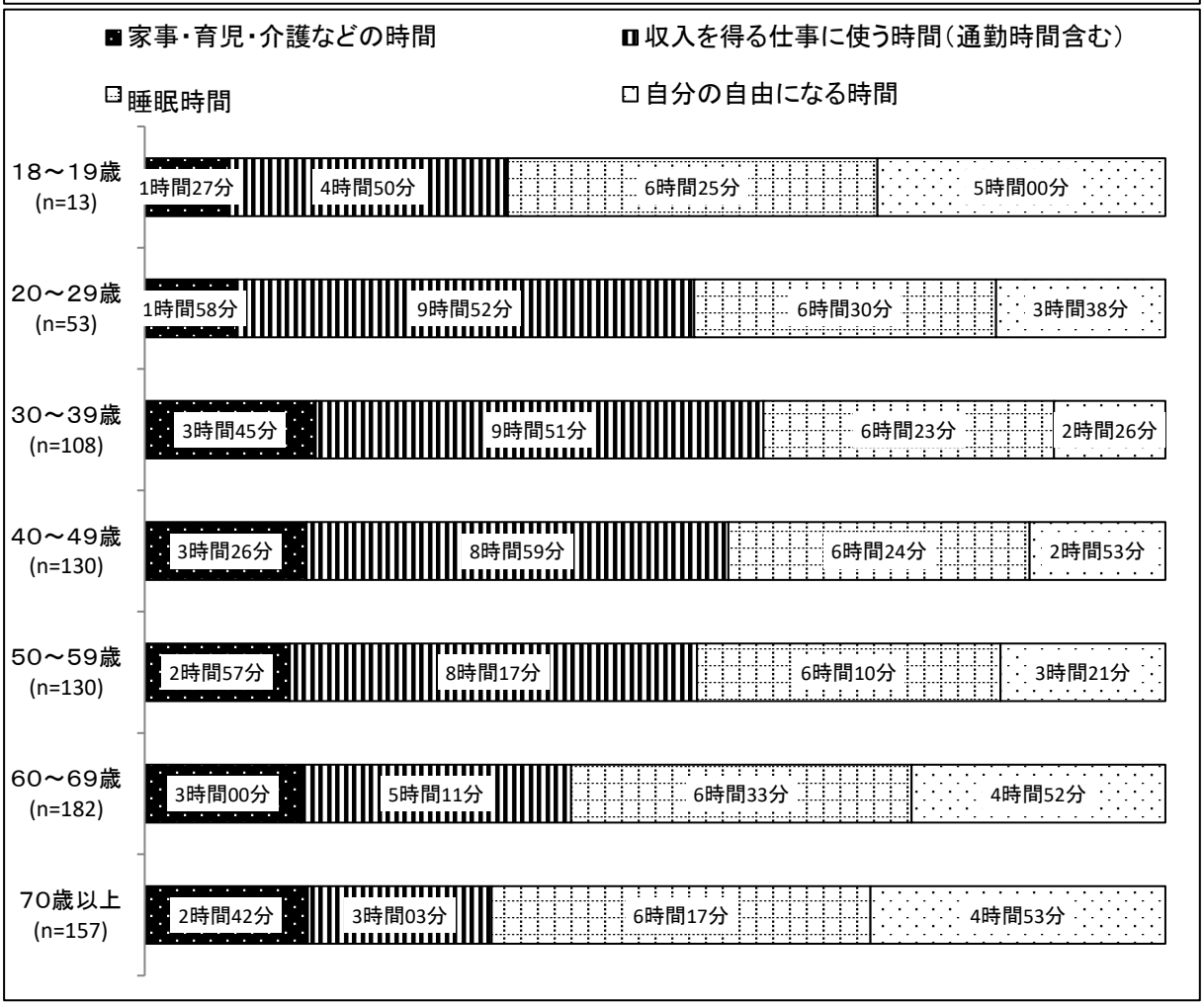
『そう思う』（今回 53.7%、前回 62.2%）の割合は 8.5 ポイント減少している一方、『そう思わない』（今回 43.0%、前回 34.7%）は 8.3 ポイント増加している。

３．仕事と生活の調和（ワーク･ライフ･バランス）について

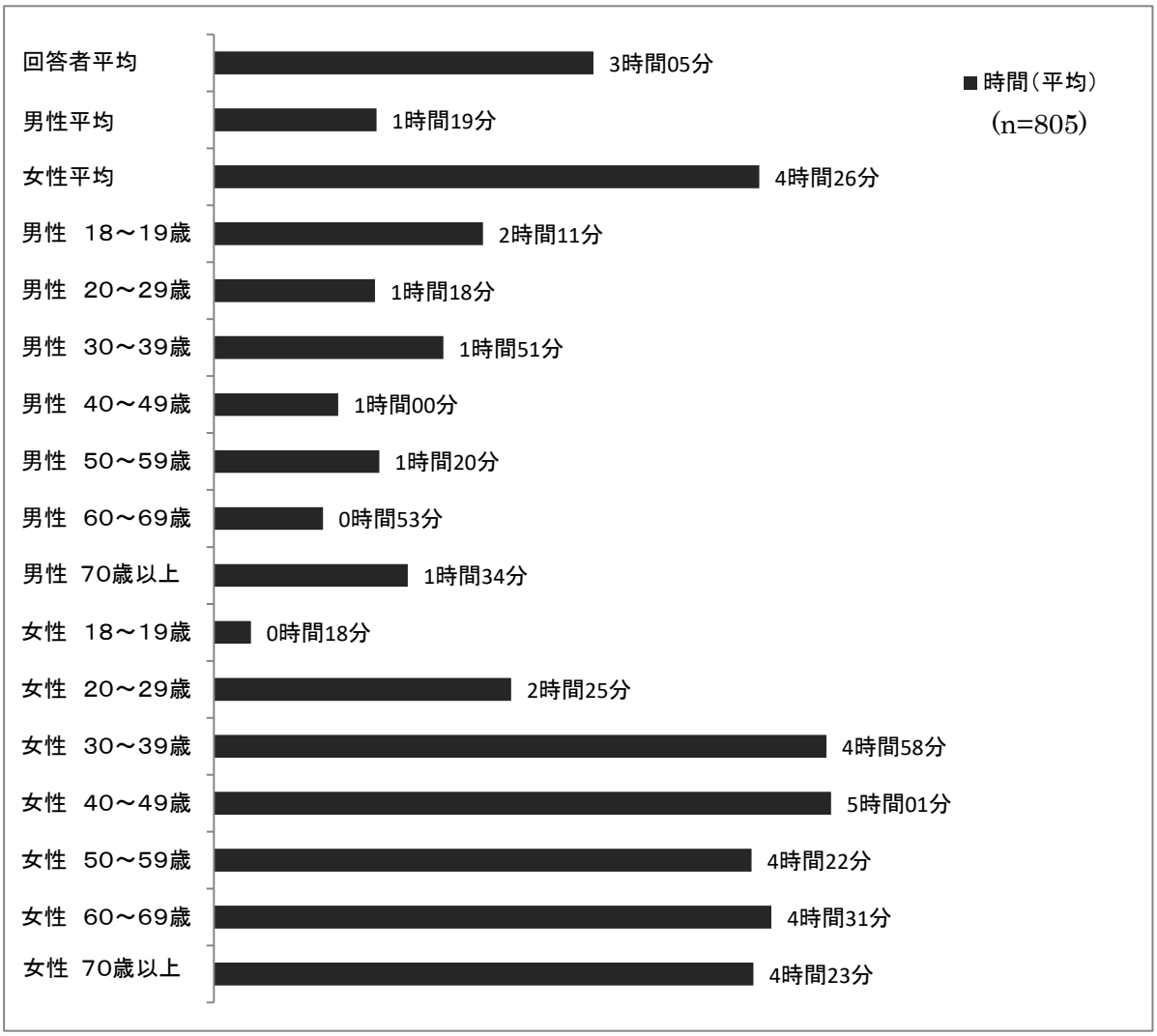
(1) 生活時間について

問３　あなたの平日の生活時間を次のとおりに分けて考えると、それぞれ平均して何時間何分くらいになりますか。（日曜・休日などは含めない）





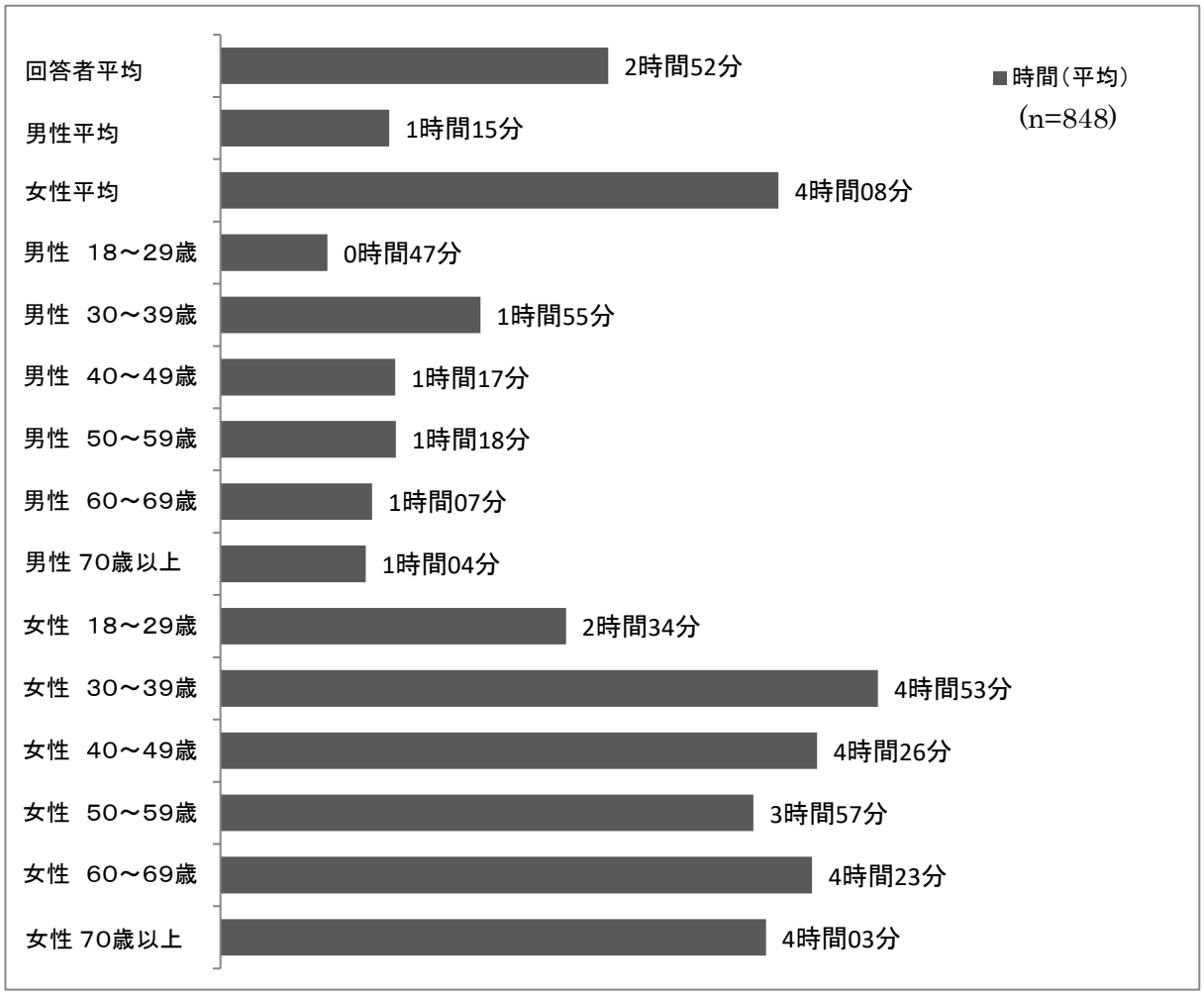
① 家事・育児・介護などの時間



【性別・年齢階層別】

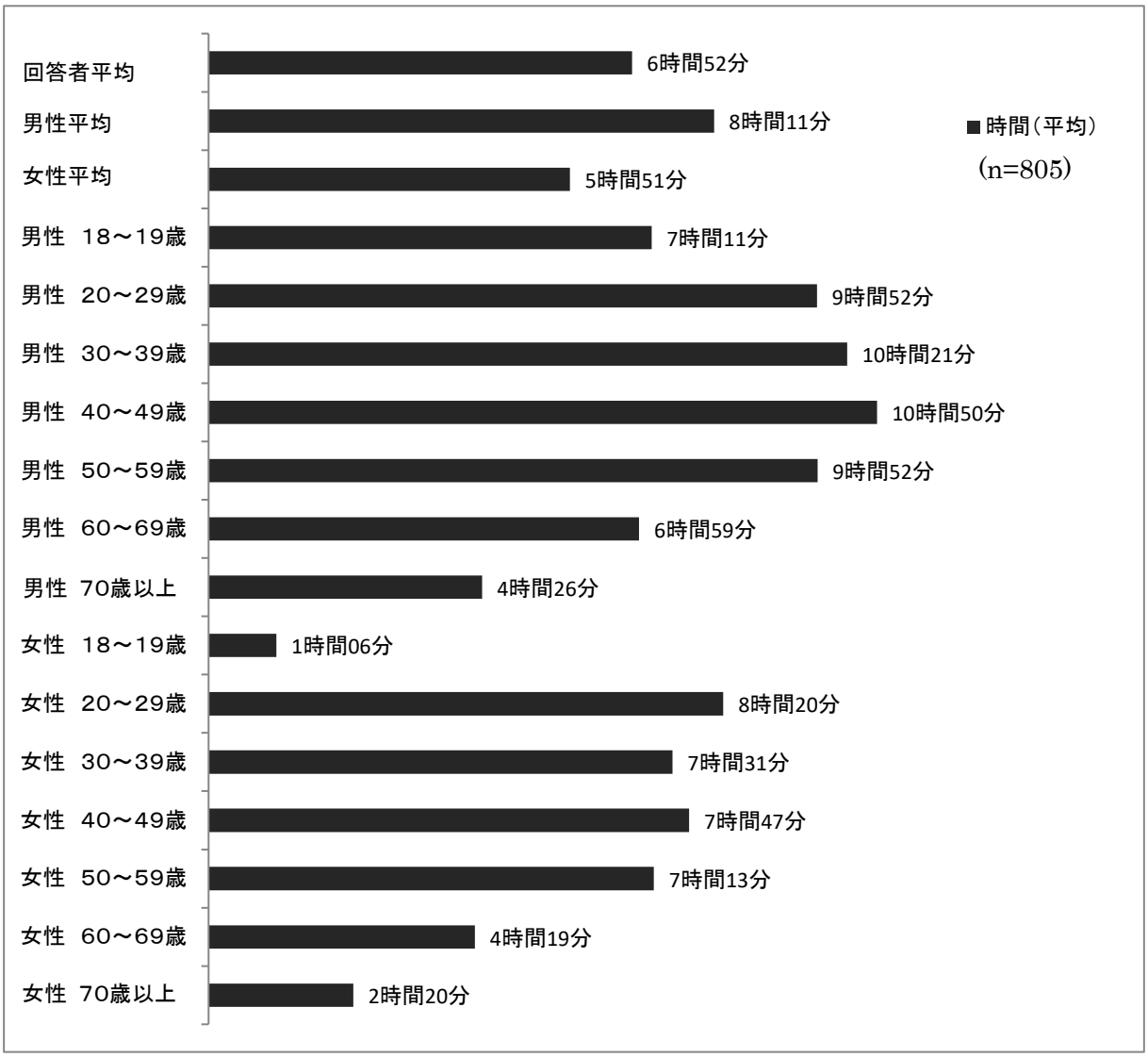
「一日の家事・育児・介護等に従事する時間（以下「家事時間」という）」（男性 1 時間 19 分、女性 4 時間 26 分）は、女性の方が、男性の約 3 倍となっている。

【前回調査（平成 27 年度）との比較】



男性（今回 1 時間 19 分、前回 1 時間 15 分）は 4 分増加、女性（今回 4 時間 26 分、前回 4 時間 8 分）は 18 分増加した。

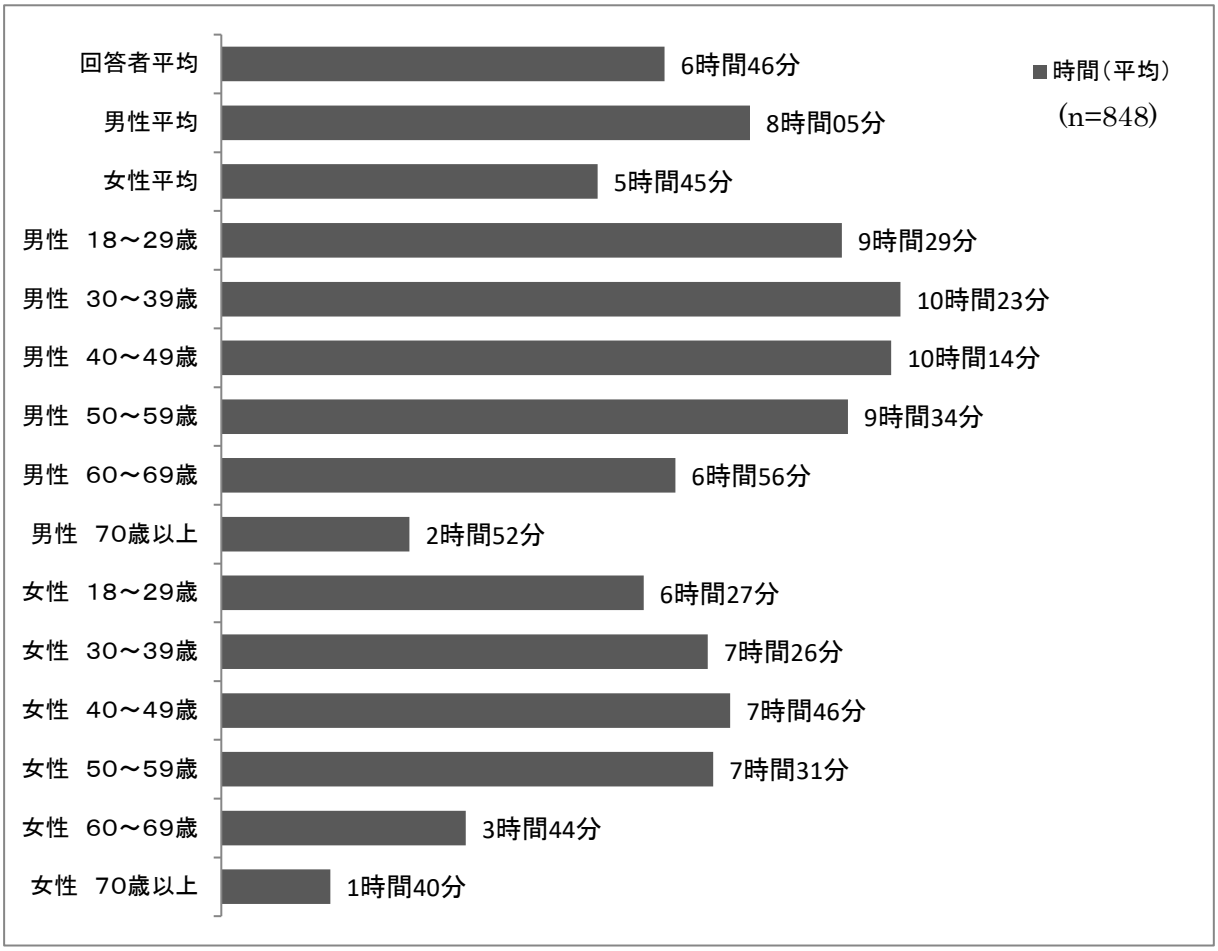
② 収入を得る仕事に使う時間（通勤時間含む）



【性別・年齢階層別】

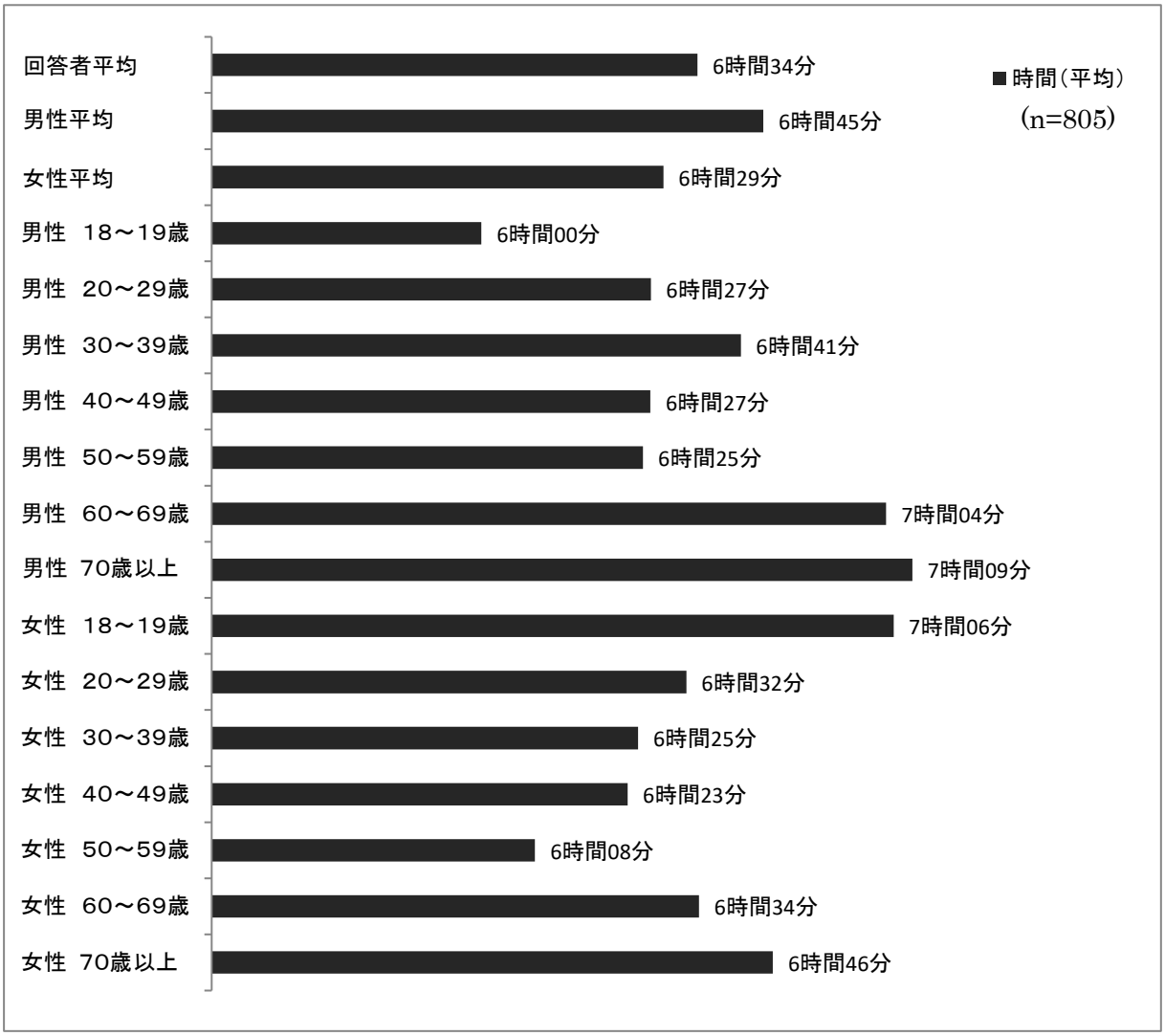
「収入を得る仕事に使う時間（通勤時間含む）」（男性 8 時間 11 分、女性 5 時間 51 分）は、男性の方が 2 時間 20 分上回っている。

【前回調査（平成 27 年度）との比較】



全体としては、前回と大きな差はみられなかったが、男性の 70 歳代が 1 時間 34 分、女性の 60 歳代が 35 分、70 歳代が 40 分それぞれ増加した。

③ 睡眠時間

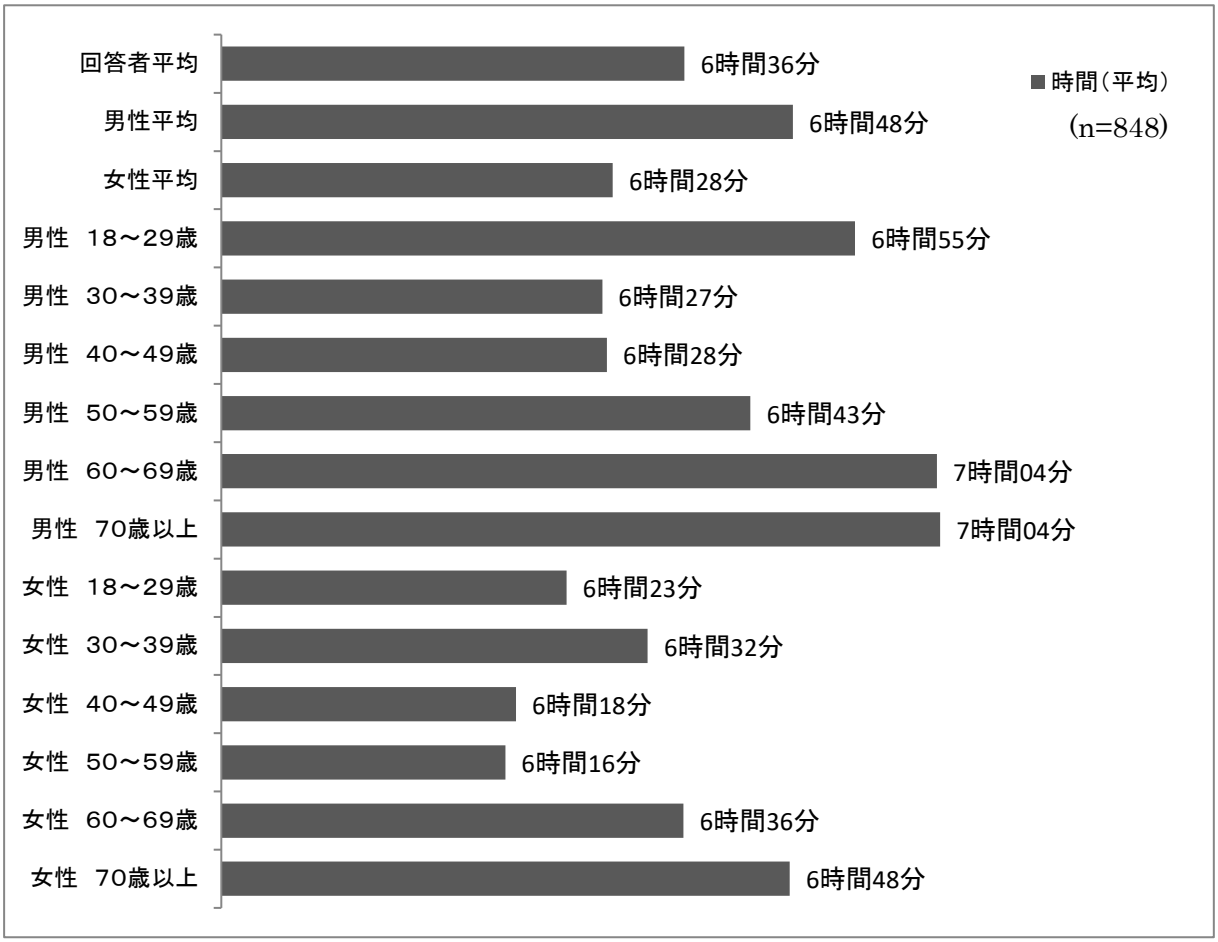


【性別・年齢階層別】

睡眠時間（男性 6 時間 45 分、女性 6 時間 29 分）は、男性の方が 16 分上回っている。

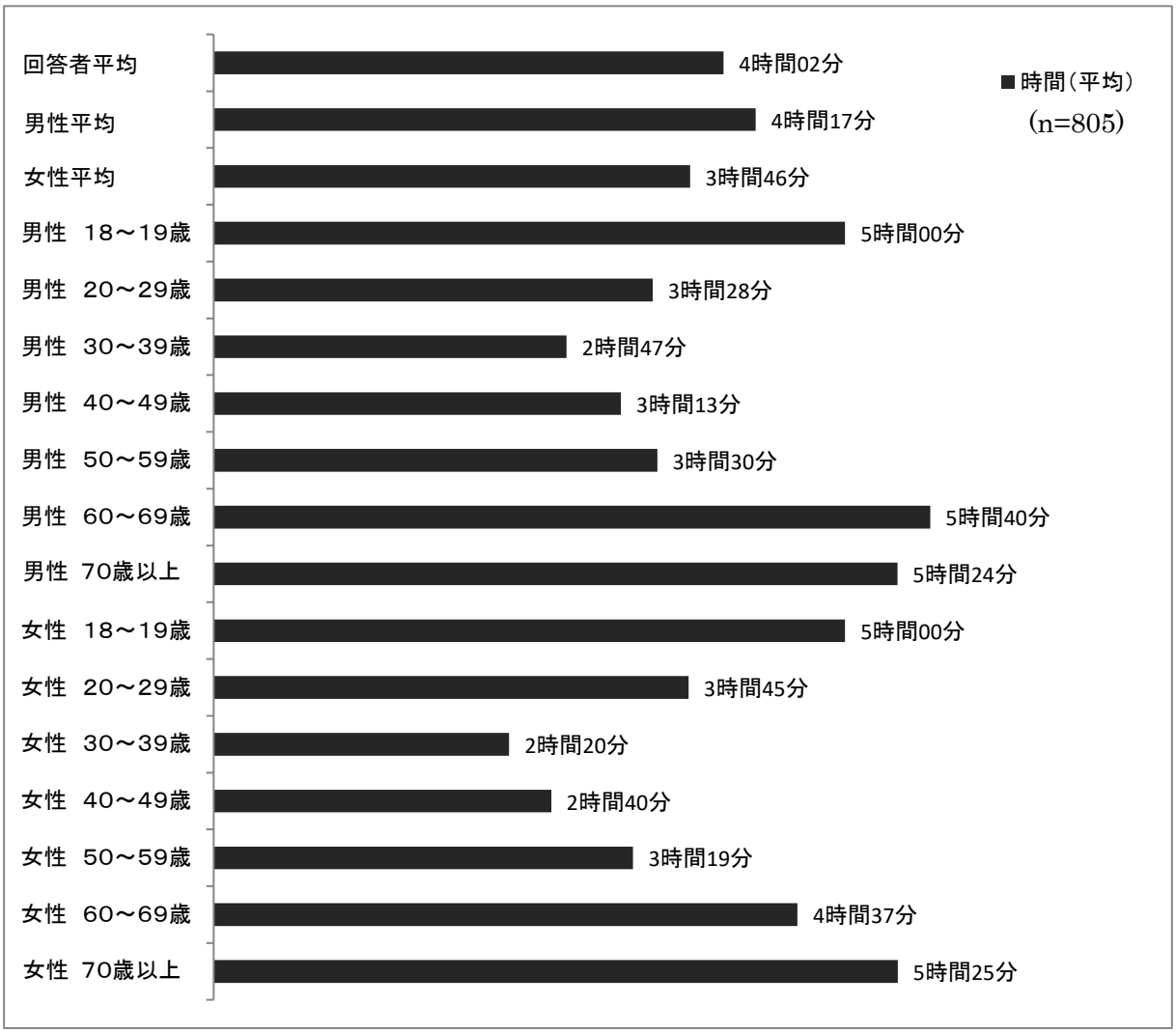
年齢別にみると、20～59 歳では男女で大きな差はみられないものの、60 歳代以上においては女性より男性の方が長い傾向が見られた。

【前回調査（平成 27 年度）との比較】



前回と大きな差はみられなかった。

④ 自分の自由になる時間

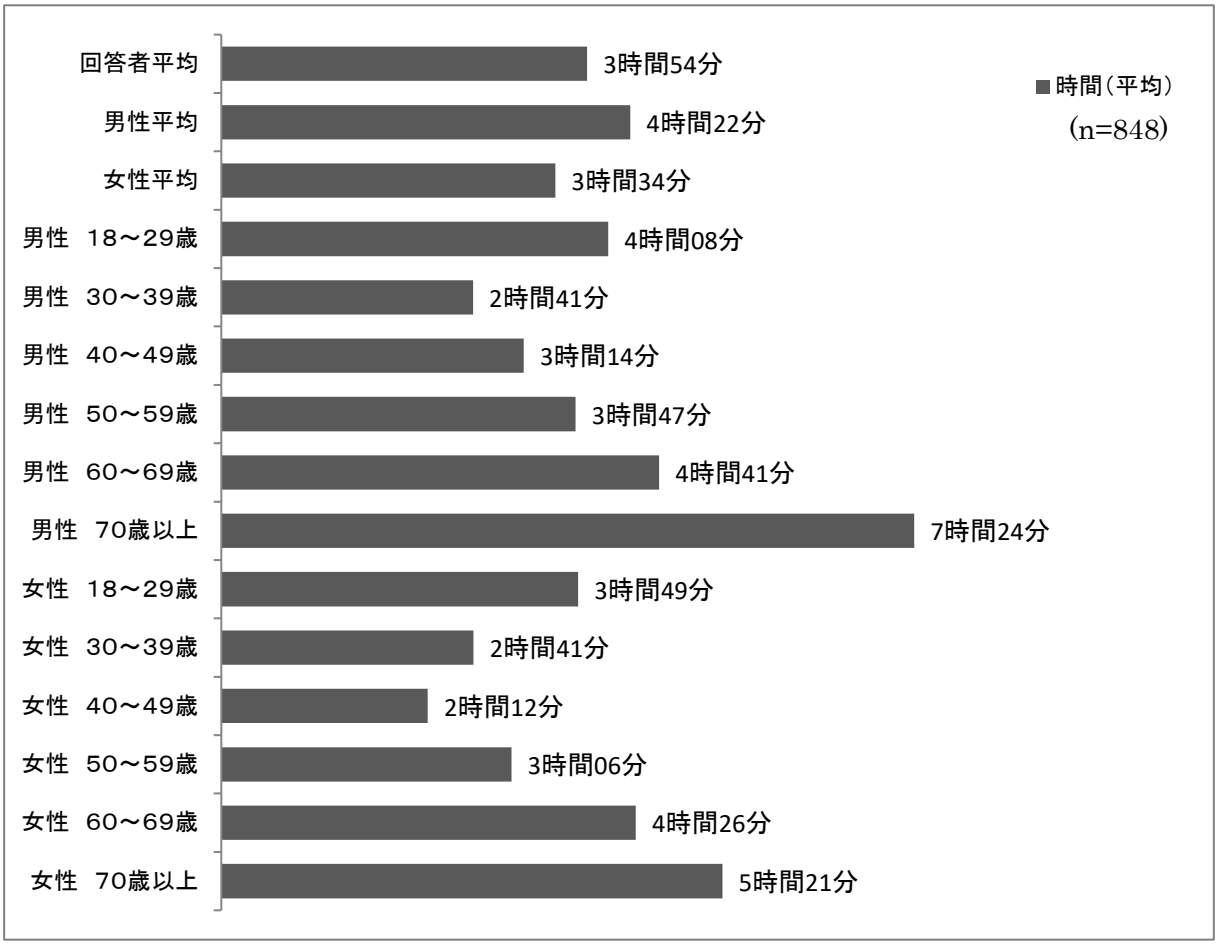


【性別・年齢階層別】

自分の自由になる時間（男性 4 時間 17 分、女性 3 時間 46 分）は、男性の方が 31 分上回っている。

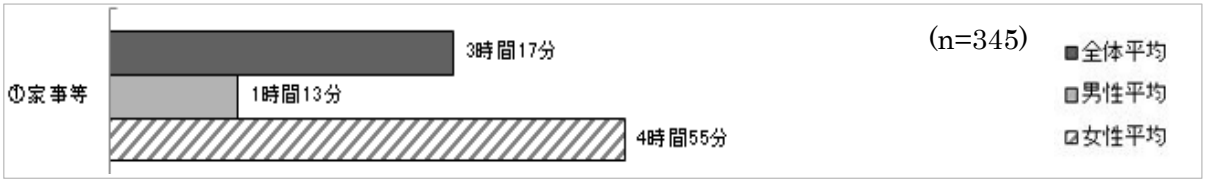
年齢別にみると、男女の時間の差が 30 歳代で 27 分、40 歳代で 33 分、60 歳代で 1 時間 3 分と大きくなっている。

【前回調査（平成 27 年度）との比較】

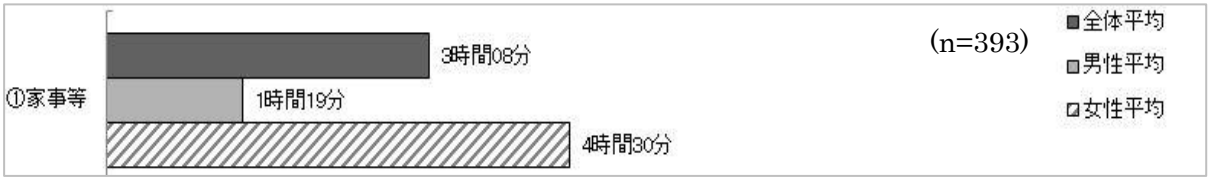


男性（今回 4 時間 17 分、前回 4 時間 22 分）は 5 分減少、女性（今回 3 時間 46 分、前回 3 時間 34 分）は 12 分増加した。男性の 60 歳代は 59 分増加した一方、70 歳代は 2 時間減少した。

（参考）① 共働き夫婦の家事・育児・介護などの時間



【前回調査（平成 27 年度）との比較】

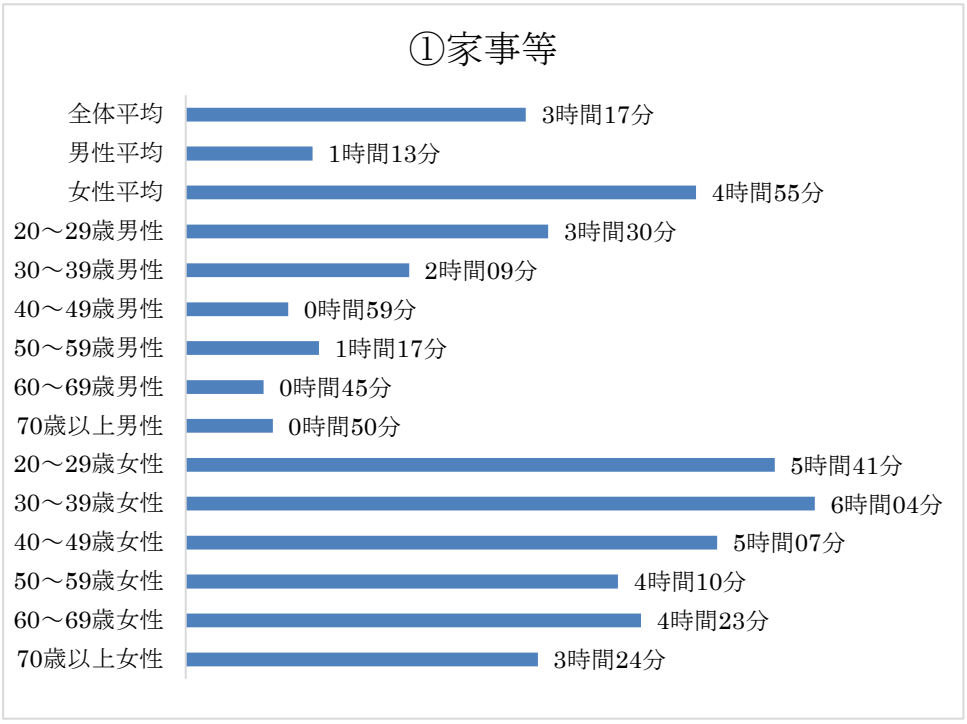


男性（今回 1 時間 13 分、前回 1 時間 19 分）は 6 分減少、女性（今回 4 時間 55 分、前回 4 時間 30 分）は 25 分増加した。

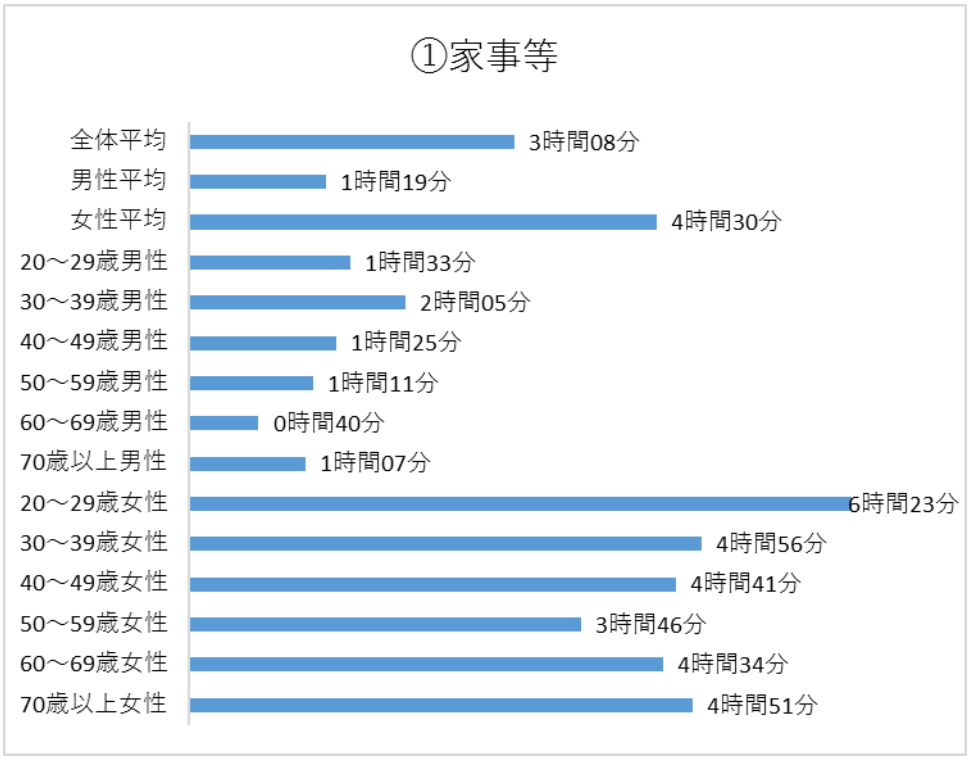
【共働き夫婦以外との比較】

共働き夫婦は、共働き夫婦以外よりも男性では 11 分少なく、女性では 53 分多いという結果となった。

（参考）年齢別共働き夫婦の家事・育児・介護などの時間

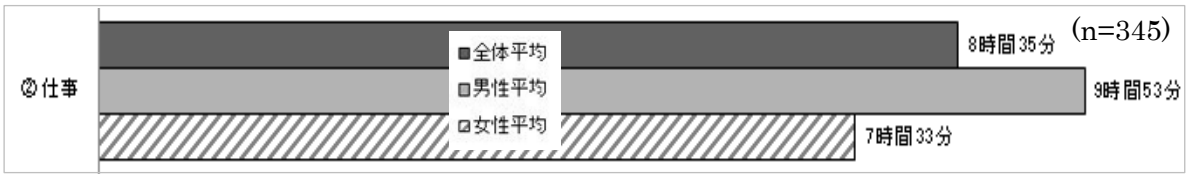


【前回調査(平成 27 年度)との比較】

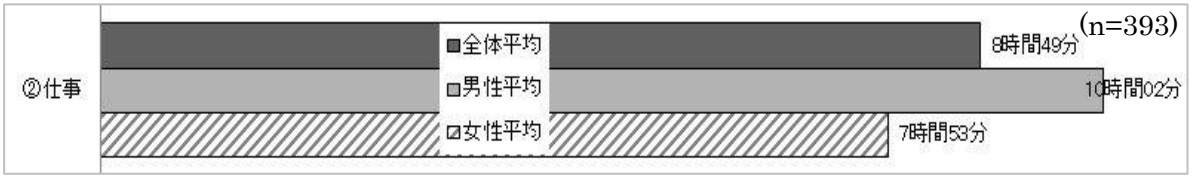


男性は、20 歳代が約 2 時間、30 歳代が 4 分、50 歳代が 6 分、60 歳代が 5 分増加している。また 40 歳代が 26 分、70 歳代以上が 17 分減少している。女性は 30 歳代が 1 時間 8 分、40 歳代が 26 分、50 歳代が 24 分増加している。また、20 歳代が 42 分、70 歳代以上が約 1 時間 30 分減少している。

（参考）② 共働き夫婦の収入を得る仕事に使う時間（通勤時間含む）

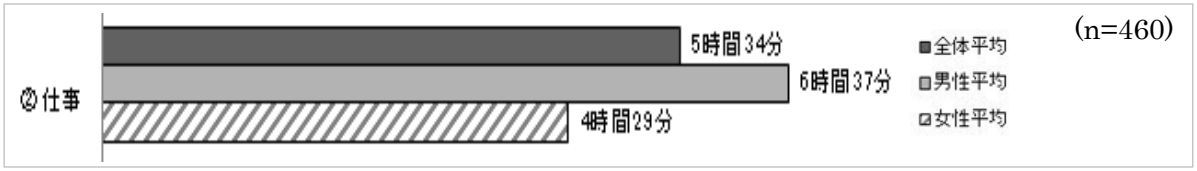


【前回調査（平成 27 年度）との比較】



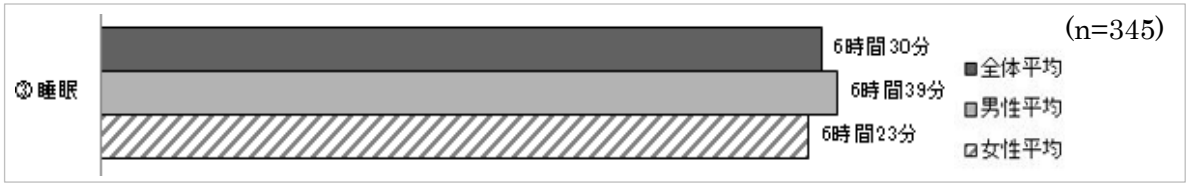
男性（今回 9 時間 53 分、前回 10 時間 2 分）は 9 分減少、女性（今回 7 時間 33 分、前回 7 時間 53 分）は 20 分減少した。

【共働き夫婦以外との比較】

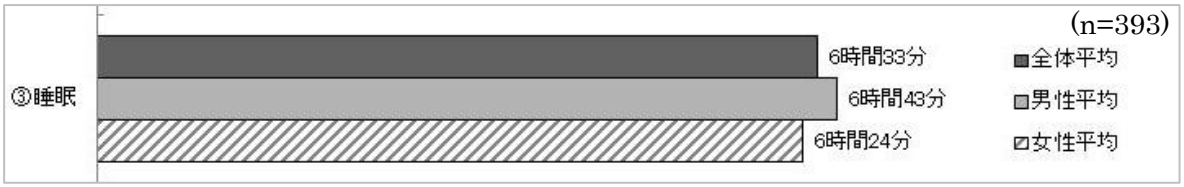


共働き夫婦は、共働き夫婦以外よりも男性では 3 時間 16 分多く、女性では 3 時間 4 分多いという結果となった。

（参考）③ 共働き夫婦の睡眠時間

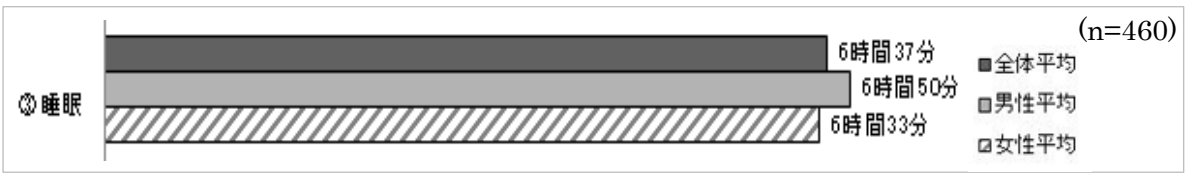


【前回調査（平成 27 年度）との比較】



男性（今回 6 時間 39 分、前回 6 時間 43 分）は 4 分減少、女性（今回 6 時間 23 分、前回 6 時間 24 分）は 1 分減少した。

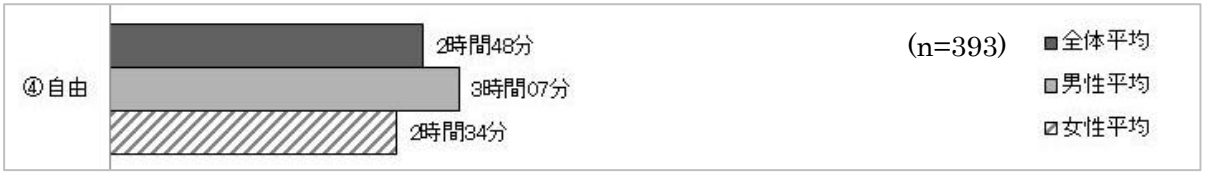
【共働き夫婦以外との比較】



共働き夫婦は、共働き夫婦以外よりも男性では 11 分少なく、女性では 10 分少ないという結果となった。

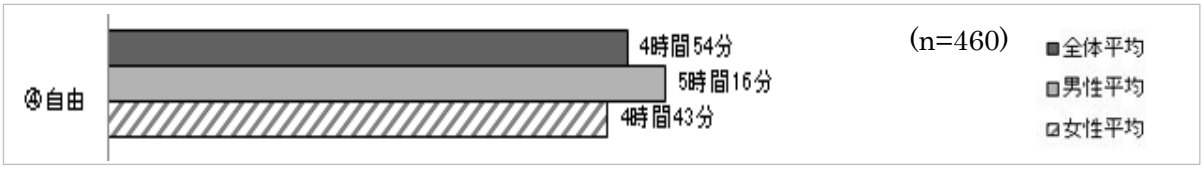
（参考）④ 共働き夫婦の自分の自由になる時間

【前回調査（平成 27 年度）との比較】



男性（今回 3 時間 14 分、前回 3 時間 7 分）は 7 分増加、女性（今回 2 時間 35 分、前回 2 時間 34 分）は 1 分増加した。

【共働き夫婦以外との比較】

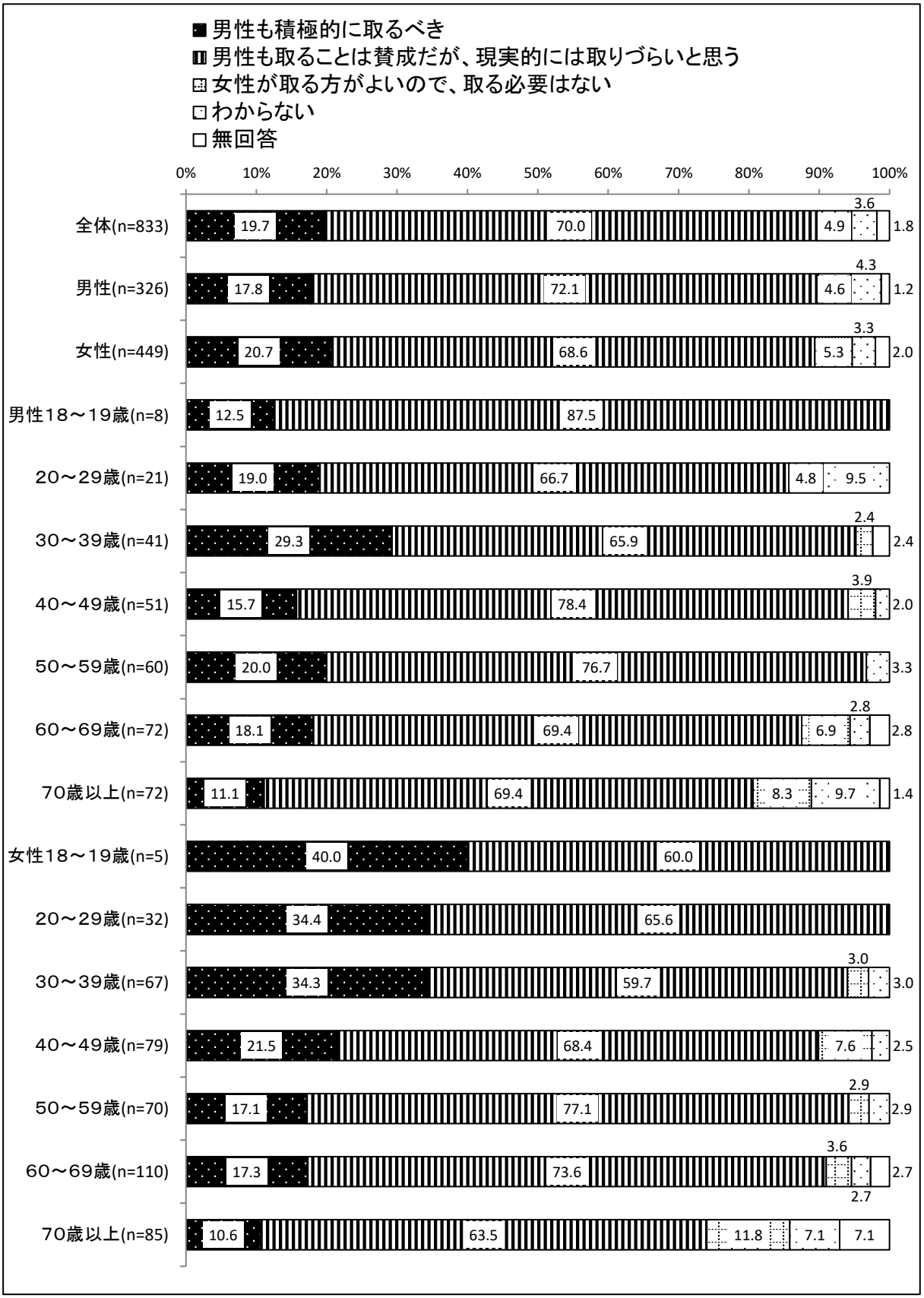


共働き夫婦は、共働き夫婦以外よりも男性では 2 時間 2 分少なく、女性では 2 時間 8 分少ないという結果となった。

(2) 男性の育児休業・介護休業の取得について

問４　あなたは、男性が育児休業・介護休業をとることについてどう思いますか。それぞれあなたの考えに最も近いものをお選びください。

① 男性の育児休業



【全体結果】

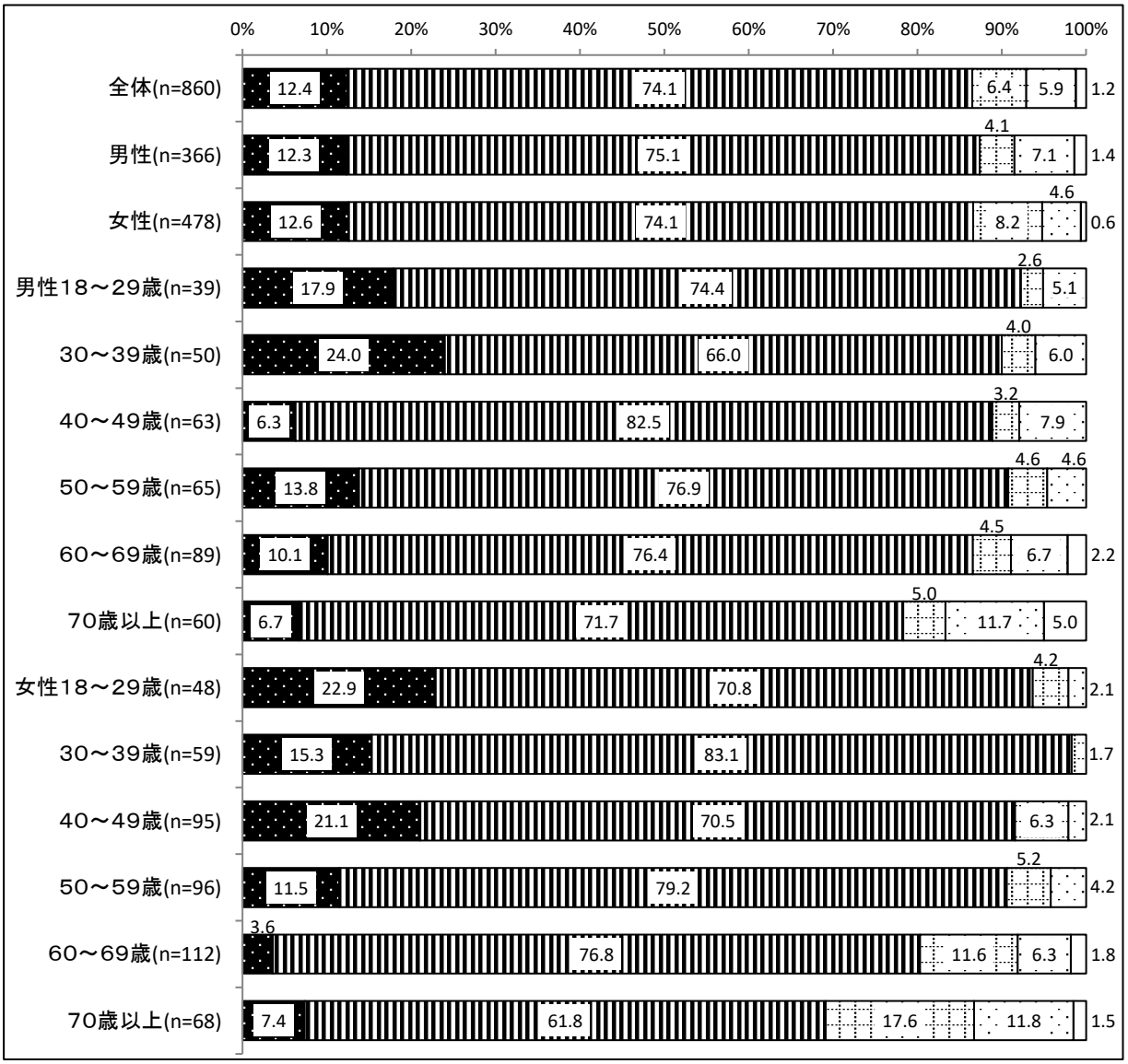
「男性も積極的にとるべき」は 19.7%、「男性も取ることには賛成だが、現実的に取りづらいと思う」は 70.0%、「女性が取る方が良いので、取る必要はない」が 4.9%、「わからない」が 3.6%という結果となった。

【性別・年齢階層別】

「男性も取ることには賛成だが、現実的に取りづらいと思う」（男性 72.1%、女性 68.6%）の割合は男女とも最も高い。男女の割合に大きな差は見られなかった。

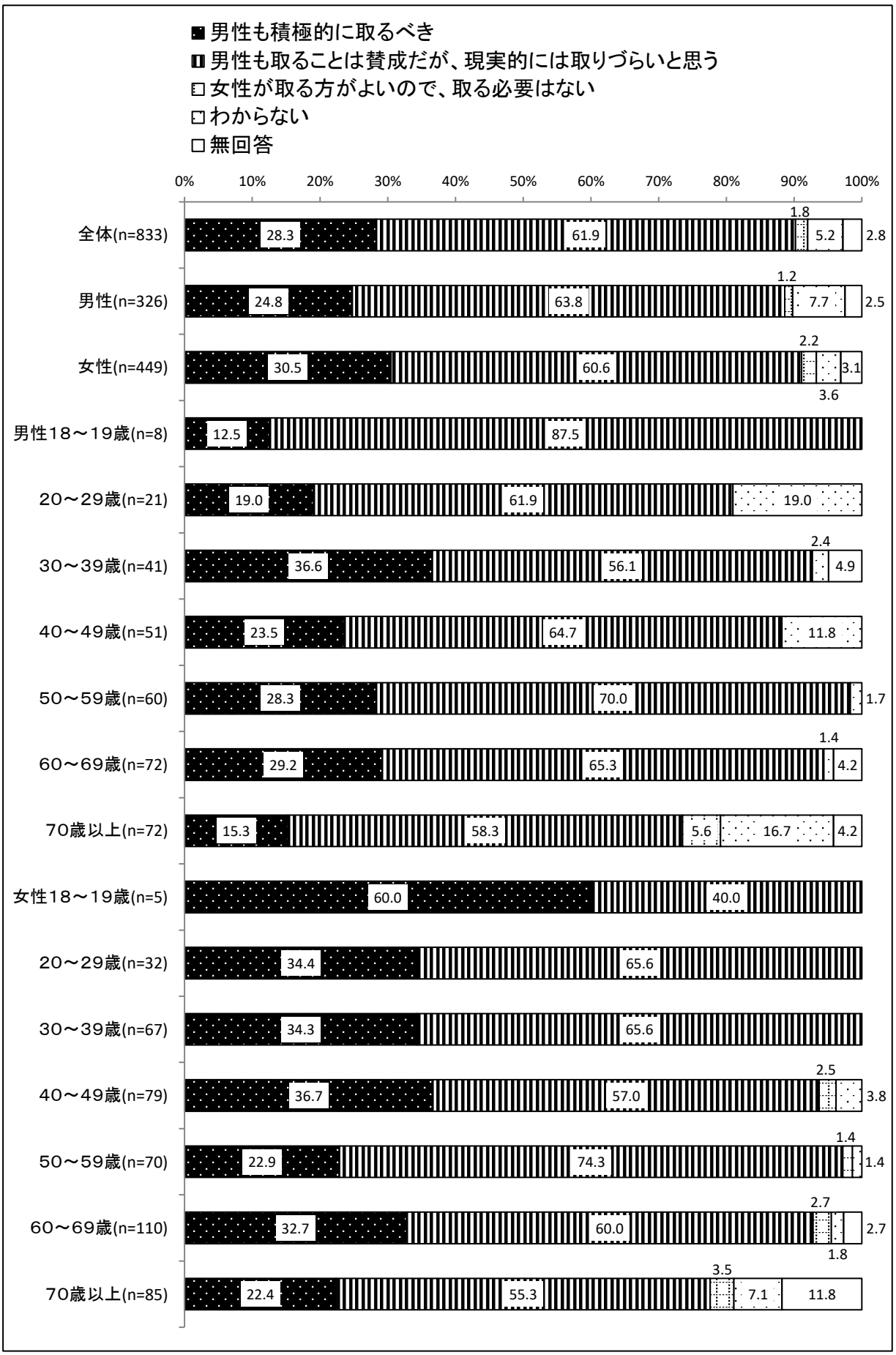
年齢別にみると、「男性も積極的に取るべき」は、男性は 30 歳代（29.3%）、女性は 18 歳～39 歳の若年層で高くなっている。「男性も取ることには賛成だが、現実的には取りづらいと思う」は、男性は 40 歳代（78.4%）、女性は 50 歳代（77.1%）で最も高くなっている。

【前回調査（平成 27 年度）との比較】



「男性も積極的に取るべき」（今回 19.7%、前回 12.4%）は前回より 7.3 ポイント増加し、「男性も取ることには賛成だが、現実的に取りづらいと思う」（今回 70.0%、前回 74.1%）は 4.1 ポイント減少した。

② 男性の介護休業


男性も積極的に取るべき
男性も取ることは賛成だが、現実的には取りづらいと思う
女性が取る方がよいので、取る必要はない
わからない
無回答
0%
10%
20%
30%
40%
50%
60%
70%
80%
90%
100%
全体(n=833)
28.3
61.9
1.8
5.2
2.8
男性(n=326)
24.8
63.8
1.2
7.7
2.5
女性(n=449)
30.5
60.6
2.2
3.1
3.6
男性18～19歳(n=8)
12.5
87.5
20～29歳(n=21)
19.0
61.9
19.0
30～39歳(n=41)
36.6
56.1
2.4
4.9
40～49歳(n=51)
23.5
64.7
11.8
50～59歳(n=60)
28.3
70.0
1.7
60～69歳(n=72)
29.2
65.3
1.4
4.2
70歳以上(n=72)
15.3
58.3
5.6
16.7
4.2
女性18～19歳(n=5)
60.0
40.0
20～29歳(n=32)
34.4
65.6
30～39歳(n=67)
34.3
65.6
40～49歳(n=79)
36.7
57.0
2.5
3.8
50～59歳(n=70)
22.9
74.3
1.4
1.4
60～69歳(n=110)
32.7
60.0
2.7
2.7
1.8
70歳以上(n=85)
22.4
55.3
3.5
7.1
11.8

【全体結果】

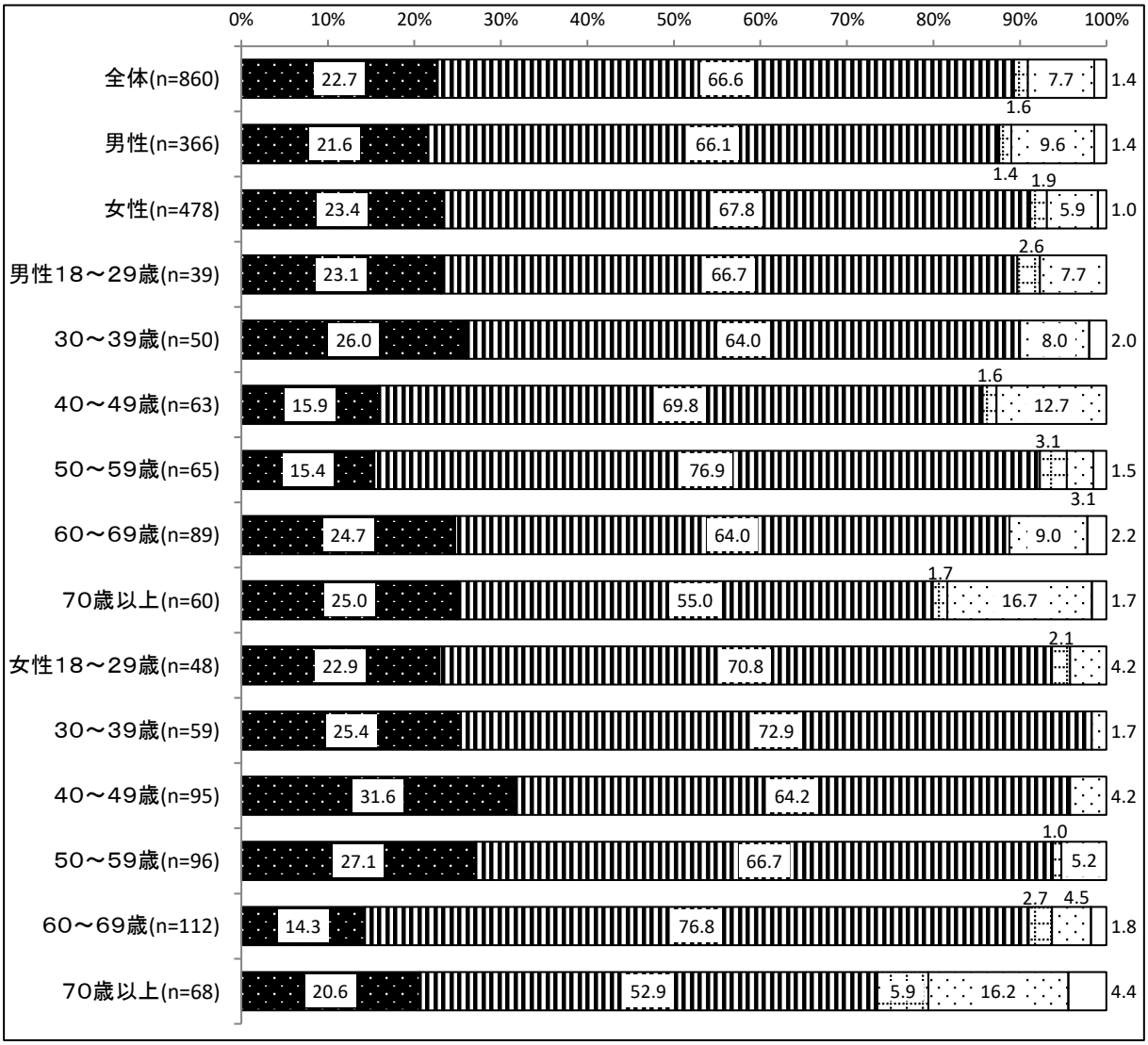
「男性も積極的にとるべき」は 28.3%、「男性も取ることには賛成だが、現実的に取りづらいと思う」が 61.9%、「女性が取る方が良いので、取る必要はない」が 1.8%、「わからない」は 5.2%という結果となった。

【性別・年齢階層別】

「男性も取ることには賛成だが、現実的に取りづらいと思う」（男性 63.8%、女性 60.6%）が男女ともに最も高い。男女の割合に大きな差は見られなかった。

年齢別にみると、「男性も積極的に取るべき」の割合が、男性においては 30 歳代（36.6%）が他の年代に比べて高くなっている。男女ともに 70 歳以上において、「男性も積極的に取るべき」と「男性も取ることには賛成だが、現実的には取りづらいと思う」を合わせた割合が他の年代に比べて低くなっている（男性 73.6%、女性 77.7%）。

【前回調査（平成 27 年度）との比較】

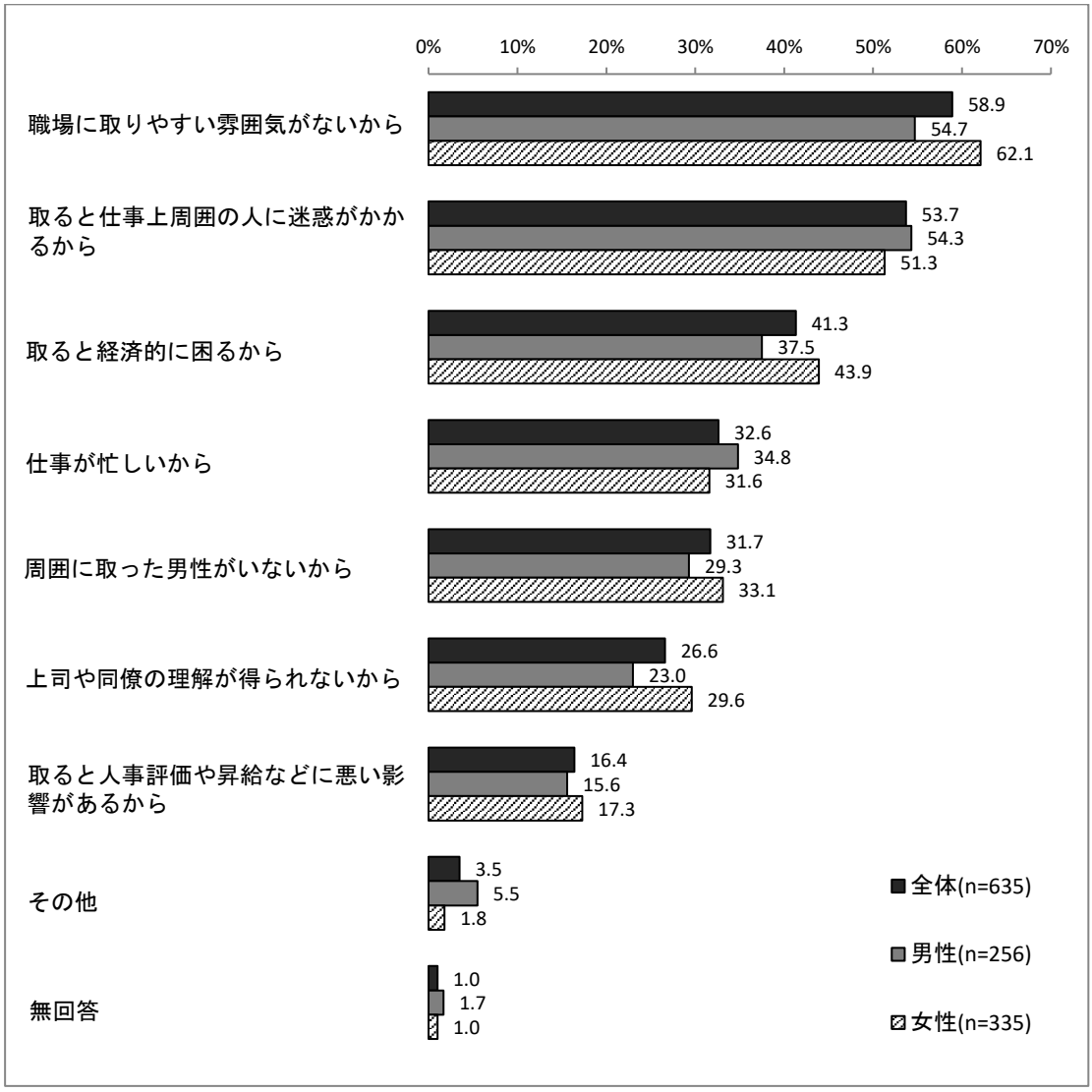


「男性も積極的に取るべき」（今回 28.3%、前回 22.7%）は前回より 5.6 ポイント増加し、「男性も取ることには賛成だが、現実的に取りづらいと思う」（今回 61.9%、前回 66.6%）は 4.7 ポイント減少した。

(3) 育児休業・介護休業が取りづらい理由

問４-１　その理由は何だと思いますか。（○は３つまで）

【問４で「男性も取ることには賛成だが、現実的には取りづらいと思う」と答えた方が回答】



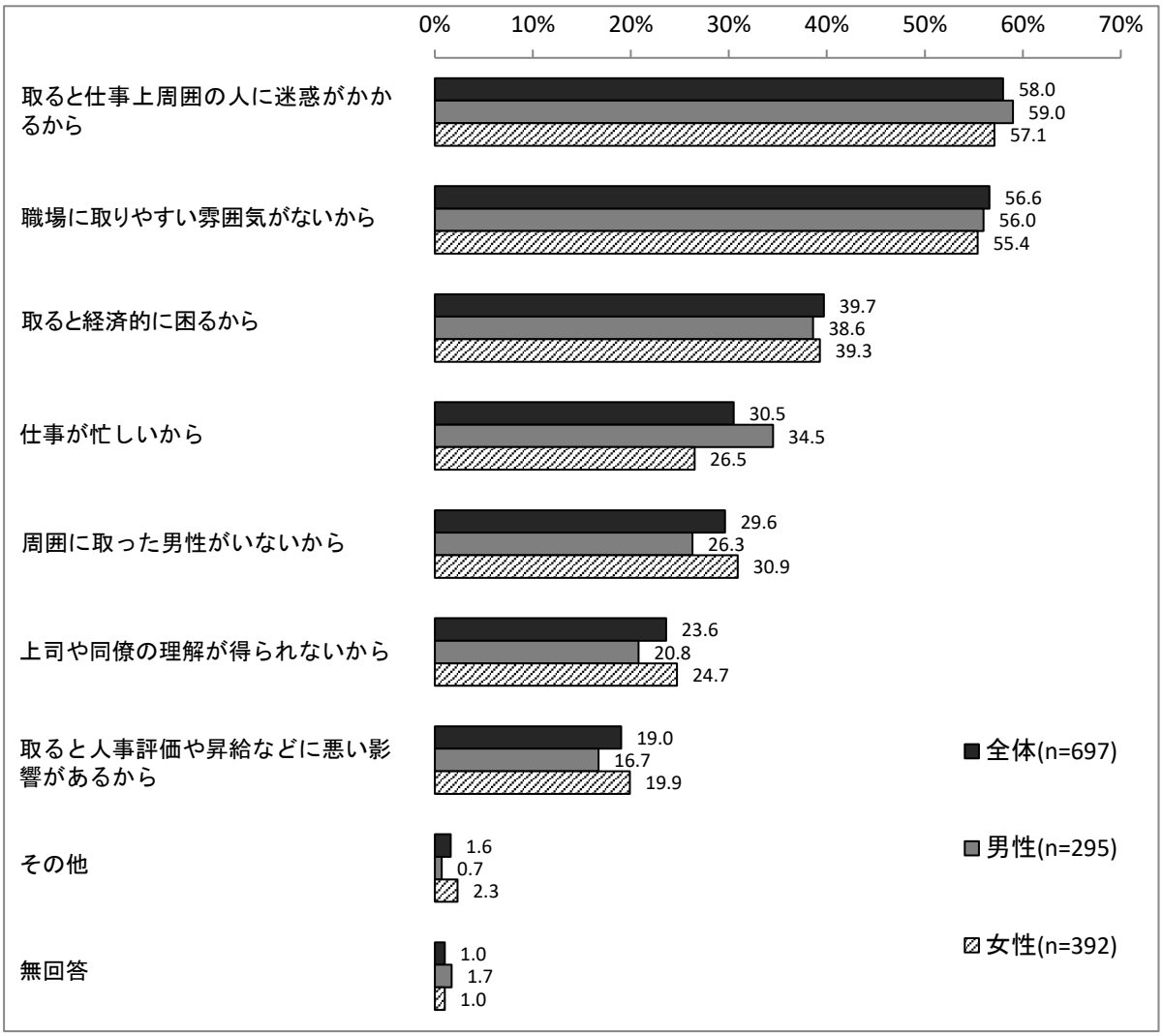
【全体結果】

「職場に取りやすい雰囲気がないから」が 58.9%で最も多く、次いで「取ると仕事上周囲の人に迷惑がかかるから」が 53.7%、「取ると経済的に困るから」が 41.3%という結果となった。

【性別による結果】

男女で大きな差は見られなかった。

【前回調査（平成 27 年度）との比較】

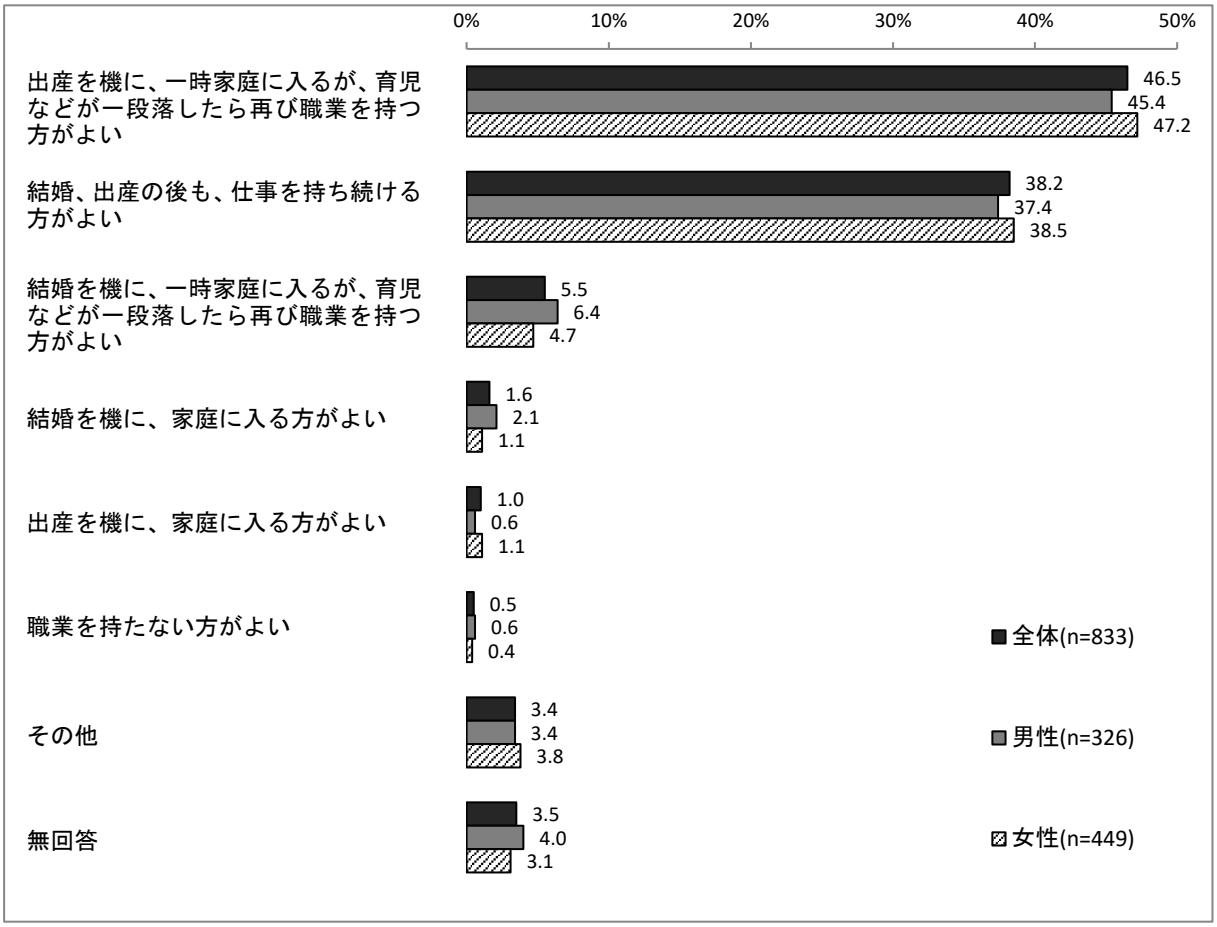


前回は「取ると仕事上周囲の人に迷惑がかかるから」が 58.0%で最も多く、「職場に取りやすい雰囲気がないから」が 56.6%で２番目に多かったが、今回はその順位が逆転する結果となった。

４．女性の社会参画について

(1) 女性の職業と生活設計についての考え方

問５　あなたは、女性の職業と生活設計についてどのように考えますか。（○は１つだけ）



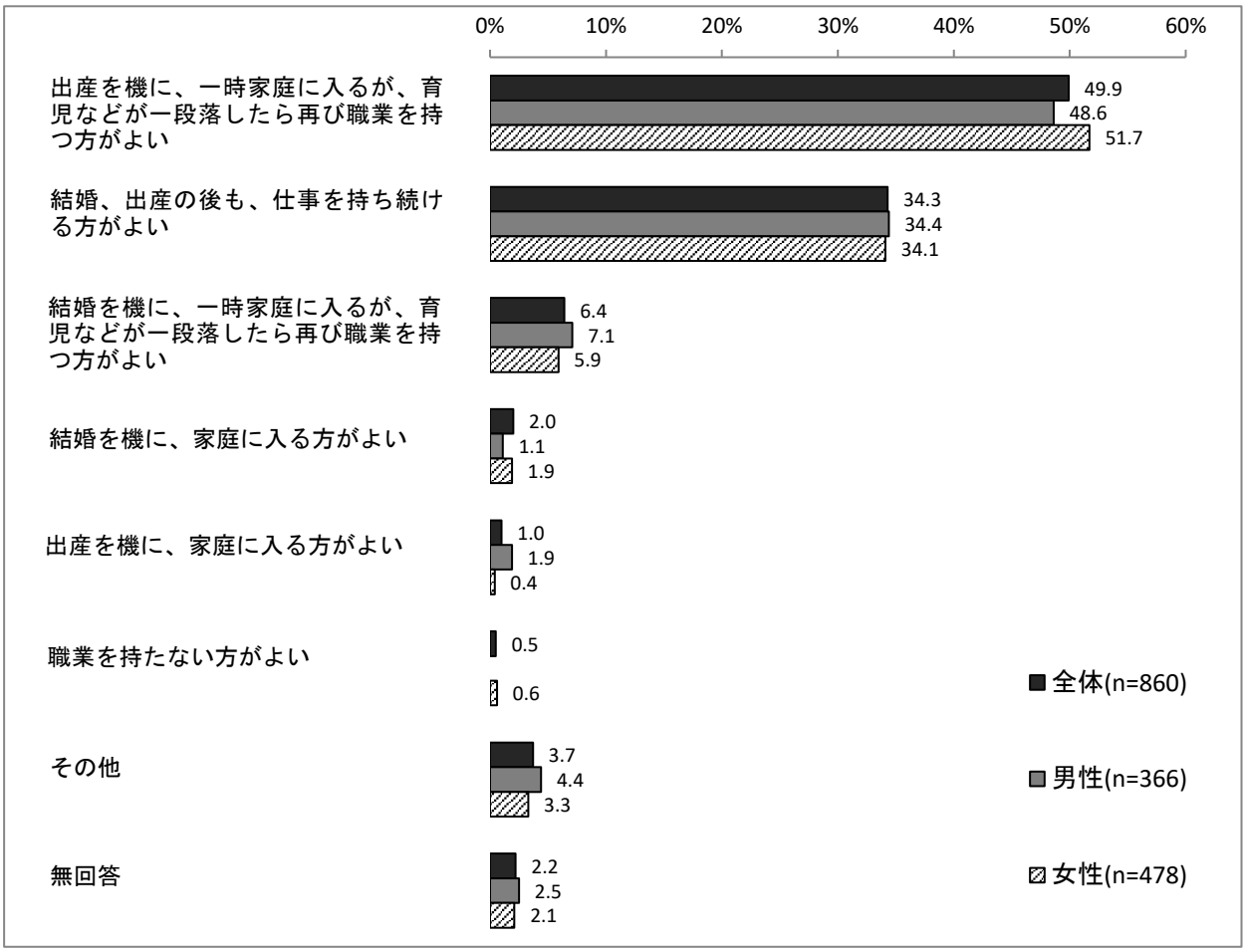
【全体結果】

「出産を機に、一時家庭に入るが、育児などが一段落したら再び職業を持つ方がよい」（以下「子育てによる就労中断型」）が 46.5％で最も高い。次いで「結婚、出産の後も仕事を続ける方がよい」（以下「就労継続型」）が 38.2％と続いている。

【性別による結果】

男女で大きな差は見られなかった。

【前回調査（平成 27 年度）との比較】

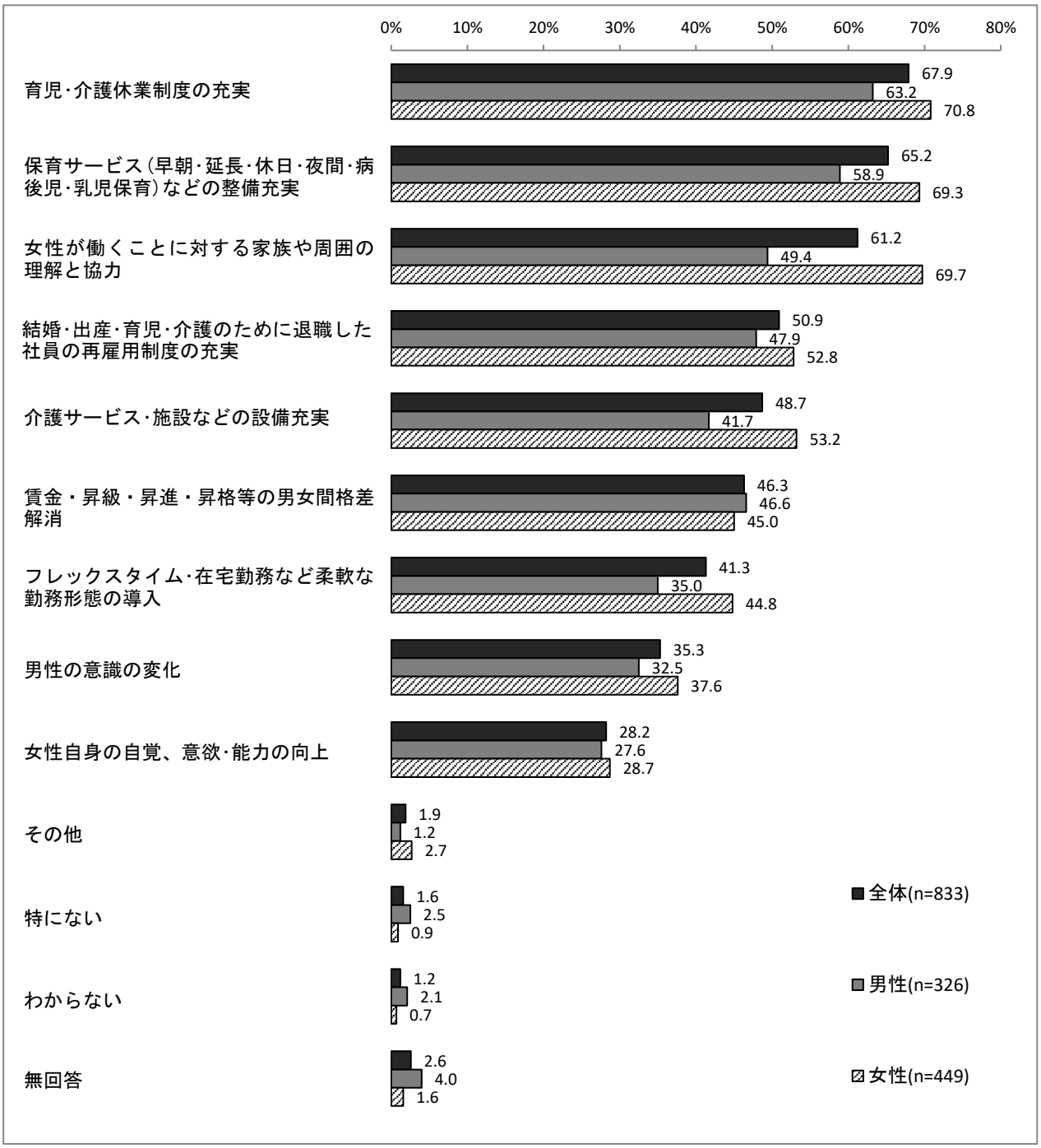


「就労継続型」（今回 38.2%、前回 34.3%）は、3.9 ポイント増加し、「子育てによる就労中断型」（今回 46.5%、前回 49.9%）は、3.4 ポイント減少している。

その他については、前回と大きな差は見られなかった。

(2) 女性が働き続けるために必要なこと

問６　　あなたは、女性が働き続けるためには、どのようなことが必要だと思いますか。あてはまるものすべてお選びください。



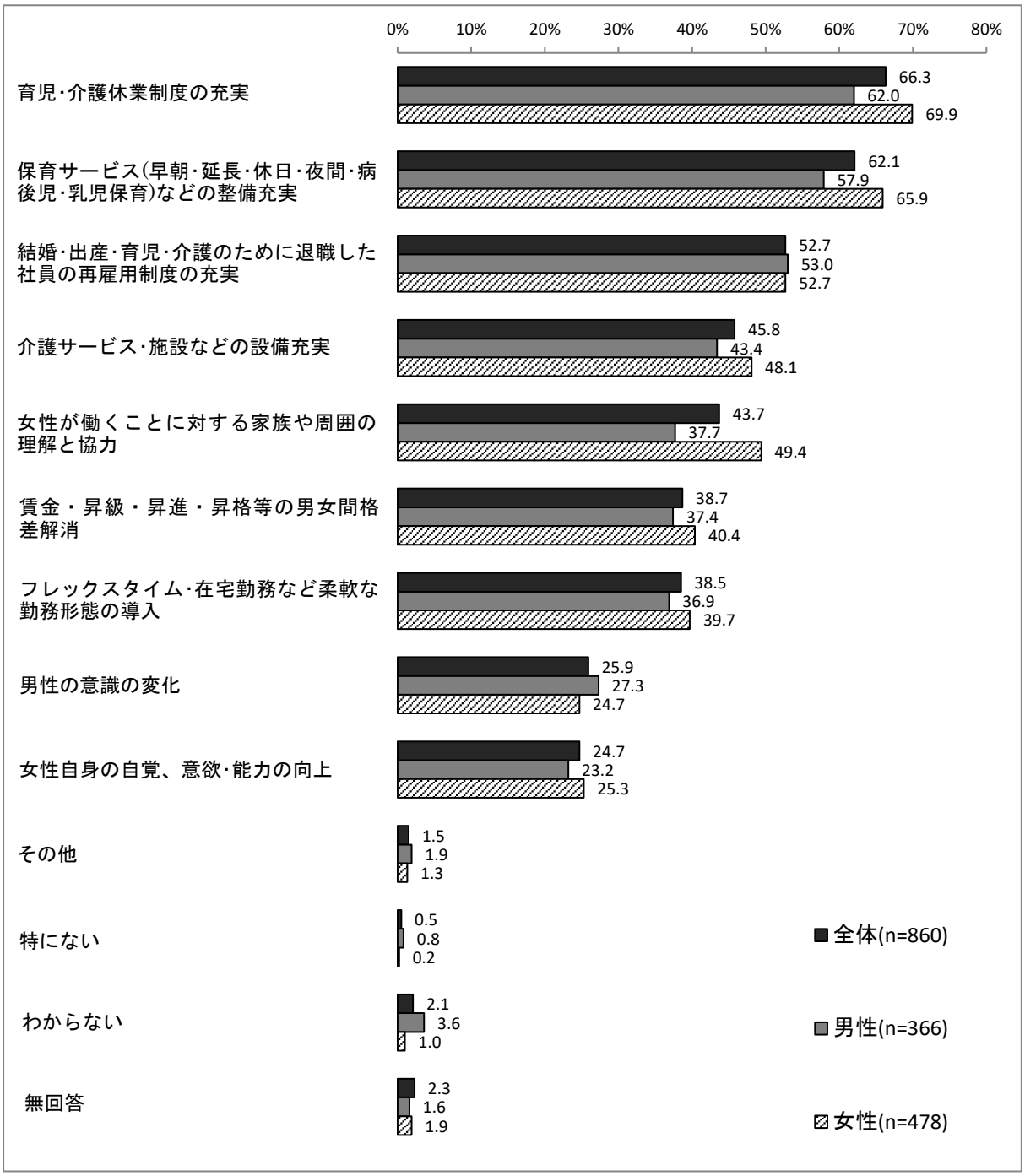
【全体結果】

「育児・介護休業制度の充実」が 67.9%で最も高く、次いで「保育サービスなどの整備充実」が 65.2%、「女性が働くことに対する家族や周囲の理解と協力」が 61.2%と続いている。

【性別による結果】

「女性が働くことに対する家族や周囲の理解と協力」（男性 49.4%、女性 69.7%）は、女性より男性の方が 20.3 ポイント少なく、男女の差が最もあった。

【前回調査（平成 27 年度）との比較】

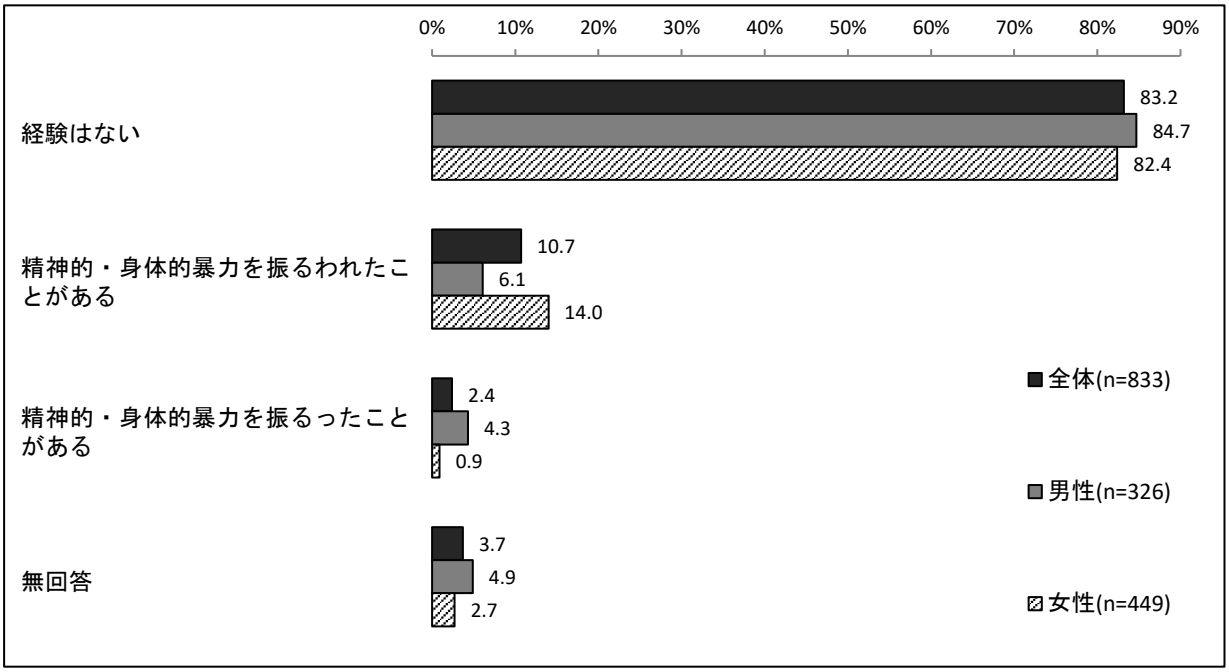


前回と同様に、「育児・介護休業制度の充実」が最も高く、次いで「保育サービスなどの整備充実」が続いているが、前回は５番目に割合が高かった「女性が働くことに対する家族や周囲の理解と協力」（今回 61.2%、前回 43.7%）が３番目に高い結果となった。

５．男女の人権について

(1) ドメスティック・バイオレンスの経験

問７　あなたは、配偶者やパートナーなどからの（への）精神的・身体的暴力（DV：ドメスティック・バイオレンス）を振るわれたり、振るったりした経験はありますか。



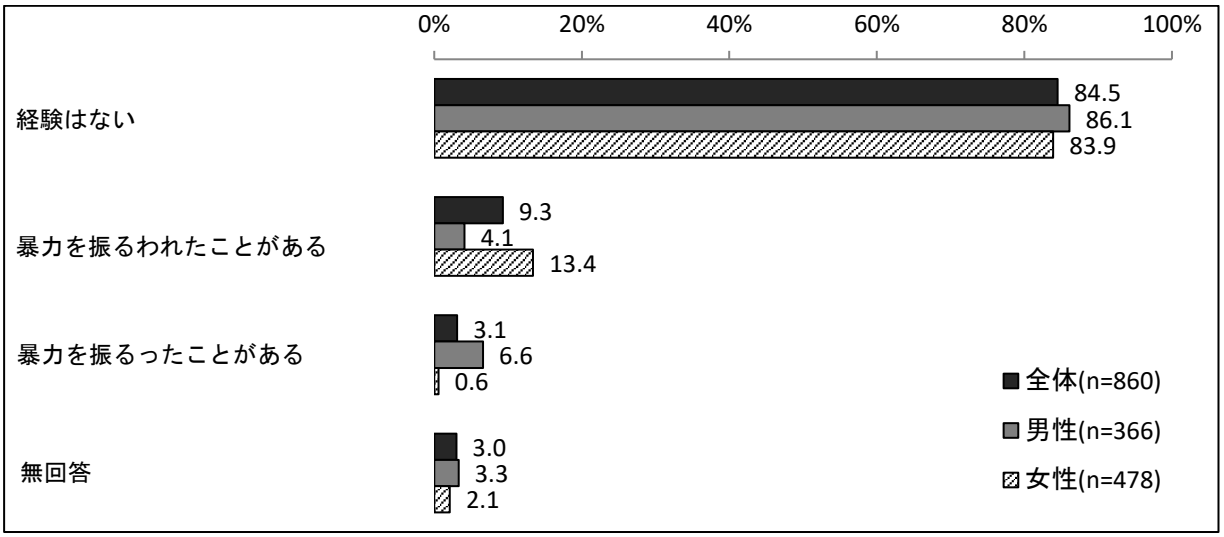
【全体結果】

「経験はない」が 83.2%で最も高く、「振るわれたことがある」は 10.7%、「振るったことがある」は 2.4%という結果となった。

【性別による結果】

「振るわれたことがある」（男性 6.1%、女性 14.0%）の割合は女性の方が 7.9 ポイント高く、「振るったことがある」（男性 4.3%、女性 0.9%）は男性の方が 3.4 ポイント高くなっている。

【前回調査（平成 27 年度）との比較】

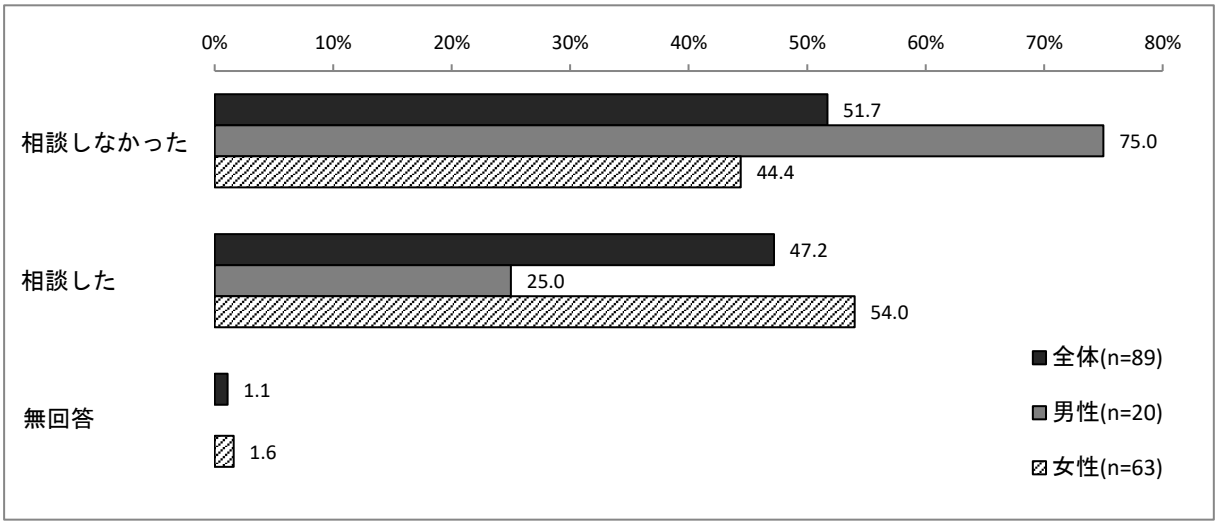


「振るわれたことがある」という男性（今回 6.1%、前回 4.1%）は 2.0 ポイント増加、女性（今回 14.0%、前回 13.4%）は 0.6 ポイント増加している。「振るったことがある」という男性（今回 4.3%、前回 6.6%）は 2.3 ポイント減少している。

(2) ドメスティック・バイオレンスに関する相談状況

問８　あなたはこのような行為を受けていることを誰かに相談しましたか。

【問７で「精神的・身体的暴力を振るわれたことがある」と答えた方が回答】

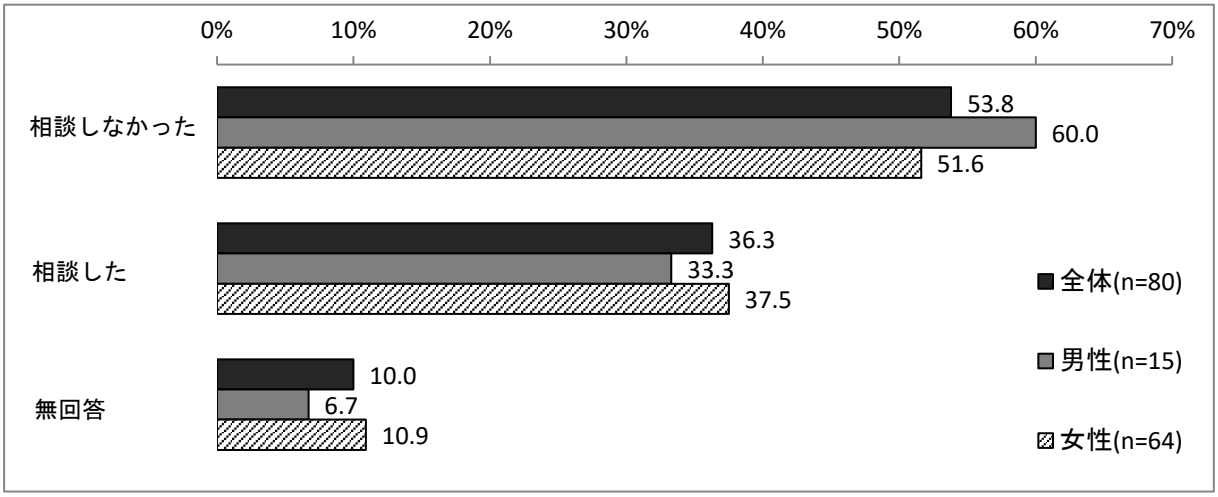


【全体・性別結果】

「相談した」の割合が 47.2%で、「相談しなかった」の 51.7%よりも 4.5 ポイント低くなっている。

性別でみると、「相談した」（男性 25.0%、女性 54.0%）は、男性の方が 29.0 ポイント低く、「相談しなかった」（男性 75.0%、女性 44.4%）は、女性の方が 30.6 ポイント低くなっている。

【前回調査（平成 27 年度）との比較】

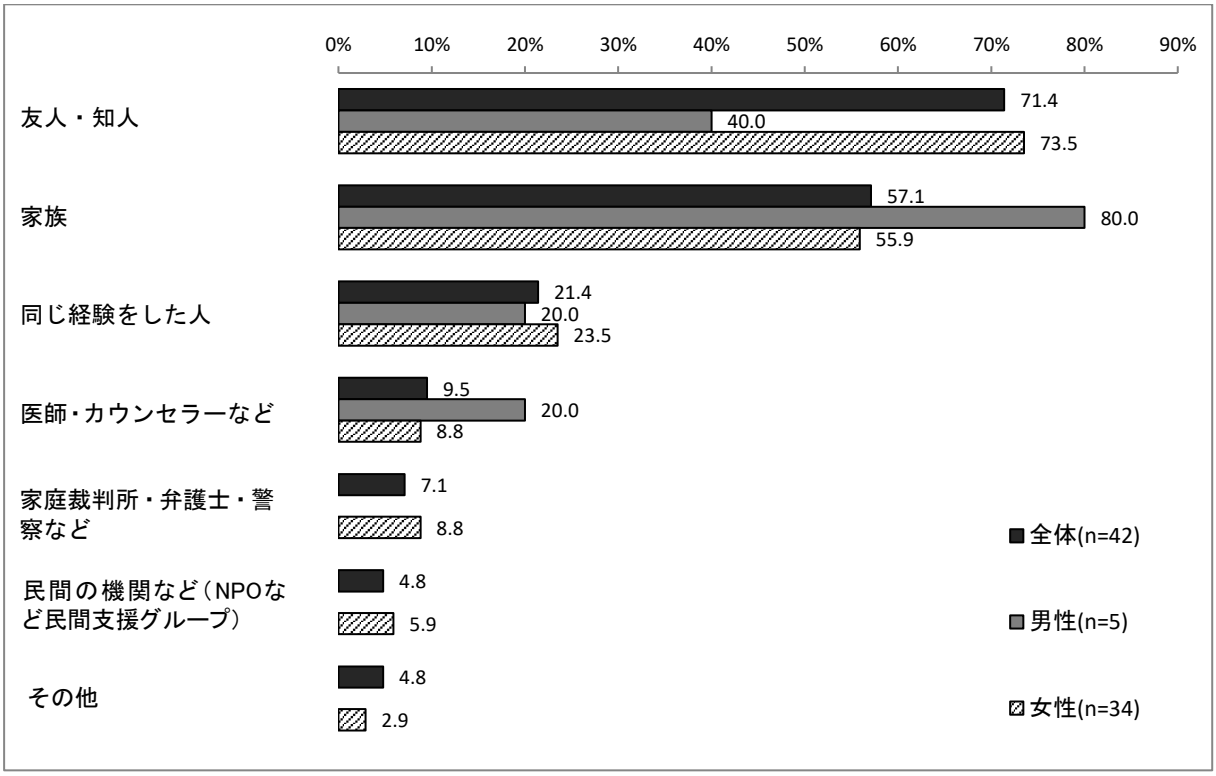


「相談した」（今回 47.2%、前回 36.3%）は 10.9 ポイント増加し、「相談しなかった」（今回 51.7%、前回 53.8%）は 2.1 ポイント減少した。女性において、「相談した」（今回 54.0%、前回 37.5%）の割合が 16.5 ポイントと大きく増加した。

(3) ドメスティック・バイオレンスに関する相談先

問９　実際にどこ（だれ）に相談をしましたか。

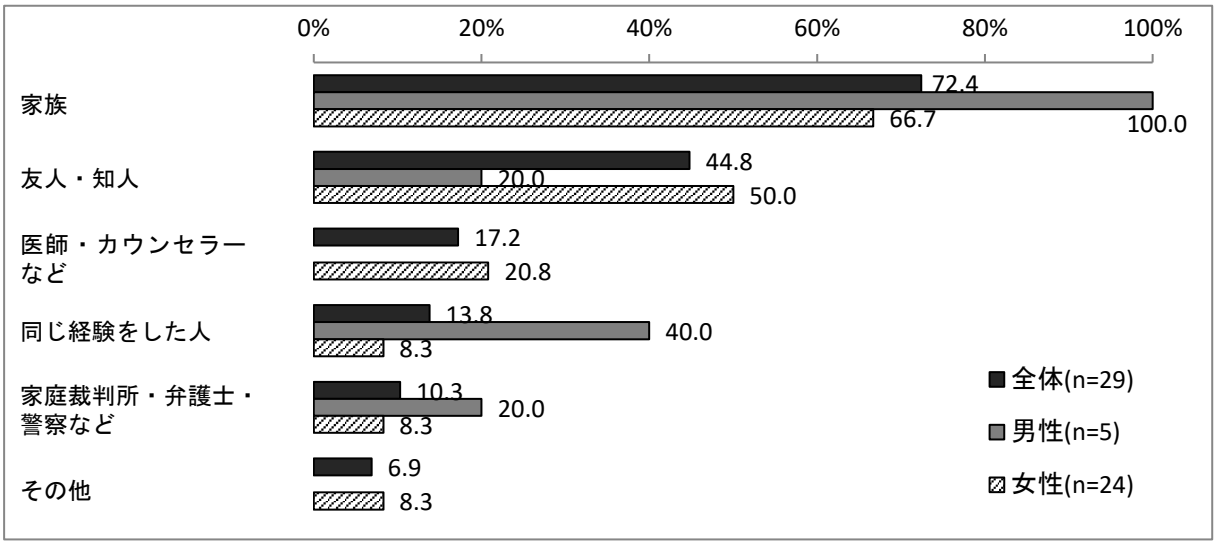
【問８で「相談した」と答えた方が回答】



「友人・知人」が 71.4%で最も高く、次いで「家族」（57.1%）、「同じ経験をした人」（21.4%）と続いている。

性別でみると、男性は「家族」が 80.0%となっており、次いで「友人・知人」（40.0%）と続いている。女性では、「友人・知人」が 73.5%で最も高く、次いで「家族」（55.9%）となっている。

【前回調査（平成 27 年度）との比較】

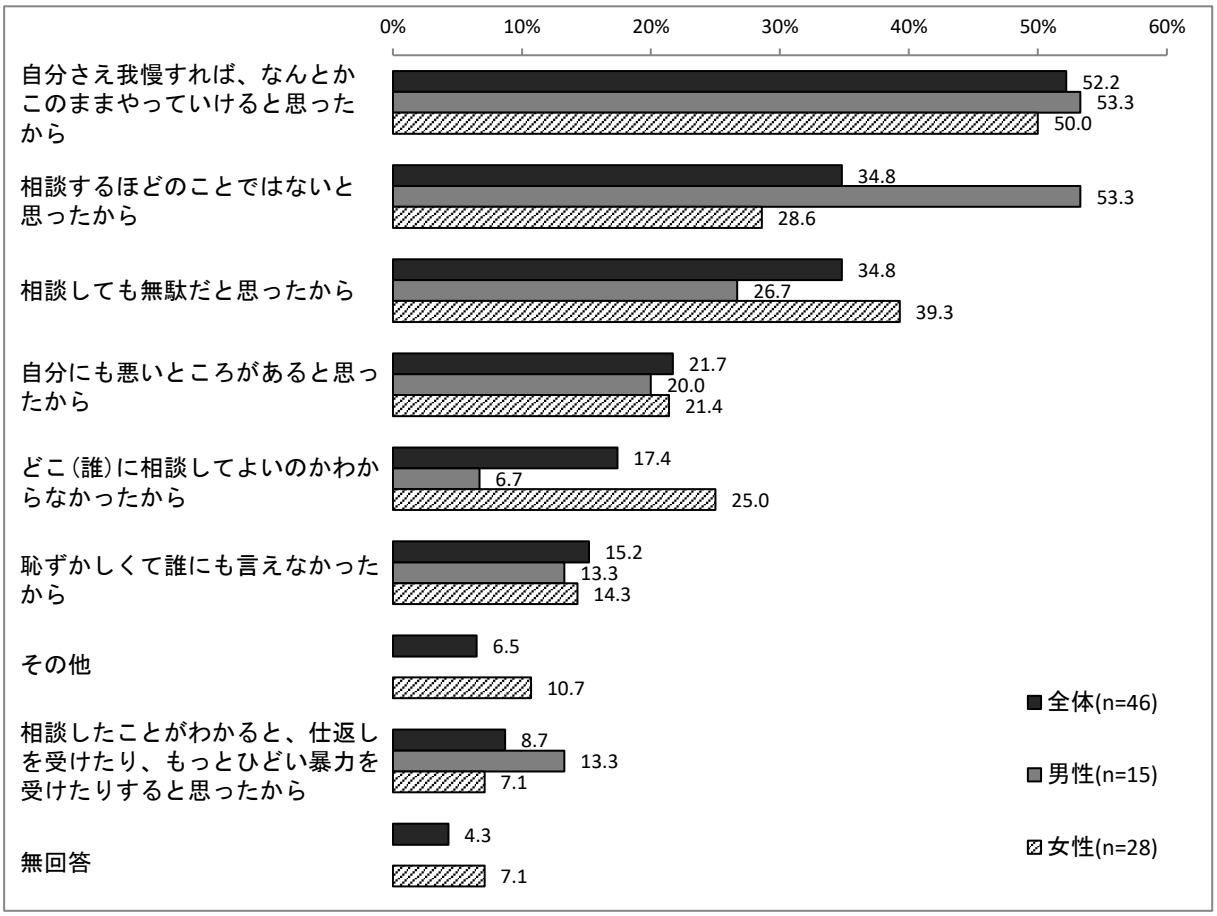


前回最も高い割合だった「家族」（今回 57.1%、前回 72.4%）が２番目に高い結果となり、代わりに「友人・知人」（今回 71.4%、前回 44.8%）が最も高い割合を占めている。

(4) ドメスティック・バイオレンスに関する相談をしなかった理由

問１０　「相談しなかった」のはなぜですか。

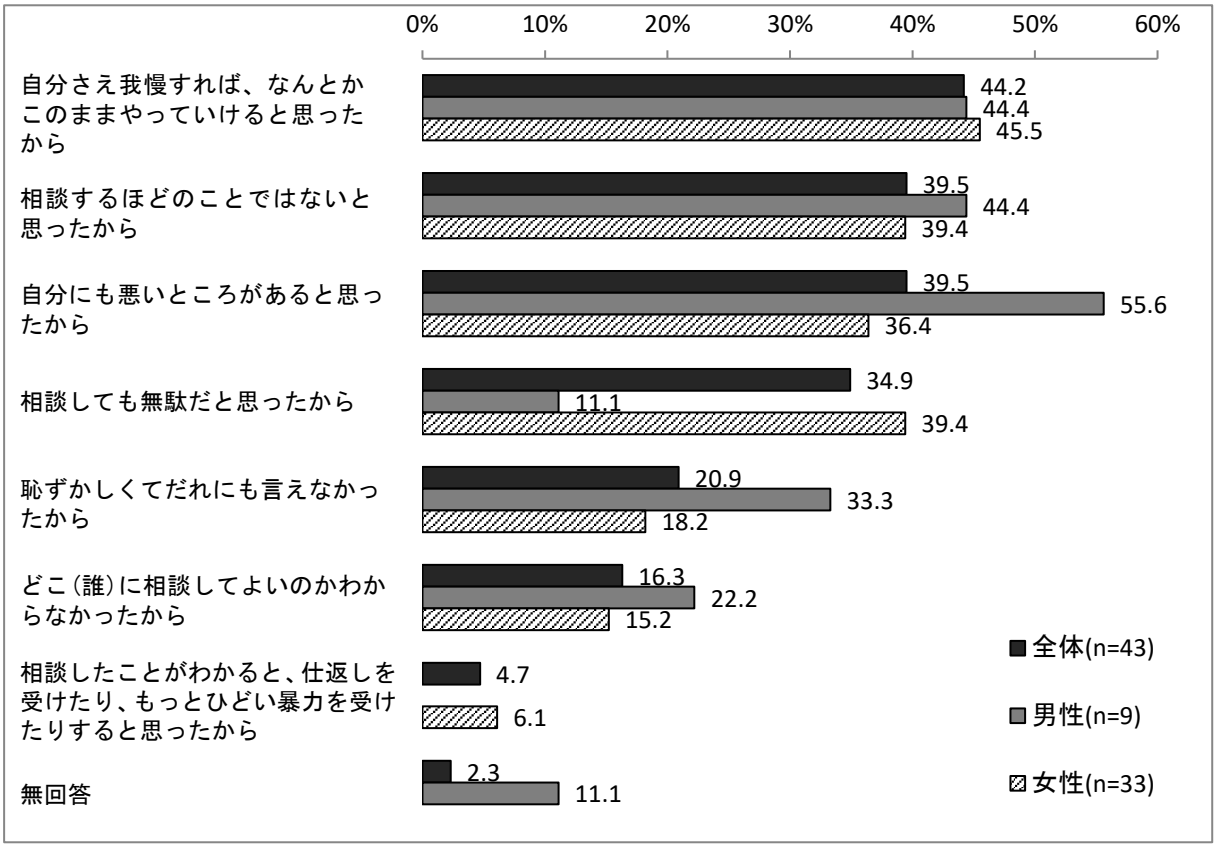
【問８で「相談しなかった」と答えた方が回答】



「自分さえ我慢すれば、なんとかこのままやっていけると思ったから」が 52.2%で最も高くなっている。次いで「相談するほどのことではないと思ったから」（34.8%）と「相談しても無駄だと思ったから」（34.8%）が同率で続いている。

男女ともに「自分さえ我慢すればなんとかこのままやっていけると思ったから」（男性 53.3%、女性 50.0%）が最も高くなっている（男性は「相談するほどのことではないと思ったから」（53.3%）と同率）。

【前回調査（平成 27 年度）との比較】

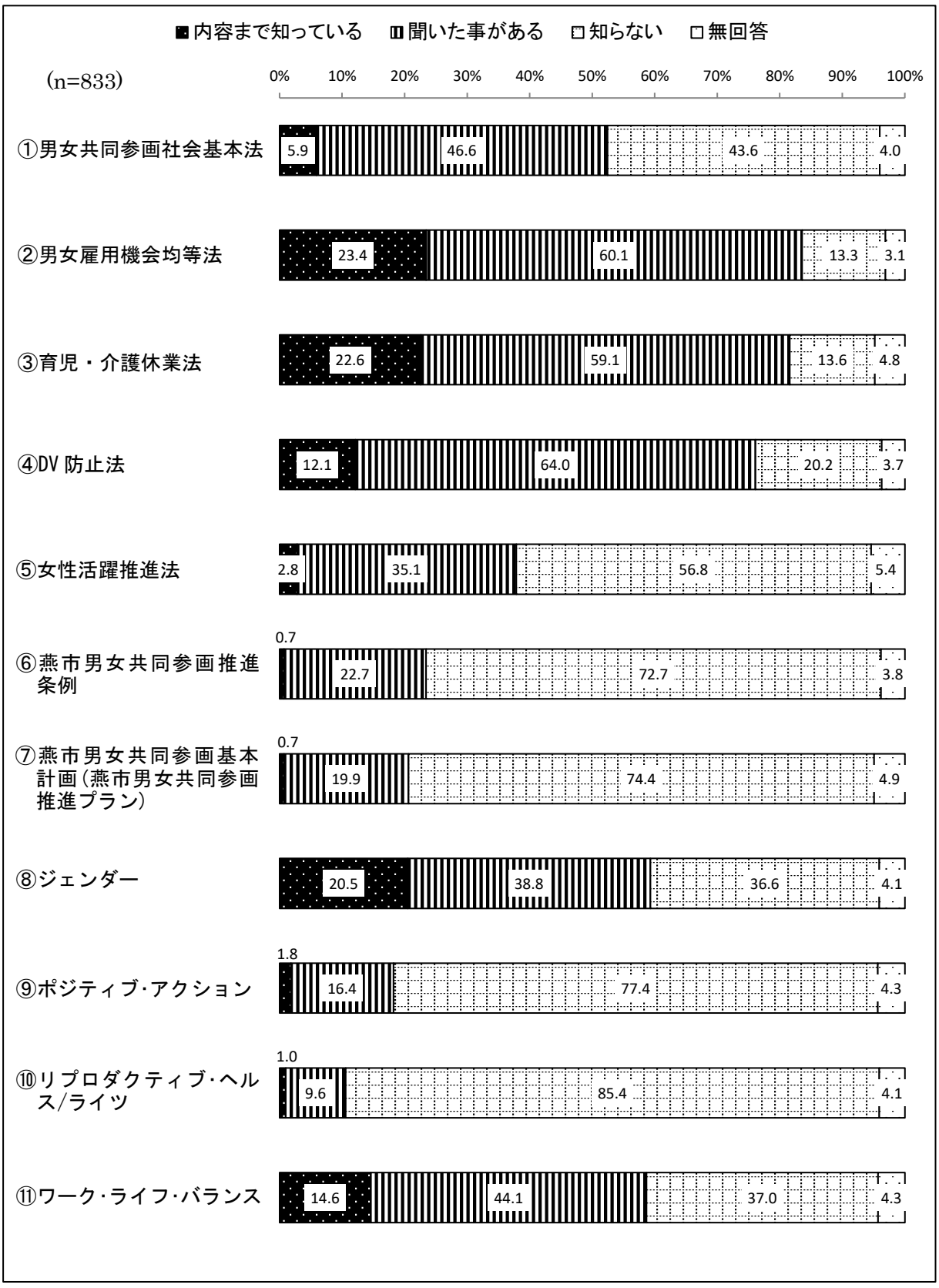


「自分にも悪いところがあると思ったから」（今回 21.7%、前回 39.5%）が 17.8 ポイント減少している。

６．男女共同参画社会に向けた法制度等について

(1) 男女共同参画社会に関する言葉の認知度

問１１　あなたは、次にあげるものの名称や言葉についてご存じですか。



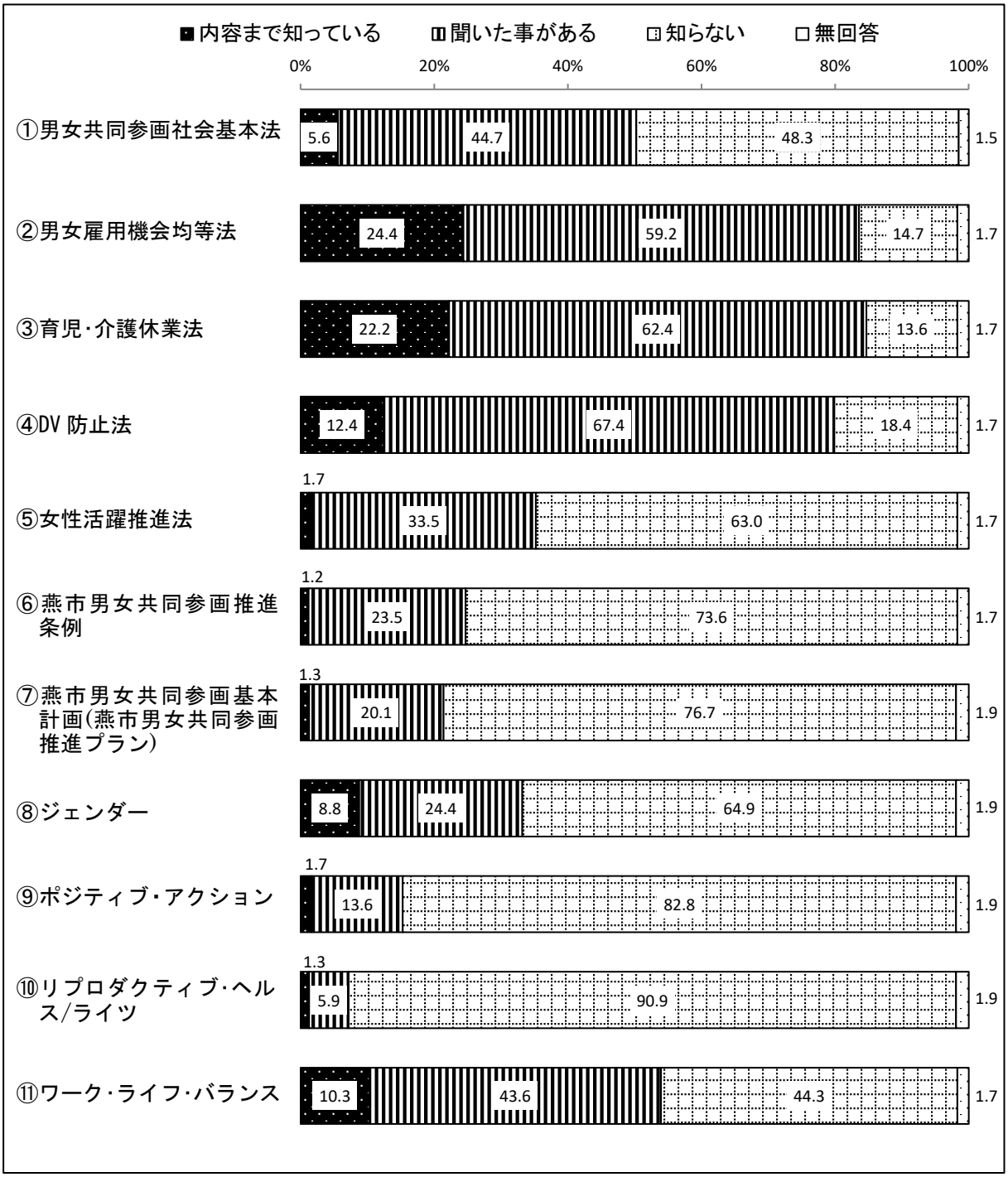
【全体結果】

『内容まで知っている』の割合が高いのは、②「男女雇用機会均等法」23.4%、③「育児・介護休業法」22.6%、④「ジェンダー」20.5%の順になっている。

『聞いたことがある』の割合が高いのは、④「ＤＶ防止法」64.0%、②「男女雇用機会均等法」60.1%、③「育児・介護休業法」59.1%、の順になっている。

『知らない』の割合が高いのは、⑩「リプロダクティブヘルス／ライツ」85.4%、⑨「ポジティブ・アクション」77.4%、⑦「燕市男女共同参画基本計画」74.4%、⑥「燕市男女共同参画推進条例」72.7%の順になっている。

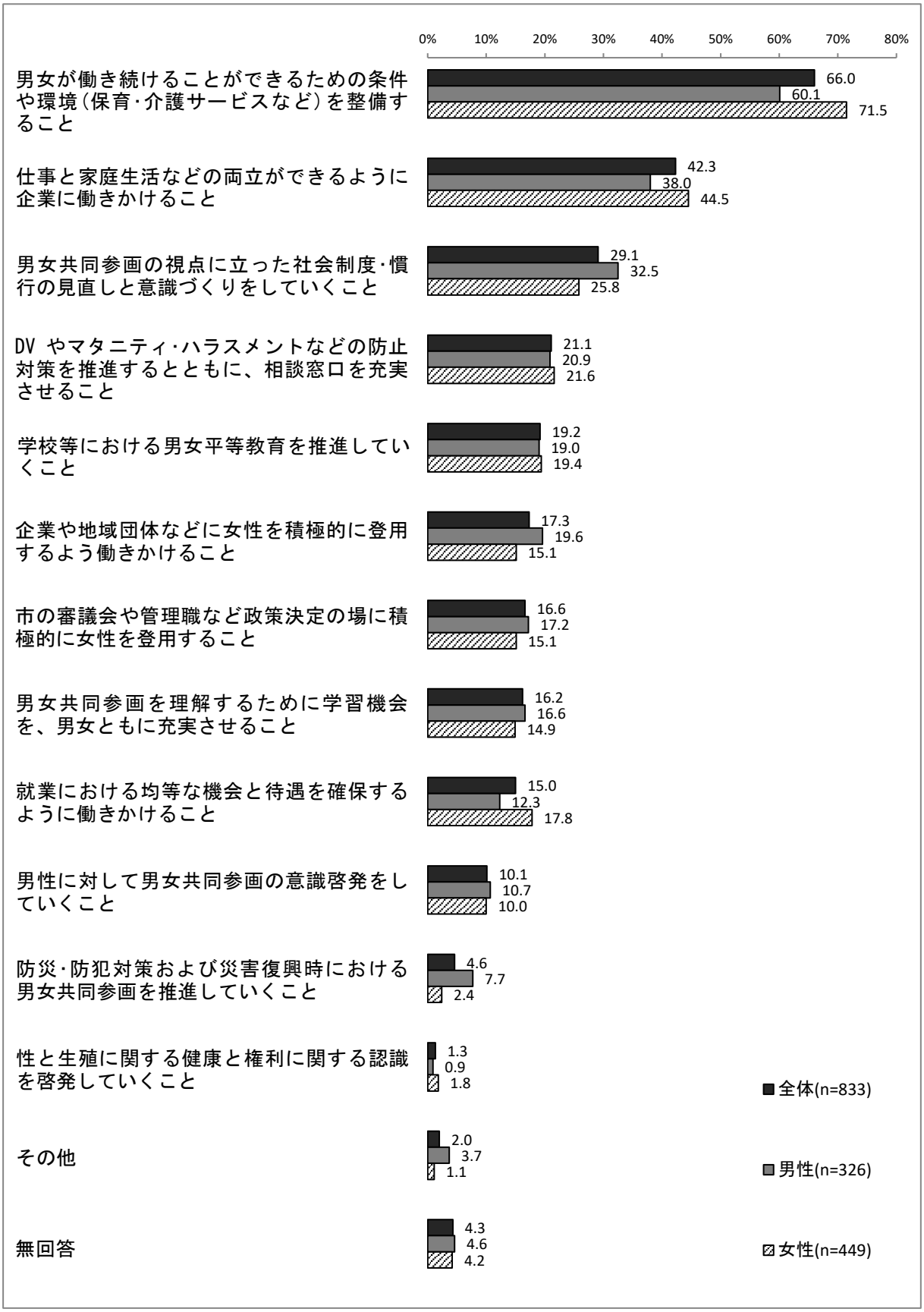
【前回調査（平成 27 年度）との比較】



⑧「ジェンダー」を『内容まで知っている』（今回 20.5%、前回 8.8%）は 11.7 ポイント増加し、⑪「ワーク・ライフ・バランス」を『内容まで知っている』（今回 14.6%、前回 10.3%）は 4.3 ポイント増加している。その他の言葉の認知度は、前回との大きな差は見られなかった。

(2) 男女共同参画社会推進のために市が力を入れるべきことについて

問１２　あなたは、男女共同参画を進めていくために、今後、市がどのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。（○は３つまで）



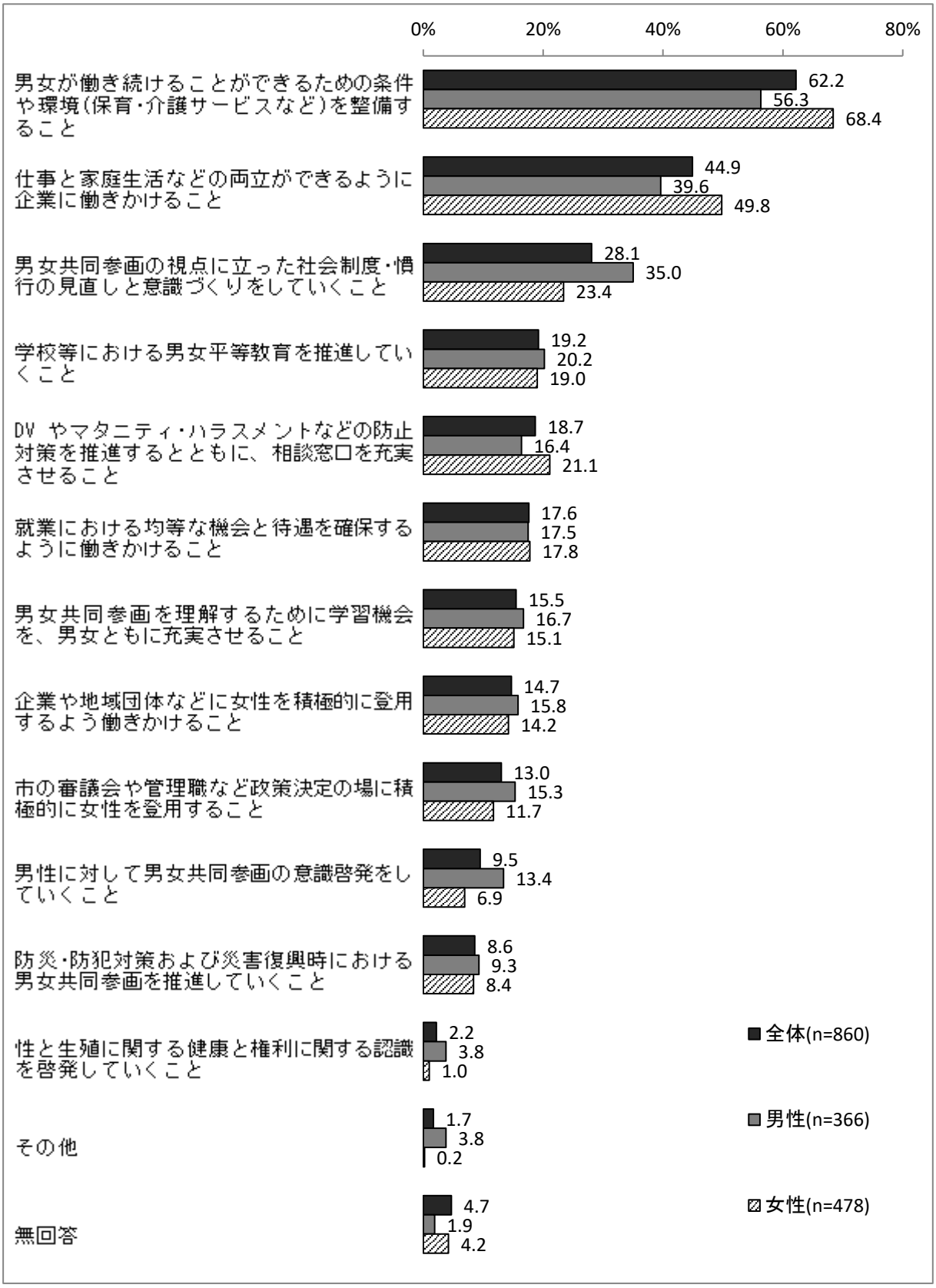
【全体結果】

「男女が働き続けることができるための、条件や環境（保育・介護サービスなど）を整備すること」が 66.0%で最も高く、次いで「仕事と家庭生活などの両立ができるように企業に働きかけること」（42.3%）、「男女共同参画の視点に立った社会制度・慣行の見直しと意識づくりをしていくこと」（29.1%）と続いている。

【性別による結果】

性別でみると、「男女が働き続けることができるための条件や環境（保育・介護サービスなど）を整備すること」（男性 60.1%、女性 71.5%）は、女性の方が 11.4 ポイント高くなっている。「男女共同参画の視点に立った社会制度や慣行の見直しと意識づくりをしていくこと」（男性 32.5%、女性 25.8%）は男性の方が 6.7 ポイント高くなっている。それ以外の項目は、男女で大きな差は見られなかった。

【前回調査との比較】



前回と大きな差はみられない。

（付）調　査　票

男女共同参画に関する市民意識調査

ご　協　力　の　お　願　い

市民の皆様には、日頃より市政にご理解とご協力をいただきまして、心から感謝申し上げます。

燕市では、すべての男女が性別にかかわりなく、互いの人権を尊重しながら、あらゆる状況で、その個性と能力を十分に発揮することのできる男女共同参画社会を、市民の皆様及び事業者と協働で実現するため、「燕市男女共同参画推進条例」を平成27年4月1日に施行いたしました。また燕市男女共同参画基本計画である「第3次燕市男女共同参画推進プラン（平成29年度～令和4年度）」を策定し様々な施策に取り組んでいるところです。

このたび、推進プランに基づいたこれまでの取り組みの成果を見るため、また、今後の施策の資料とするため、「男女共同参画に関する市民意識調査」を実施することにいたしました。

この調査は、市内にお住まいの満18歳以上の方の中から、無作為に選ばせていただいた2,000人を対象に実施するもので、このたび、あなた様にご協力いただくことになりました。調査は無記名で行い、その結果については、行政上の基礎資料として活用することを目的にしており、それ以外に使用することはありません。また、個人が特定されるようなことはありません。

お忙しいところ誠に恐縮ですが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

令和元年６月

燕市長　　鈴　木　　力

記入上のお願い

1．この調査は、個人の方を対象にしています。あなたご自身の判断で記入してください。
2．設問に対する答えは、用意されている選択肢の番号を○印で囲んでください。また、○印の数は１つだけ選ぶ設問と複数選ぶ設問がありますので、ご注意ください。
3．一部の方だけに答えていただく質問もありますが、その場合は矢印（→）で示したり、説明文がありますので、指示に従ってお答えください。
4．ご記入は、黒のボールペンまたは鉛筆でお願いします。
　ご記入後は、同封の返信用封筒に入れて、６月19日（水）までに投函してください。
5．調査について不明な点やご質問がありましたら、下記までお問い合わせください。

【お問い合わせ先】
燕市企画財政部　地域振興課　地域振興係
住　　所：〒959-0295　燕市吉田西太田1934番地
電話番号：(0256) 77-8361

男女共同参画に関する市民意識調査票

●男女の地位の平等について

【全員にお聞きします】

問１　次のような場面・分野において男女の地位の平等について、あなたのお考えに最も近いものはどれですか。①～⑧それぞれの項目ごとに○をつけてください。**（○はそれぞれ１つだけ）**

	男性が優遇されている	どちらかといえば男性が優遇されている	平等である	どちらかといえば女性が優遇されている	女性が優遇されている	わからない
①　家庭生活の中で	1	2	3	4	5	6
②　職場の中で	1	2	3	4	5	6
③　学校教育の場で	1	2	3	4	5	6
④　地域社会（自治会など）の中で	1	2	3	4	5	6
⑤　社会通念・慣習・しきたりで	1	2	3	4	5	6
⑥　法律や制度の面で	1	2	3	4	5	6
⑦　政治・経済活動の場で	1	2	3	4	5	6
⑧　社会全体として	1	2	3	4	5	6

●家庭生活等に関する考え方について

【全員にお聞きします】

問２　あなたは、次の①～④の考え方について、どのように思いますか。あなたの考え方に最も近いものを項目ごとに○をつけてください。**（○はそれぞれ１つだけ）**

	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
①　男性は仕事、女性は家庭を中心にするほうがよい	1	2	3	4
②　男性も女性と平等に家事・育児・介護をすべきである	1	2	3	4
③　子どもが小さいうちは母親が育児に専念すべきである	1	2	3	4
④　女性は仕事をもつのはよいが、家事・育児はきちんとすべきである	1	2	3	4

●仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）について

【全員にお聞きします】

問３　あなたの**平日の生活時間**を次の１～４に分けて考えると、それぞれ平均して何時間何分くらいになりますか。

（日曜・休日などは含めずにお考えください。１～４の合計が 24 時間に満たなくても結構です。）

１　家事・育児・介護などの時間	平均（　　）時間（　　）分
２　収入を得る仕事に使う時間（通勤時間含む）	平均（　　）時間（　　）分
３　睡眠時間	平均（　　）時間（　　）分
４　自分の自由になる時間	平均（　　）時間（　　）分

問４　あなたは、男性が育児休業・介護休業をとることについてどう思いますか。

①　～②の項目について、あなたの考えに最も近いものをそれぞれお選びください。**（○は１つだけ）**

	男性も積極的に取るべきである	男性も取ることは賛成だが、現実的には取りづらいと思う	女性が取る方が良いので取る必要は無い	わからない
①男性の育児休業	1	2	3	4
②男性の介護休業	1	2	3	4

【問４で「男性も取ることは賛成だが、現実的には取りづらいと思う」と答えた方にお聞きします】

問４－１　その理由は何だと思いますか。次の中から**３つまで**お選びください。**（○は３つまで）**

１　周囲に取った男性がいないから
２　職場に取りやすい雰囲気がないから
３　仕事が忙しいから
４　取ると仕事上周囲の人に迷惑がかかるから
５　取ると人事評価や昇給などに悪い影響があるから
６　上司や同僚の理解が得られないから
７　取ると経済的に困るから
８　その他（　　）

●女性の社会参画について

【全員にお聞きします】

問５　あなたは、女性の職業と生活設計についてどのように考えますか。次の中からお選びください。

（○は１つだけ）

1　結婚、出産の後も、仕事を持ち続ける方がよい
2　結婚を機に、一時家庭に入るが、育児などが一段落したら再び職業を持つ方がよい
3　出産を機に、一時家庭に入るが、育児などが一段落したら再び職業を持つ方がよい
4　結婚を機に、家庭に入る方がよい
5　出産を機に、家庭に入る方がよい
6　職業を持たない方がよい
7　その他（具体的に：　　）

問６　あなたは、**女性が働き続けるため**には、どのようなことが必要だと思いますか。次の中から**いくつでも**お選びください。**（○はあてはまるものすべて）**

1　賃金・昇給・昇進・昇格等の男女間格差解消
2　育児・介護休業制度の充実
3　フレックスタイム・在宅勤務など柔軟な勤務形態の導入
4　保育サービス（早朝・延長・休日・夜間・病後児・乳児保育）などの整備充実
5　介護サービス・施設などの整備充実
6　結婚・出産・育児・介護のために退職した社員の再雇用制度の充実
7　女性が働くことに対する家族や周囲の理解と協力
8　女性自身の自覚、意欲・能力の向上
9　男性の意識の変化
10　その他（具体的に：　　）
11　特にない
12　わからない

●男女の人権について

【全員にお聞きします】

問７　あなたは、配偶者やパートナーなどからの（への）精神的・身体的暴力（ＤＶ：ドメスティック・バイオレンス）を振るわれたり、振るったりした経験はありますか。　**（○は１つだけ）**

1	精神的・身体的暴力を振るわれたことがある	→ **問８ へお進みください**
2	精神的・身体的暴力を振るったことがある	→ **問 11 へお進みください**
3	経験はない	→ **問 11 へお進みください**

【問７で、「１」と答えた方にお聞きします】

問８　あなたは、このような行為を受けていることを、誰かに相談等をしましたか。　**（○は１つだけ）**

1	相談した	→ **問９ へお進みください**
2	相談しなかった	→ **問 10 へお進みください**

【問８で、「１」と答えた方にお聞きします】

問９　実際に、どこ（だれ）に相談をしましたか。次の中から**いくつでも**お選びください。

（○はあてはまるものすべて）

1　家族
2　友人・知人
3　同じ経験をした人
4　家庭裁判所・弁護士・警察など
5　公的機関（相談窓口・電話相談）
6　医師・カウンセラーなど
7　民間の機関など（ＮＰＯなど民間支援グループ）
8　その他（具体的に：　　）

【問８で、「２」と答えた方にお聞きします】

問 10　「相談しなかった」のはなぜですか。次の中から**いくつでも**お選びください。

（○はあてはまるものすべて）

1　相談するほどのことではないと思ったから
2　自分にも悪いところがあると思ったから
3　自分さえ我慢すれば、なんとかこのままやっていけると思ったから
4　相談しても無駄だと思ったから
5　恥ずかしくてだれにも言えなかったから
6　どこ（だれ）に相談してよいのかわからなかったから
7　相談したことがわかると、仕返しを受けたり、もっとひどい暴力を受けたりすると思ったから
8　その他（具体的に：　　）

●男女共同参画社会に向けた法制度等について

【全員にお聞きします】

問11　あなたは、次にあげるものの名称や言葉についてご存じですか。項目ごとに○をつけてください。

（○はそれぞれ１つだけ）

	内容まで知っている	聞いたことがある	知らない
①　男女共同参画社会基本法	1	2	3
②　男女雇用機会均等法	1	2	3
③　育児・介護休業法	1	2	3
④　配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律（ＤＶ防止法）	1	2	3
⑤　女性の職業生活における活躍の推進に関する法律（女性活躍推進法）	1	2	3
⑥　燕市男女共同参画推進条例	1	2	3
⑦　燕市男女共同参画基本計画（燕市男女共同参画推進プラン）	1	2	3
⑧　ジェンダー（社会的性別）	1	2	3
⑨　ポジティブ・アクション（積極的格差是正措置）	1	2	3
⑩　リプロダクティブ・ヘルス/ライツ（性と生殖に関する健康と権利）	1	2	3
⑪　ワーク･ライフ･バランス（仕事と生活の調和）	1	2	3

問12　あなたは、男女共同参画を進めていくために、今後、市がどのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。　次の中から**３つまで**お選びください。　**（○は３つまで）**

1　男女共同参画の視点に立った社会制度・慣行の見直しと意識づくりをしていくこと
2　学校等における男女平等教育を推進していくこと
3　男女共同参画を理解するための学習機会を、男女ともに充実させること
4　ＤＶ（ドメスティック・バイオレンス）やマタニティ・ハラスメントなどの防止対策を推進するとともに、相談窓口を充実させること
5　企業や地域団体などに女性を積極的に登用するよう働きかけること
6　市の審議会や管理職など政策決定の場に積極的に女性を登用すること
7　男女が働き続けることができるための条件や環境（保育・介護サービスなど）を整備すること
8　就業における均等な機会と待遇を確保するよう働きかけること
9　仕事と家庭生活等の両立ができるよう企業に働きかけること
10　性と生殖に関する健康と権利に関する認識を啓発していくこと
11　防災・防犯対策および災害復興時における男女共同参画を推進していくこと
12　男性に対して男女共同参画の意識啓発をしていくこと
13　その他（　　）

●ご意見・ご要望等

今後、男女共同参画を推進していくためには、どのように取り組んでいけばよいかご意見・ご要望・ご提案などございましたら、自由にご記入ください。

◆ 最後に、ご回答を統計的に分析するために、あなたご自身のことについておたずねします。

【全員にお聞きします】

Ｆ１　あなたの性別を教えてください。　**（○は１つだけ）**

１　男　　性　　２　女　　性

Ｆ２　あなたの年齢を教えてください。　**（○は１つだけ）**

１　１９歳以下	２　２０～２９歳	３　３０～３９歳	４　４０～４９歳
５　５０～５９歳	６　６０～６９歳	７　７０歳以上	

Ｆ３　あなたの職業を教えてください。　**（○は１つだけ）**

１　自営業・家族従事者（農林漁業）
２　自営業・家族従事者（商業）
３　自営業・家族従事者（工業）
４　その他の自営業（開業医、弁護士、宗教家、芸術家など）
５　正社員・正職員
６　パート・アルバイト・派遣社員・契約社員
７　内職・在宅ワーク
８　専業主婦・主夫
９　学生
10　無職
11　その他（　　）

Ｆ４　あなたは現在結婚していますか。　**（○は１つだけ）**

１　結婚している（同棲、事実婚を含む）　　→　**Ｆ５へお進みください**
２　離別・死別
３　未婚

【Ｆ４で「結婚している」と答えた方にお聞きします】

Ｆ５　あなたは共働きですか、それとも夫婦どちらか一方が働いているご家庭ですか。

（○は１つだけ）

１　共働きしている（パートタイムなどを含む）
２　夫のみが働いている
３　妻のみが働いている
４　夫婦とも働いていない（退職した場合を含む）

お忙しいところ、ご協力いただき誠にありがとうございました。ご記入いただきました調査票は、同封の返信用封筒（切手不要）に入れて、**6 月 19 日（水）までにご投函くださいますようお願いいたします。**

令和元年度

男女共同参画に関する市民意識調査

報　告　書

令和元年 10 月発行

燕市 企画財政部 地域振興課

〒959-0295　燕市吉田西太田 1934 番地

電話番号　(0256) 77-8361